

3. 第11次調査



概要

第11次調査区は新幹線の南側、第2次調査区の北側の中間に位置する。台地の肩の部分から西側に傾斜して小支谷入り込む部分に位置していた。遺構は斜面部のかなり下の部分にまで検出された。

遺構は、縄文時代早期～後期の竪穴住居跡・土壙・炉穴、古墳時代前期の竪穴住居跡群・方形周溝墓、中・近世期の土壙・溝・地下式坑などが検出された。

縄文時代

縄文時代早期・前期に属する遺構は、遺跡の中央部付近から西側斜面にかけて分布していた。竪穴住居跡が3軒検出された。他に、土壙・炉穴が少量見つかり、縄文時代早期条痕文系の土器群がわずかではあるが出土している。

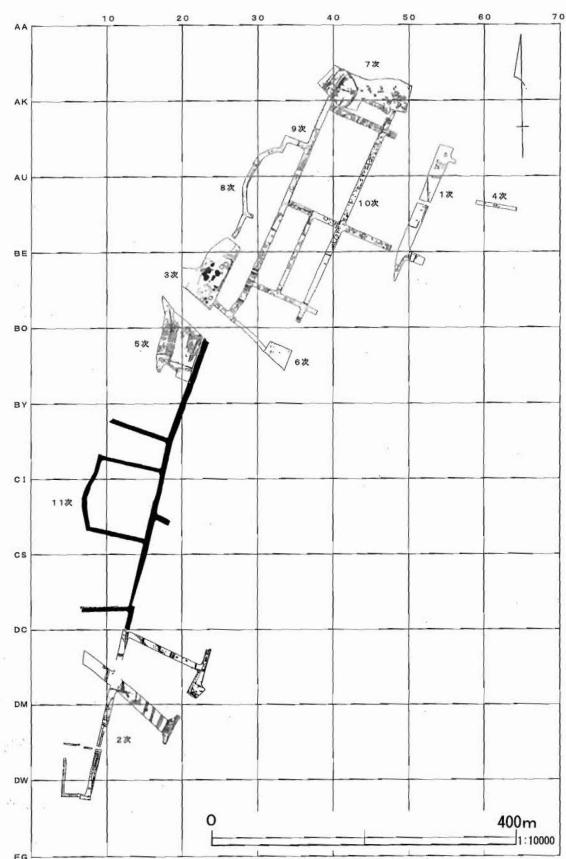
古墳時代前期

古墳時代前期に属する遺構は、調査区の北側から中央部にかけて検出された。第5次調査区から連続する集落の南限と思われる。竪穴住居跡が5軒と方形周溝墓が1基であった。竪穴住居跡からは従来見つかっている土器群とは様相の異なった土器が出土した。神奈川県や東海地方に繋がって行く土器群である。方形周溝墓からは底部穿孔の壺が3個体出土し、櫛描波状文の施文された飾り壺が含まれていた。

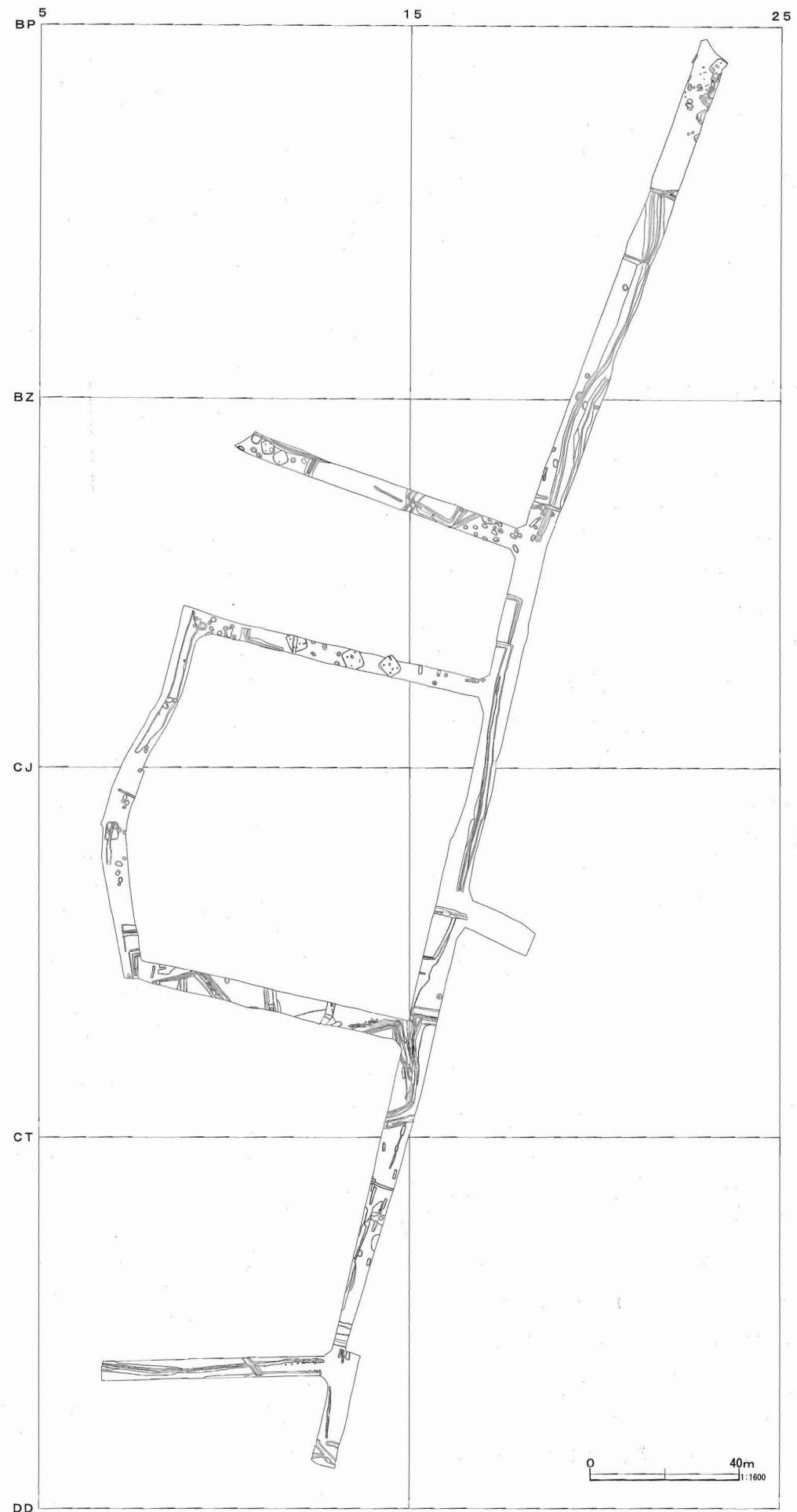
中・近世期

遺跡全体から多くの溝が検出されている。長方形状の土壙も検出されているが、第10次調査などよりは少ない。調査区北側では、地下式坑も検出された。これらの多くは、陶磁器類の小破片が出土するだけで、良好な遺存状態の遺物は出土しなかった。

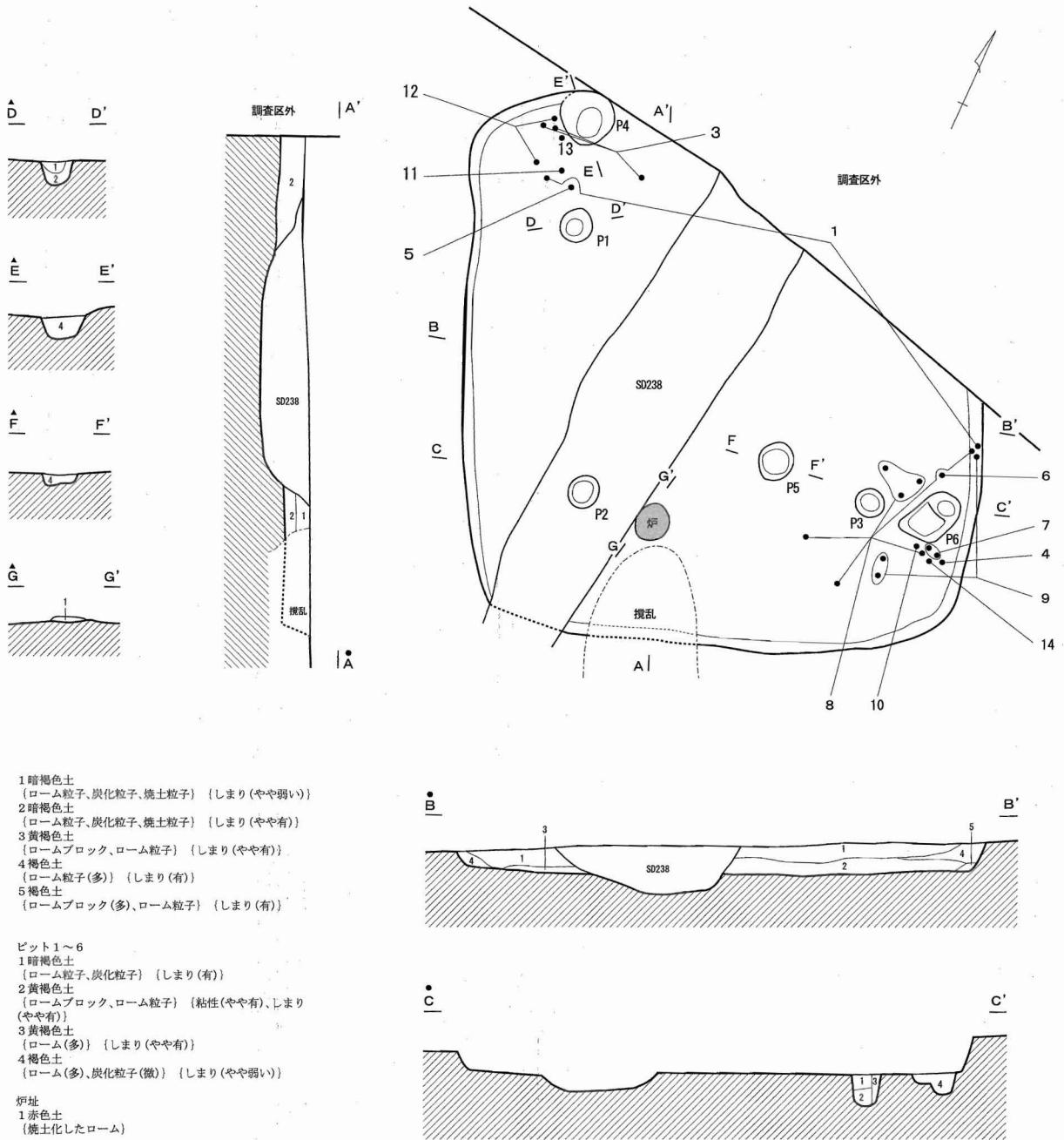
第93図 向原遺跡グリッド配置図（11次）



第94図 第11次調査区全体図



第95図 第90号住居跡



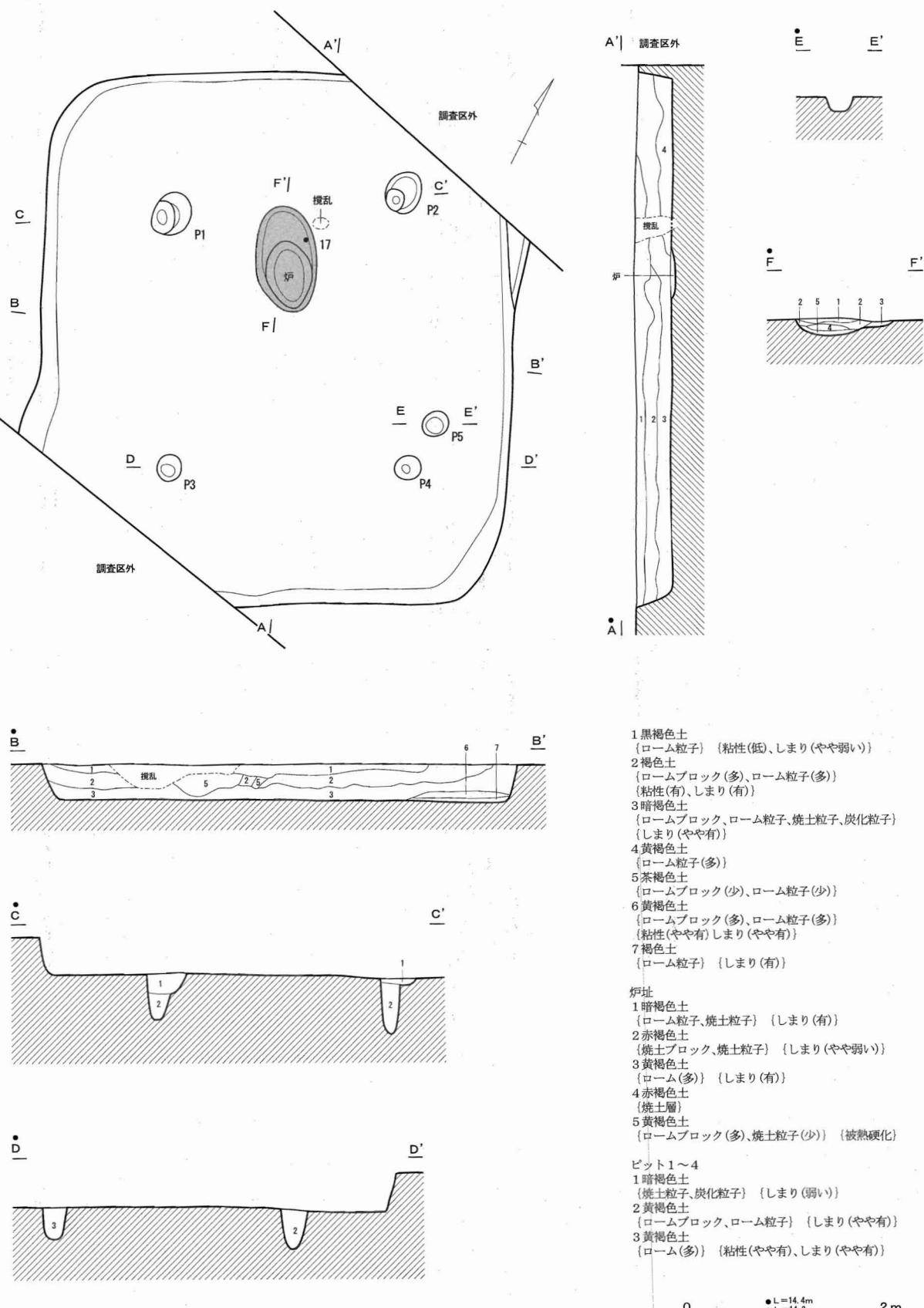
(1) 住居跡

第90号住居跡（第95図、第97図、図版90）

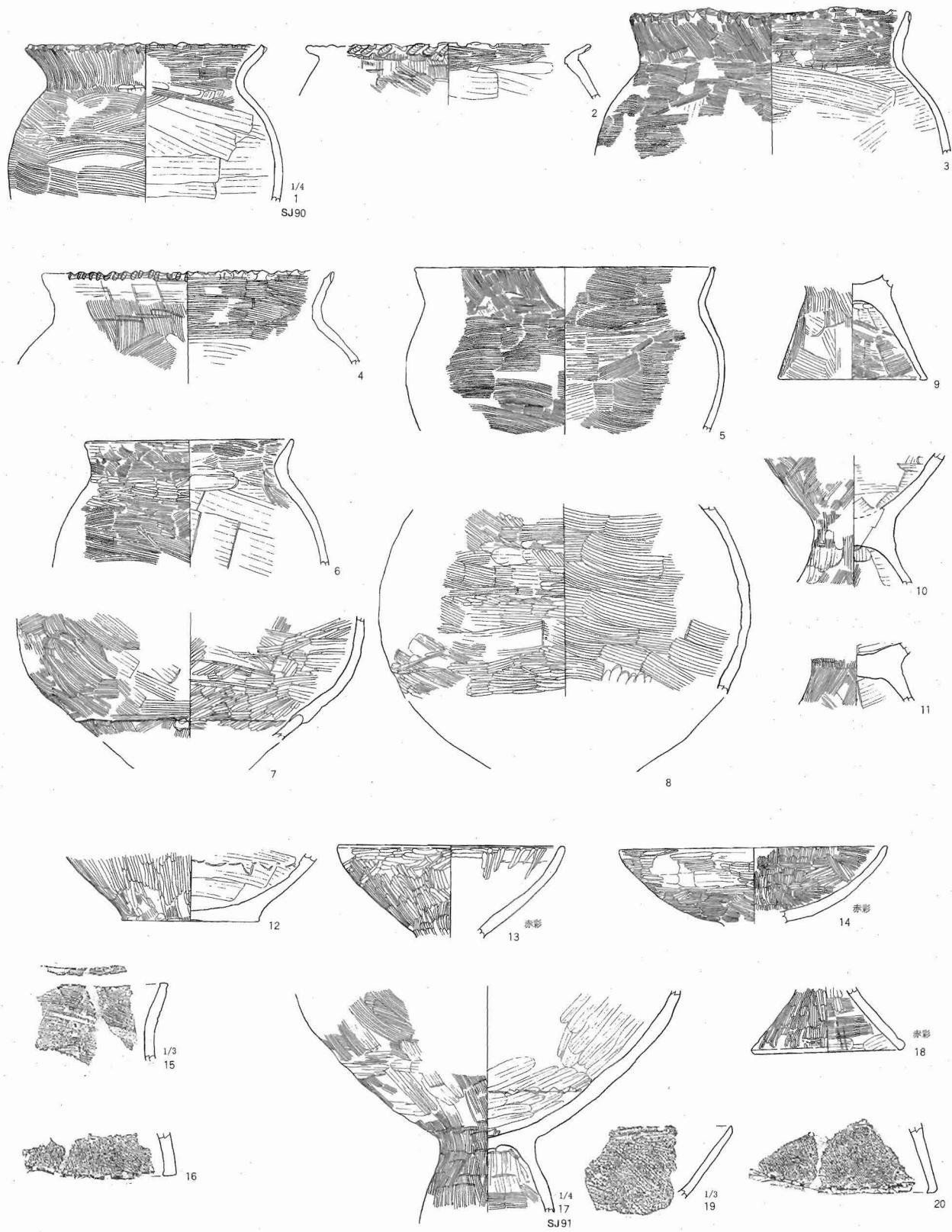
CF-11・CF-12グリッドにかけて検出された。中央部分は近世期の溝に切られている。北側部分は調査区域外であった。付近には第91号住居跡、第92号住居跡があった。長径約5.0m、短径約4.8mの隅丸方形をしていた。確認面から深さは、0.25mと浅かつ

た。柱穴は6箇所検出したが、主柱穴はP1、P2、P3の3本と思われる。深さは0.3m内外であった。炉跡は中央から南に寄って検出された。直径0.3m前後の小さなものであった。よく焼けていたが、多少焼土が浮いているため、断定は難しい。現場での判断を優先した。覆土の埋まり具合は、自然堆積であった。

第96図 第91号住居跡



第97図 第90・91号住居跡



— 122 —

遺物は大部分が破片であったが、かなりの数復元実測できた。ほとんどが甕であった。1は甕上半部で、頸部から外反する。表面は小口ナデA、裏面胴部は小口ナデBで調整されている。口唇部には小口状の工具による刻みが加えられる。刻みは強く口縁部が多少凸凹する。裏面からの押さえによってわずかに受口状になる。口唇部にも小口ナデが行われる。2は、甕口縁部であるが、本遺跡では特異な器形である。外反する頸部が極めて短い。口唇部に加えられる刻みが深く大きく、口縁部に凹凸を造出す。口唇部にも小口ナデが行われる。3は立ち気味の口縁部を持つ。4も比較的外反は緩い。両者ともに口唇部の刻みは強く、端部が凹凸になる。また、押さえによって内面がわずかに窪む。

5は口縁部が広い甕。口唇部に刻みがある。6は口径が狭く、胴の長い台付甕で口縁部に刻みはなく、器壁が厚い。7・8は甕の胴下半部。9~11は台付甕の台部である。12は壺底部。13、14は高坏の坏部である。13は深さがあるが、14は浅い。両者ともにミガキは入念である。古墳時代前期と思われる。

第91号住居跡（第96図、第97図、図版19）

CF-13、CG-14グリッドで検出された。南北両コーナ部分が調査区域外であった。付近には第91号住居跡、第93号住居跡があった。長径約5.5m、短径約4.8mの隅丸長方形をしていた。確認面からの深さは0.4m前後であった。柱穴は4箇所で確認できた。深さは0.4m前後と安定していて、かなりしっかりしていた。炉跡は中央部からやや北寄りに検出

第15表 土器観察表(10)

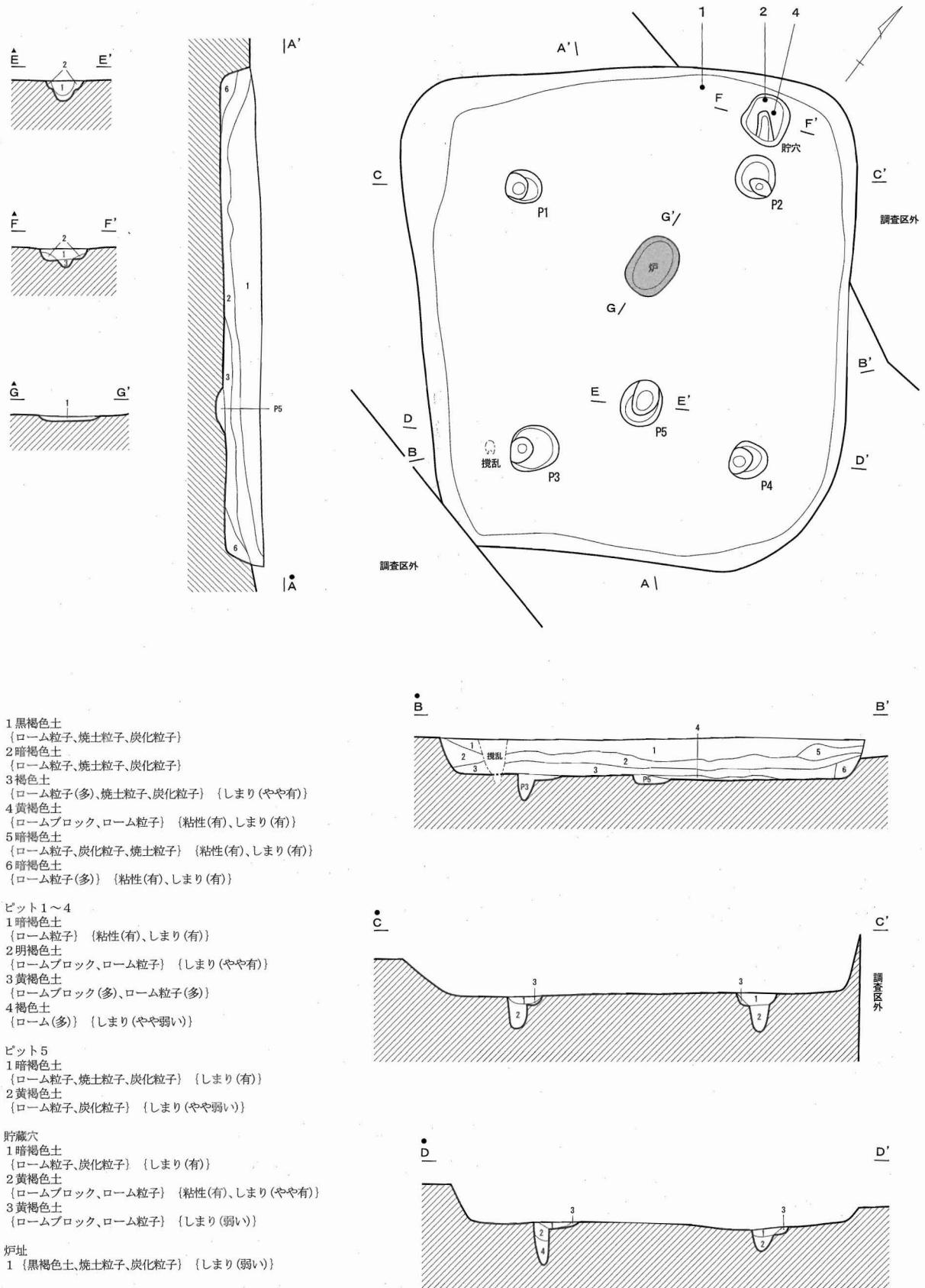
第90号住居跡

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	台付甕	(16.2)	(11)	—	B 3、B 4	A	赤褐色	SJ1 №12.49	
2	甕	(19.8)	(3.8)	—	B 4	B	淡黄褐色	SJ1	
3	甕	(19)	(10)	—	A	A	褐色	SJ1 №4. 5.16	
4	甕	(20.2)	(7.2)	—	B 4	A	表(赤褐色) 裏(褐色)	SJ1 №40	
5	甕	(20.6)	(11.3)	—	B 3、B 4	A	赤褐色(黒斑あり)	SJ1 №11	
6	甕	(14.3)	(13.8)	—	B 4	A	褐色土	SJ1 №47	
7	壺	—	(24)	—	A	A	表(黒色) 裏(赤褐色)	SJ1 №40.41	
8	壺	—	(13.5)	—	B 4	A	暗赤褐色	SJ1 №31.34.41~44.49	
9	台付甕	—	(7.1)	(10.2)	A	A	うすい赤褐色	SJ1 №35.37.49	
10	台付甕	—	(9)	—	A	A	赤褐色	SJ1 №17.39	
11	台付甕	—	(4.2)	—	B 4	A	赤褐色	SJ1 №8	
12	壺	—	(4.7)	(9.4)	B 4	A	うすい赤褐色	SJ1 №3. 7	
13	高坏	(18.6)	(5.1)	—	B 3、B 4	A	にぶい赤褐色	SJ1 №40	
14	高坏	(15.8)	(6.4)	—	A	A	赤褐色	SJ1 №6	

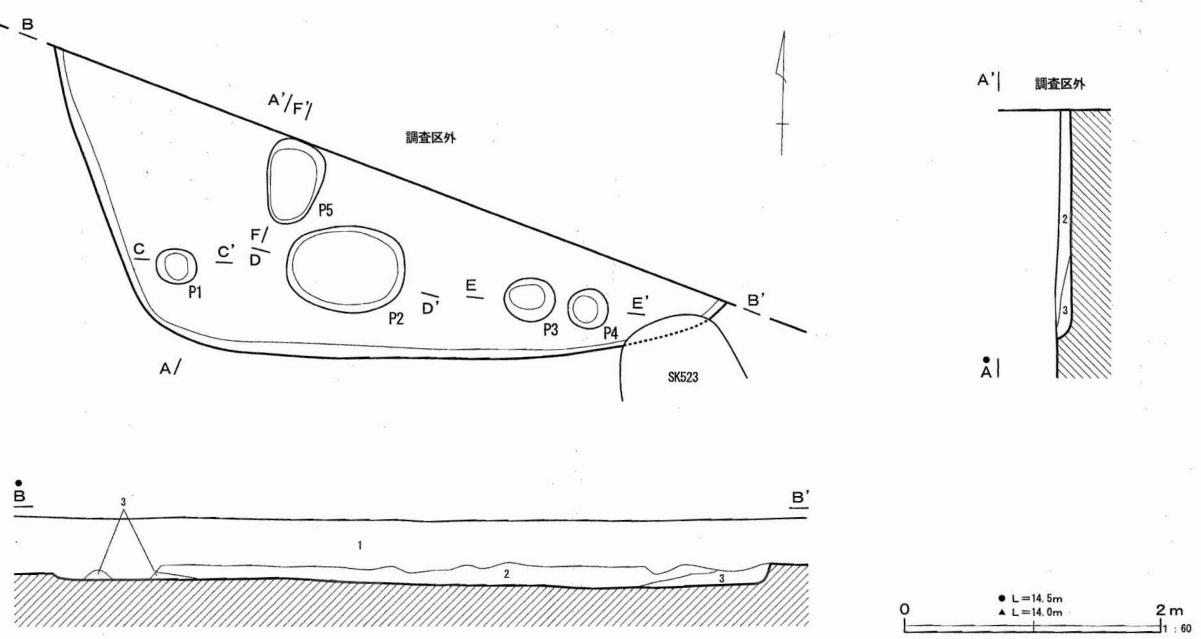
第91号住居跡

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	台付甕	—	(15.5)	—	A	A	暗赤褐色(黒斑あり)	SJ 2 №1	
2	高坏		3.9	(10.6)	B 4	A	橙色	SJ 2	

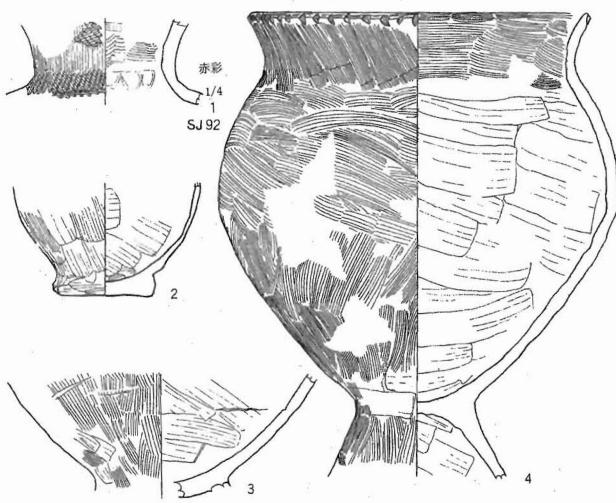
第98図 第92号住居跡



第99図 第92・93号住居跡



ピット3	1 暗褐色土 (ローム(多)) [しまり(やや有)] 2 暗褐色土 (ロームブロック(少)、炭化粒子(微))
ピット4	1 暗褐色土 (ロームブロック(微)、ローム(多)) [粘性(有)、しまり(有)]
ピット5	1 暗褐色土 (ローム(多)、炭化粒子(少))
ピット1	1 暗褐色土 (ロームブロック(少)、ローム(多)) [しまり(有)]
ピット2	1 暗褐色土 (ローム(多)) [粘性(有)、しまり(有)]



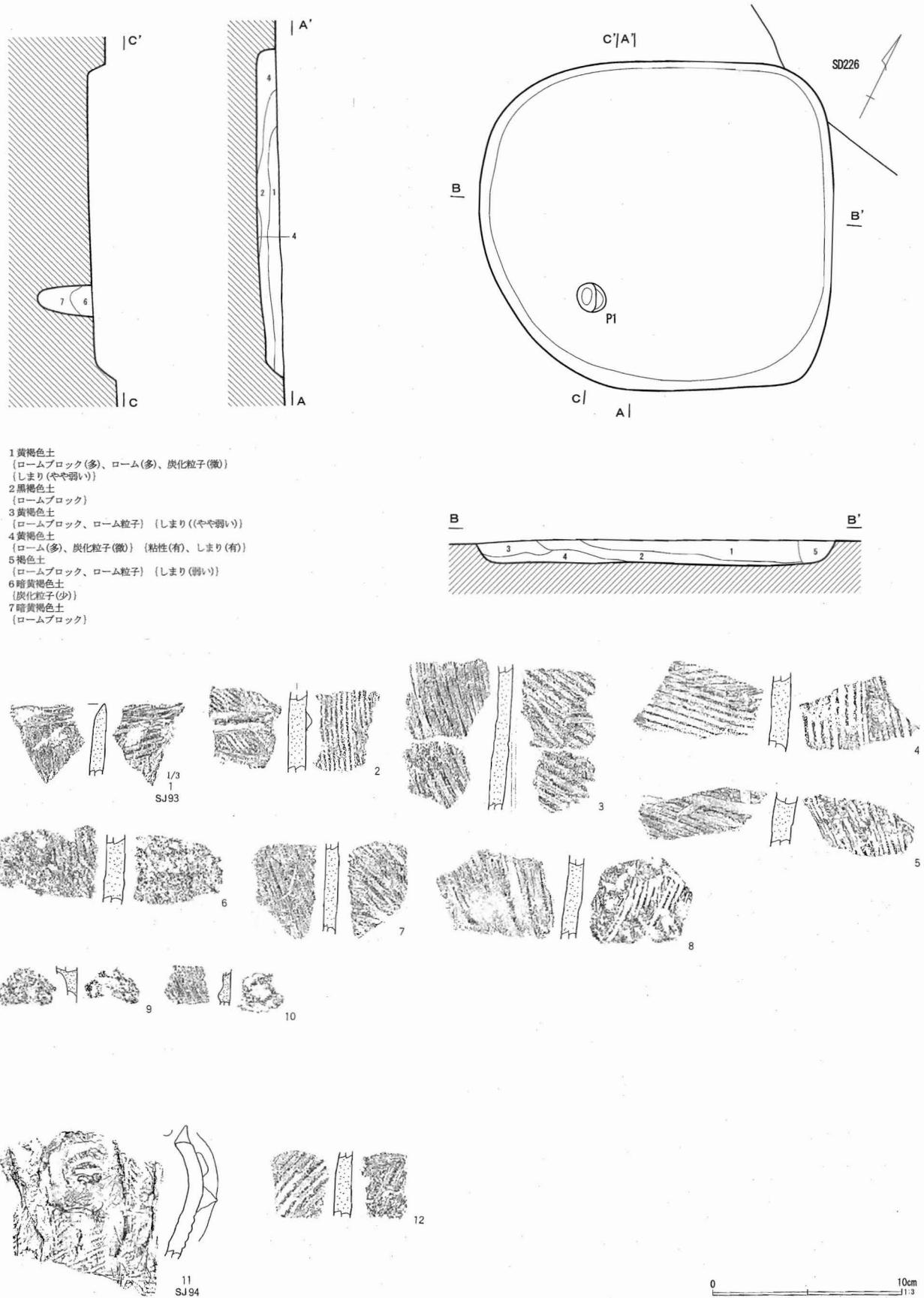
された。楕円形をしていてよく焼けていた。床面も固くしまっていた。覆土の埋設状況は自然堆積であった。

遺物は、炉跡付近からわずかに見つかった。17は台付甕の胴下半部で台部と胴部の接合の状況がよくわかる。18は高坏の脚部。19は高坏の坏部で、小口ナデが残っていて、かなり薄手である。時期は古墳時代前期と思われる。

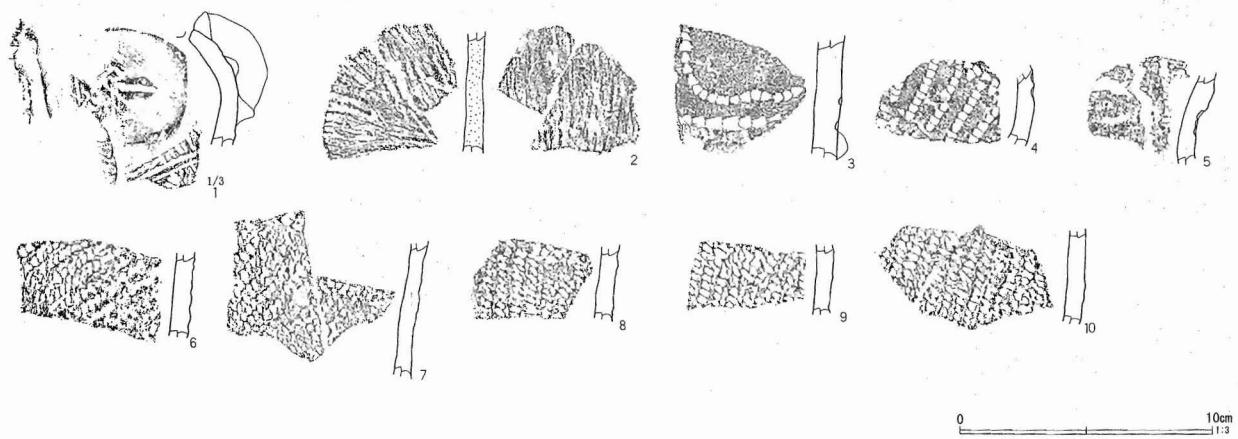
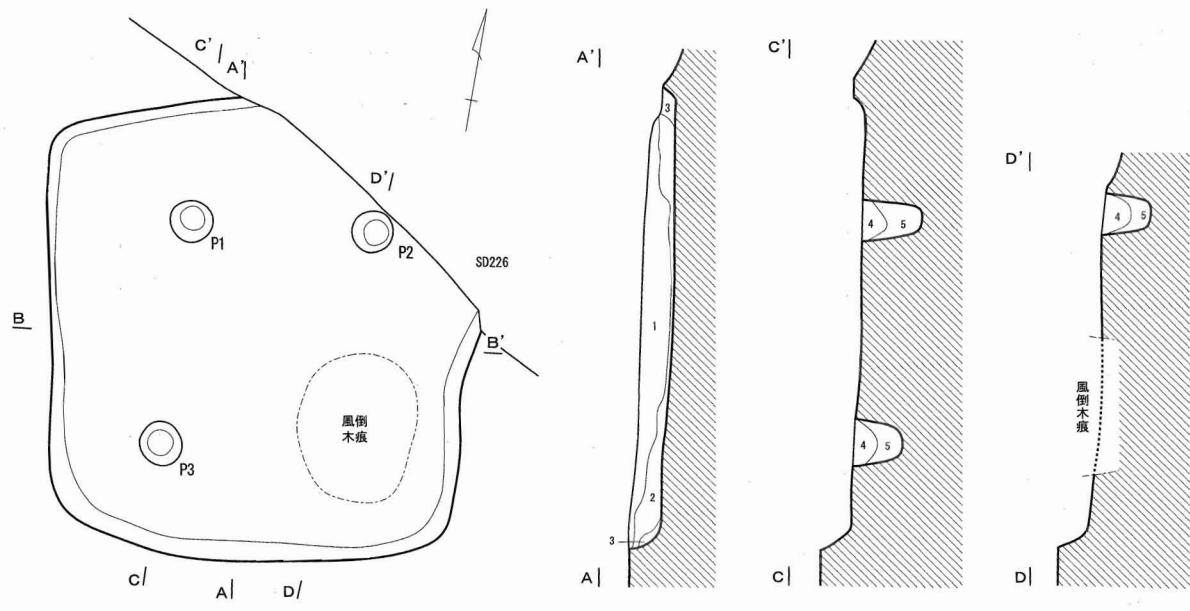
第92号住居跡（第98図、第99図、図版20）

CF-14・CG-14グリッドで検出された。南側コーナー部がわずかに調査区外であった。付近には91号住居跡があった。長径約5.1m、短径約4.5mの隅丸方形をしていた。確認面からの深さは約0.4m前後

第100図 第93・94号住居跡



第101図 第95号住居跡



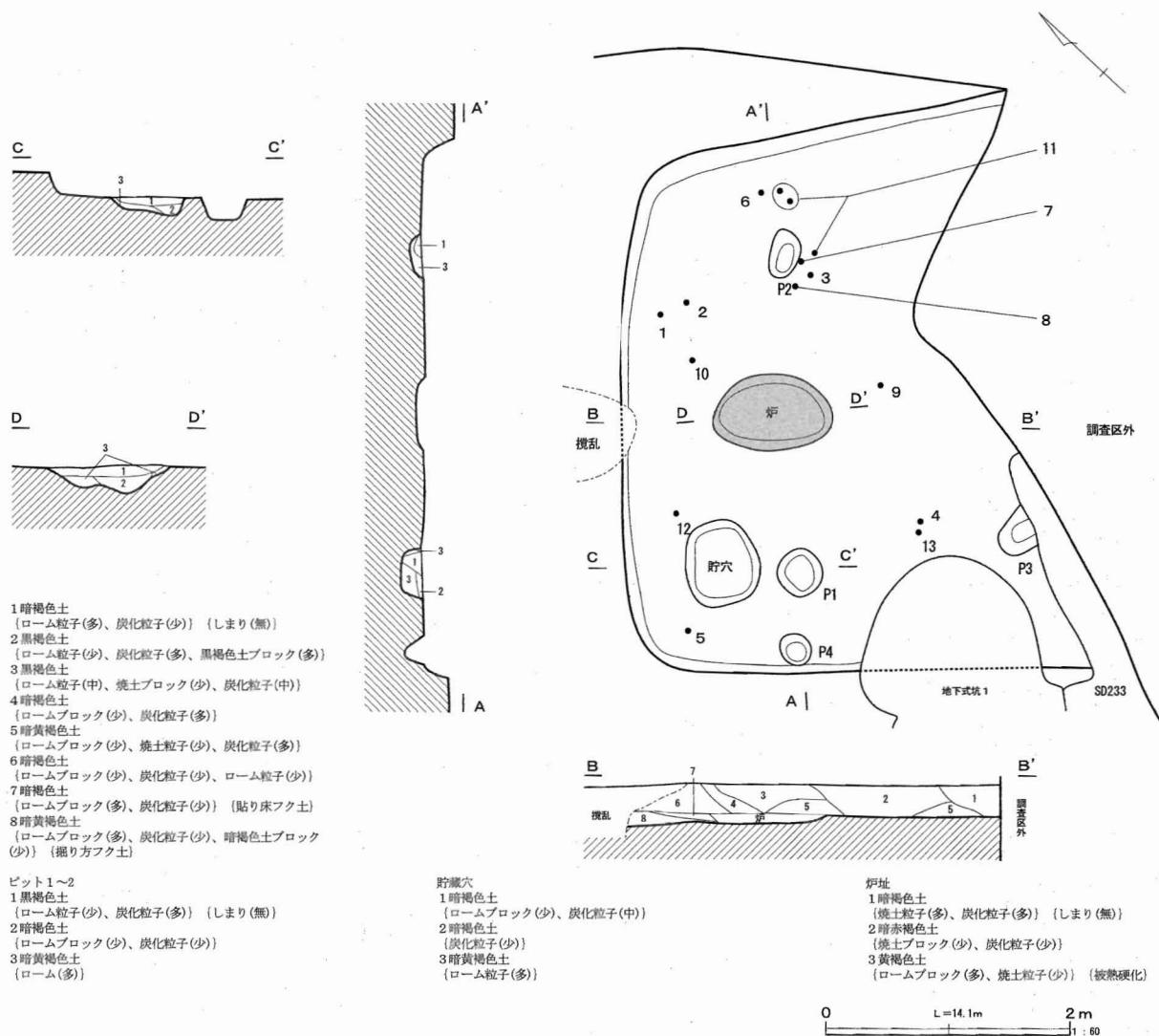
0 10cm 1:3

第16表 土器観察表 (11)

第92号住居跡

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	小型壺		-3.3		A	C	うすい黄褐色	SJ3	
2	小型壺	—	-5.9	4.8	B 4	B	橙褐色	SJ3. No. 4	
3	台付甕		-6.5		B 4	A	赤褐色	SJ3. No. 5	
4	台付甕	18	-24.5	—	B 4	A	黒褐色	SJ3. No. 1	

第102図 第96号住居跡（1）



であった。柱穴は5箇所確認された。P1～P4が主柱穴と思われる。深さは0.4m前後で掘っている。掘方があり、小径の柱穴が掘られる。北側コーナ部に貯蔵穴と思われるピットが検出された。深さ0.15m前後の浅いもので付近から土器破片が多く出土した。炉跡は中央からやや北寄りに検出された。楕円形をしていてよく焼けていた。床面は固くよくしまっていた。埋土の堆積状況は、自然堆積であった。

遺物は貯蔵穴付近から少数出土した。1は飾り壺の頸部破片である。表面に0段多条の縄文が施文されている。2は長胴壺の底部。3は台付甕の胴部下

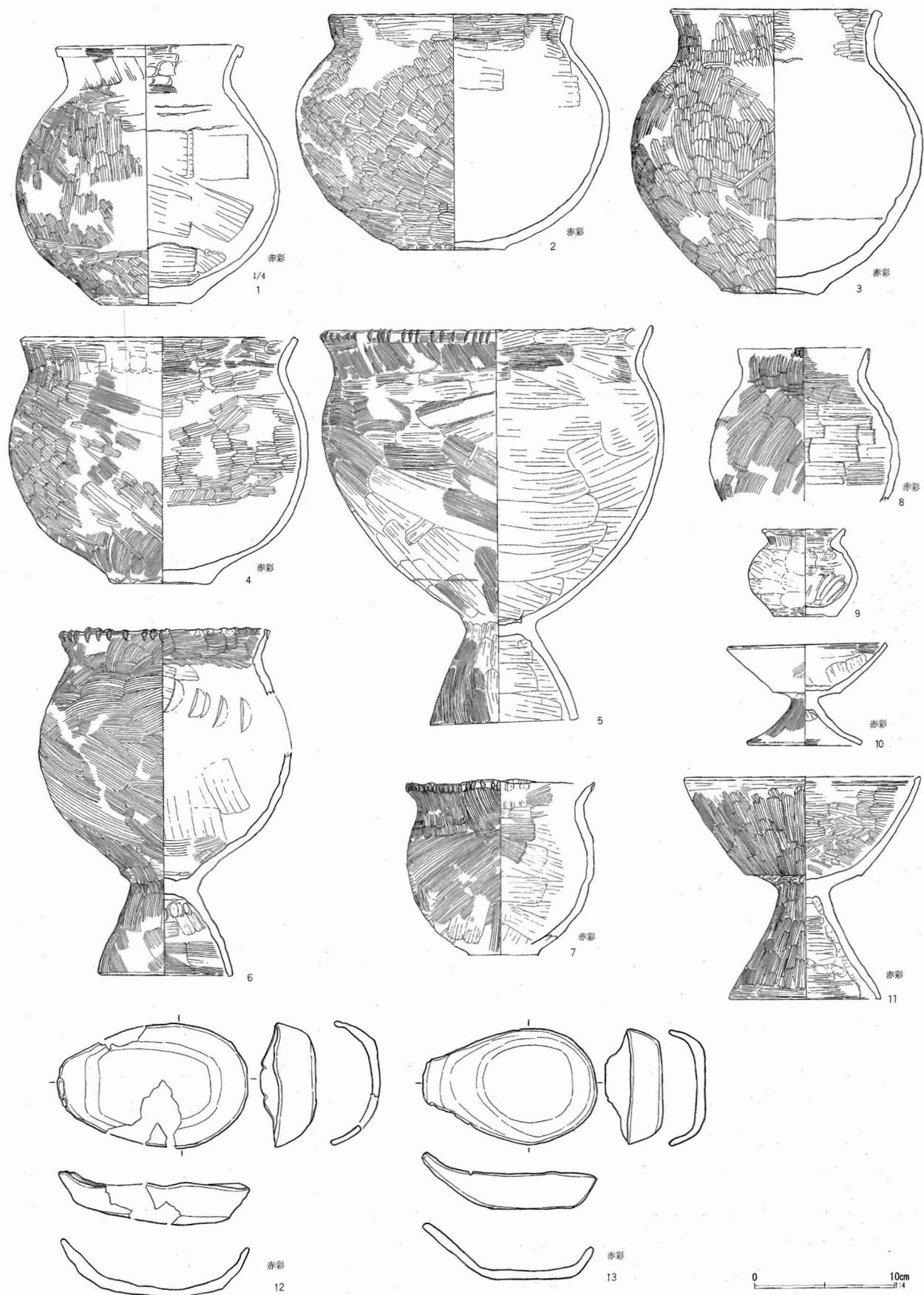
半である。4は台付甕で台部端が欠ける。口縁部は立ち気味に外反する。口唇部に刻みがあるが深いものである。胴部の最大径は上半部にある。内面は小口ナデBである。時期は古墳時代前期と思われる。

第93号住居跡（第101図、第102図、図版20）

CC-16・CC-17グリッドで検出された。遺構北側の大部分は調査区域外であった。付近には、同時代の土壙が多数検出された。規模は不明であるが、長径5.0m前後の長方形をしていたものと思われる。

遺物は、縄文時代早期の土器破片が少数出土した。いずれも縄文時代早期後半条痕文系に属するもので

第103図 第96号住居跡（2）



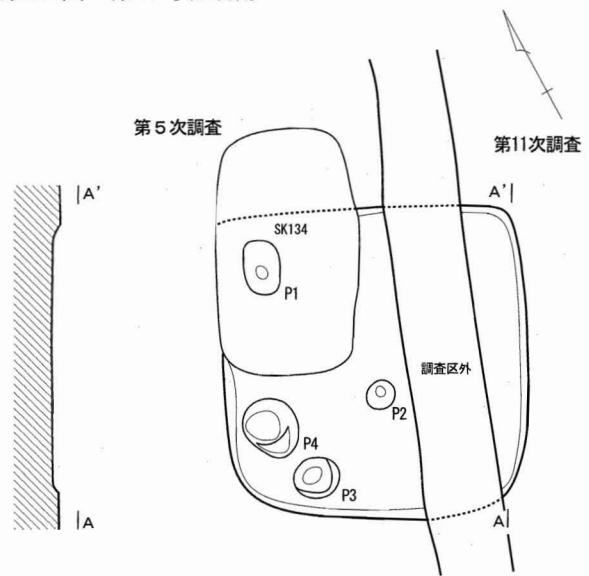
あった。胎土に纖維を含む。表裏条痕である。1は口縁部破片で、内側が削がれたような断面形状をしていた。2は条痕文上に隆起線が貼り付けられている。他は胴部破片である。時期は縄文時代早期後半と思われる。

第94号住居跡（第99図、第100図）

CA-11グリッドで検出された。北東側コーナーの一部が溝に切られている。付近には第94号住居跡があった。長径・約3.8m、短径・約3.5mの不整長方形をしていた。確認面からの深さは約0.2mであった。床面は軟弱で、炉跡などは検出できなかった。柱穴は南側に1箇所検出された。深さ・約0.6mであった。埋土の状況は自然堆積であった。

遺物は極少数で、図示できるものは2片であった。1は内彎する口縁部。半截竹管による沈線文を地文として丈の高い断面三角形状の沈線文が貼り付けられている。縄文時代前期後半の土器であろう。12は纖維を含む表裏条痕の土器である。時期は縄文時代に属すると思われるが詳しい時期については判断できない。

第104図 第16号住居跡



第95号住居跡（第100図、第101図、図版20）

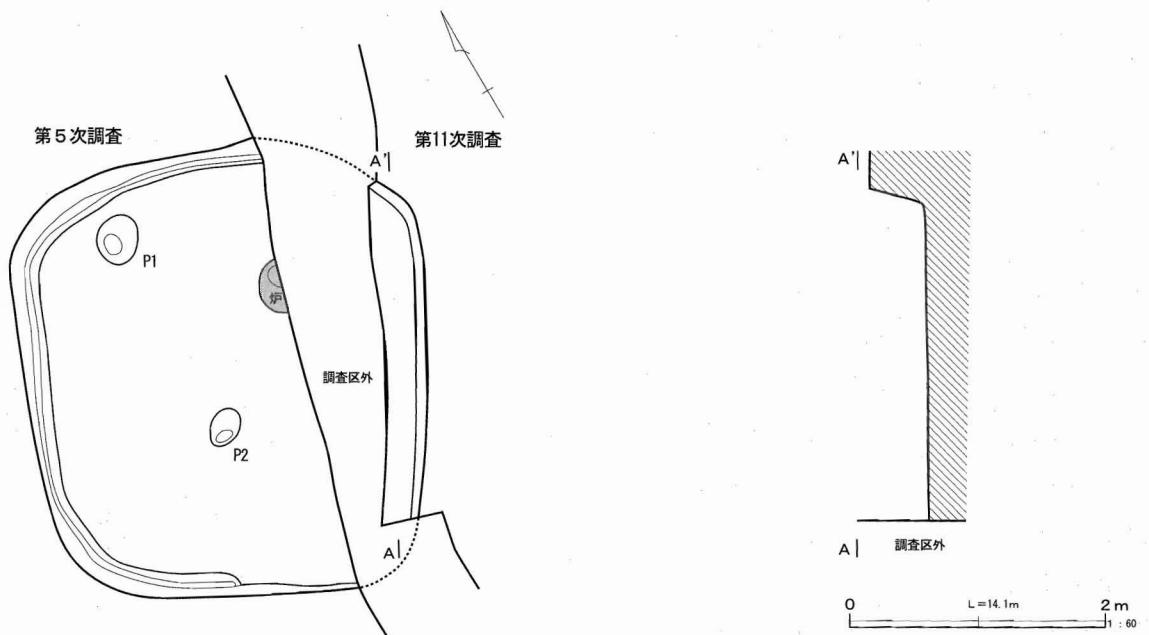
CA-10・CA-11グリッドで検出された。北東コーナー一部分が溝で切られていた。南東部分には攪乱があった。長径・約3.7m、短径・約3.3mの長方形をしていた。確認面からの深さは約0.3mであった。柱穴は3箇所で検出された。深さは0.3m～0.5mでしっか

第17表 土器観察表(12)

第96号住居跡

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	壺	(13.6)	18.7	6.6	B 4	B	うすい赤褐色	SJ7 Na13	
2	広口壺	(17)	7.5	16.9	B 4	B	暗赤褐色	SJ7 Na13	
3	広口壺	19.8	17.8	7	B 4	A	赤褐色	SJ7 Na 6	
4	広口壺	15.2	20.3	7.4	B 3、B 4	A	赤褐色	SJ7 Na 9	
5	台付甕	23.7	28.4	10.7	B 4	B	橙褐色	SJ7 Na 1	
6	台付甕	14.6	25	9.7	B 3、B 4	A	うすい赤色	SJ7 Na11	
7	甕	(13.6)	—	(12.5)	B 4	A	赤褐色	SJ7 Na 9	
8	小型台付甕	9.4	(11)	B 4	A	赤褐色	SJ7 Na 9		
9	小型壺	6.1	(6.3)	4.4	B 4	B	うすい橙色	SJ7 Na 8	
10	高环	11.3	8.4	7.3	A	B	褐色	SJ7 Na14	
11	高环	16.8	16.1	10.8	B 4	A	暗赤褐色	SJ7 Na9.10.11	
12	土製品	12.5	8.3	4.1	B 4	B	赤褐色	SJ7 Na 4	舟形?
13	土製品	13.8	9	3.5	B 4	B	暗赤褐色	SJ7 Na 6	舟形?

第105図 第17号住居跡



りしていた。炉跡などは検出できなかった。埋土の堆積状況は自然堆積であった。

遺物は縄文時代の土器破片が少数出土した。1は内彎する口縁部。半截竹管による沈線文を地文として丈の高い断面三角形状の沈線文が貼り付けられている。縄文時代前期後半の土器であろう。2は縄文時代早期後半の条痕文系土器。3～5は、単列の結節沈線文を施文する阿玉台式土器で胎土に金雲母片を含む。6～10は縄文が施文される胴部破片であるが、多分縄文時代後期のものであろう。時期は縄文時代に属するが、わずかな土器破片から判断するのは難しい。

第96号住居跡（第102図、第103図、図版20）

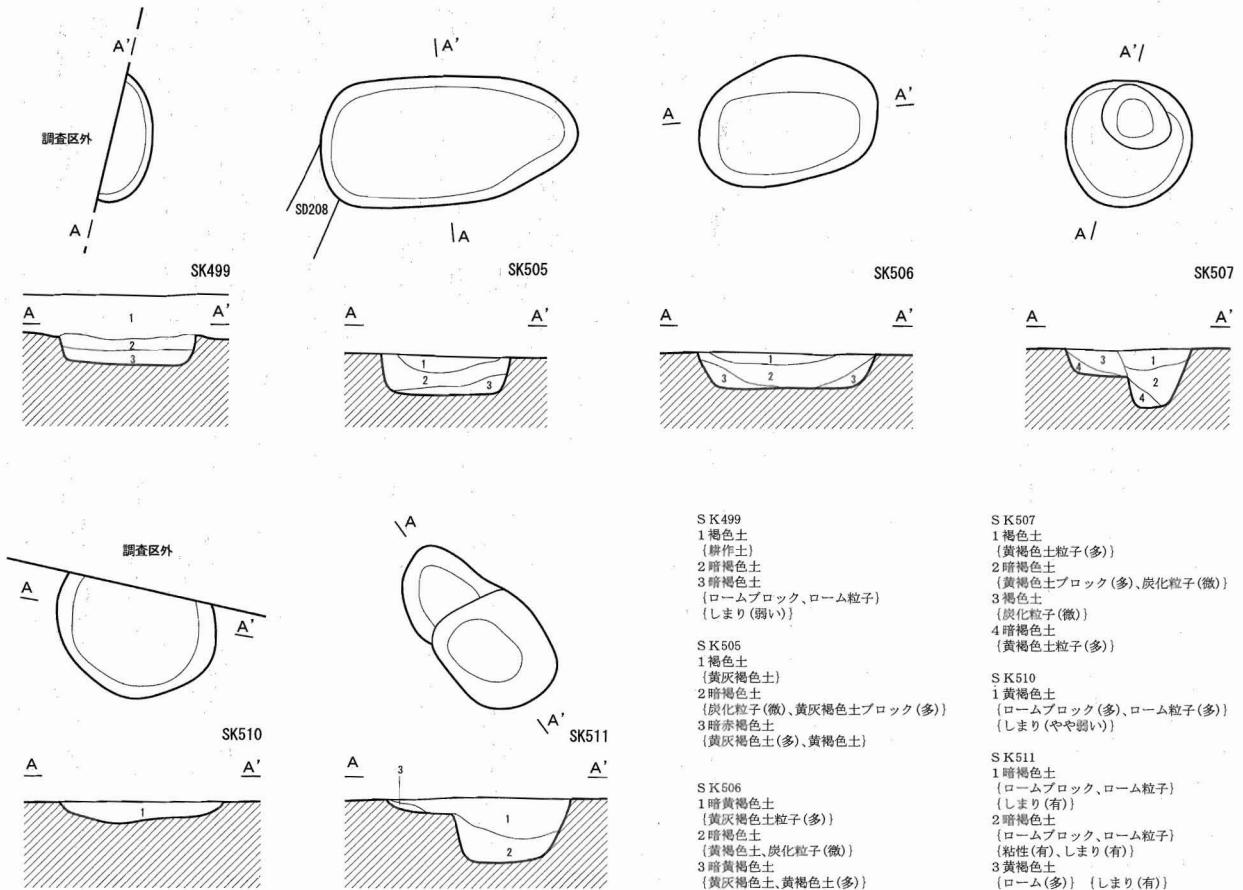
BP-23・BQ-23グリッドで検出された。東側は調査区外であった。他に近世期遺構に切られていた。短期4.8m前後の隅丸方形をしていたものと思われる。確認面からの深さは0.3m前後であった。柱穴は4箇所で検出されたが、P1～P3までが主柱穴と思われる。深さは0.2m前後であった。炉跡は中央部から北西にかなり寄って検出された。楕円形をしていて、よく焼けていた。床面は固くしまっていた。

埋土の堆積状況はかなり不自然で人為堆積と思われる。

遺物は、かなりの数出土した。1～4は広口壺である。1は口縁部が折り返しとなる。胴部は縦ミガキで下半部の接合部分に横にミガキが入る。2は口径がかなり広く扁平な感じがする。口縁部は立ち気味で、入念なミガキがかけられる。3は1とともに均整の取れた広口壺。口縁端部は立ち気味でわずかに肥厚する。胴下半部でのミガキの方向変化はない。4は口径がかなり広い。表面にはミガキがかけられるが小口ナデA・Bが残っている。これらの口縁部端部は面取り状になる。

5、6は台付甕でほぼ全形が伺える。5は口縁部が外反し、胴部の最大径がかなり上にある。口唇部に刻みがあり、そこにも小口ナデが行われる。器壁は薄い。6は小形の台付甕。胴部の最大径が中央附近にある。口唇部に強めの刻みが入り口縁端部が凹凸になる。裏面は押さえが見られ、わずかに凹む。表面は丹念な小口ナデが行われる。8は小形で長胴の台付甕である。口径は狭く口縁部は立ち気味である。口唇部に刻みがある。7は小形の甕で多分平底

第106図 土壌 (1)



になるものと思われる。口縁部は外反し、口唇部に刻みが入る。9は小形壺で広めの口径と底部を持つ。

10、11は高壺である。両者ともに壺部下部で屈曲して稜を持つ。10は広めの口径と端部で開く脚を持つ。壺部のミガキは雑である。11は大形の高壺で深めの壺部と立ち気味の脚部を持つ。これは内外面ともに入念なミガキが行われる。赤彩。

12、13はスプーン形土製品である。両者ともに作りは同じで丁寧なミガキがかかる。12は端部に刻みが入る。両者ともに赤彩される。ただし、持ち手が短い点や赤彩されることから「船」と見ることもできる。時期は古墳時代前期と思われる。

第16号住居跡（第104図）

BP-22グリッドで検出された。西側の大部分は今回の調査区域外であるが、第16号住居跡（5次調査で検出）の一部である。今回の調査部分からは柱穴

など検出できなかった。5次調査分と合わせると径2.5m前後の隅丸方形をしていた。確認面からの深さはかなり浅い。

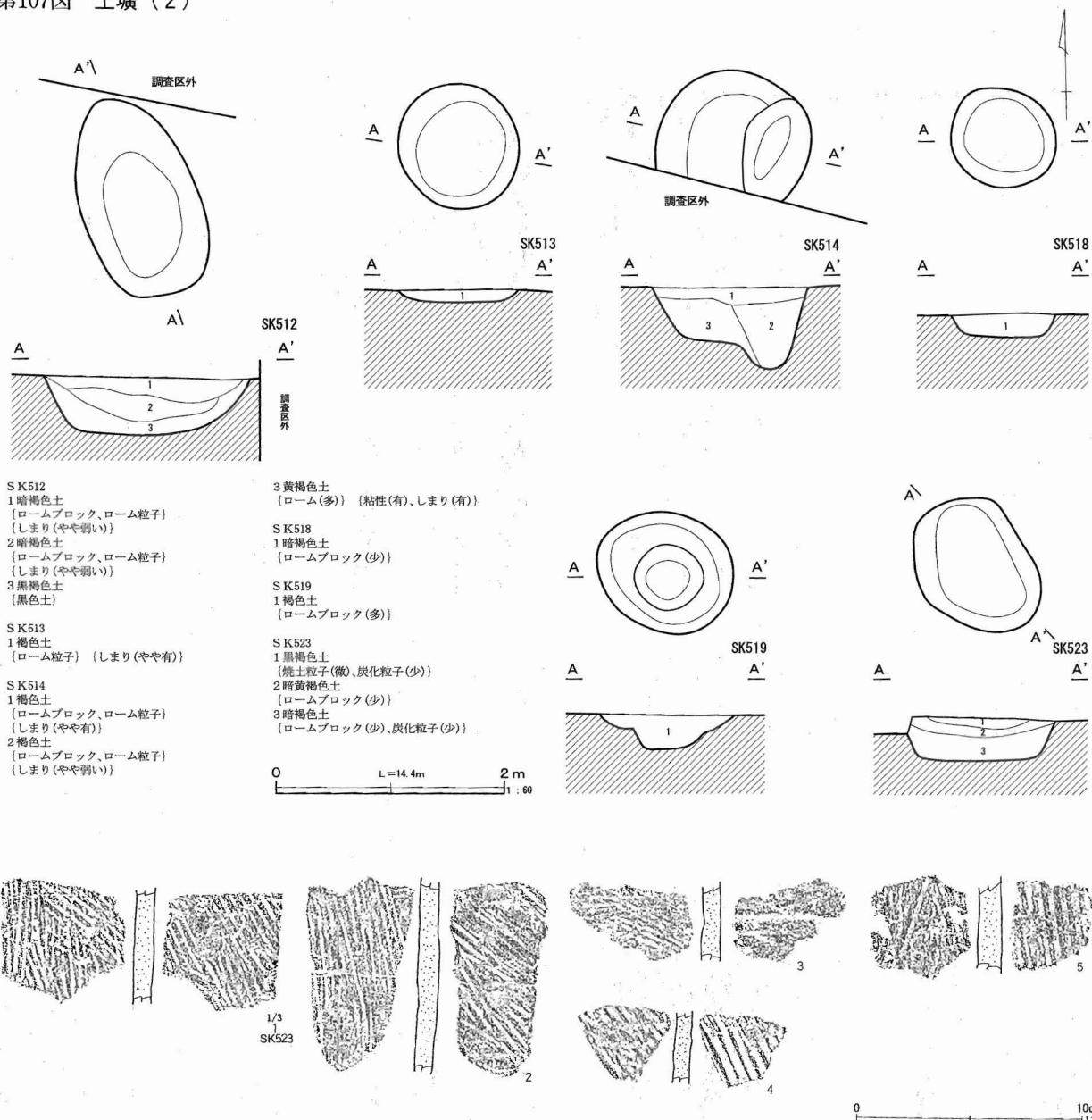
遺物は出土しなかったが、古墳時代前期と思われる。

第17号住居跡（第105図）

BQ-22グリッドで検出された。西側の大部分は今回の調査区域外であるが、第17号住居跡（5次調査で検出）の一部である。今回の調査では柱穴などは検出できなかった。5次調査分と合わせると長径3.7m、短径3.3m前後の隅丸長方形をしていた。確認面からの深さは0.45mであった。

今回の調査では、遺物は出土しなかったが、5次調査分と合わせて古墳時代前期と思われる。

第107図 土壌 (2)



(2) 土壌

第487号土壌 (第121図)

CY-13グリッドで検出された。長径 - 2.4m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第488号土壌 (第121図)

CY-13・CZ-13グリッドで検出された。長径 - 3.6m、短径 - 0.5mの楕円形をしていた。確認面から

の深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。
近世期以降のものと思われる。

第489号土壌 (第121図)

CY-13・CZ-13グリッドで検出された。長径 - (2.2)m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第490号土壙（第121図）

CW-13グリッドで検出された。長径 - 1.7m、短径 - (1.0)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第491号土壙（第121図）

CV-13グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - (0.4)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第492号土壙（第121図）

CW-13グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第493号土壙（第121図）

CV-13・CV-14グリッドで検出された。長径 - 3.1m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第494号土壙（第121図）

CV-13グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 1.2mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第495号土壙（第121図）

CU-13・CV-13グリッドで検出された。長径 - 5.7m、短径 - (0.9)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第496号土壙（第121図）

CU-14グリッドで検出された。長径 - 3.1m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第497号土壙（第121図）

CU-13・CU-14グリッドで検出された。長径 - 3.5

m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第498号土壙（第121図）

CU-13・CU-14グリッドで検出された。長径 - 5.0m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第499号土壙（第106図）

CU-13・CU-14グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - (0.3)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第500号土壙（第121図）

CT-14・CU-14グリッドで検出された。長径 - 2.5m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第501号土壙（第121図）

CT-14グリッドで検出された。長径 - 2.3m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第502号土壙（第121図）

CT-14グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第503号土壙（第121図）

CS-14グリッドで検出された。長径 - 2.5m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第504号土壙（第121図）

CR-14グリッドで検出された。長径 - 3.1m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第505号土壙（第106図）

CV-13・CV-14グリッドで検出された。長径 - 2.0 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第506号土壙（第106図、図版21）

CV-14グリッドで検出された。長径 - 1.4 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第507号土壙（第106図、図版21）

CU-14・CV-14グリッドで検出された。長径 - 1.0 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。

第508号土壙（第121図）

CP-10グリッドで検出された。長径 - (2.7) m、短径 - (0.5) m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第509号土壙（第121図）

CO-10グリッドで検出された。長径 - (1.5) m、短径 - 1.3 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第510号土壙（第106図）

CF-12グリッドで検出された。長径 - 1.3 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第511号土壙（第106図）

CF-12グリッドで検出された。長径 - 1.5 m、短径 - 0.8 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。

第512号土壙（第107図）

CF-12グリッドで検出された。長径 - 1.9 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。

第513号土壙（第107図）

CF-13グリッドで検出された。長径 - 1.1 m、短径 - 1.1 m の楕円形をしていた。確認面からの深さ

は0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第514号土壙（第107図）

CG-13グリッドで検出された。長径 - 1.4 m、短径 - (1.0) m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.7mであった。遺物は出土しなかった。

第515号土壙（第123図）

CG-15グリッドで検出された。長径 - 2.3 m、短径 - 0.6 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第516号土壙（第123図）

CG-15グリッドで検出された。長径 - (1.8) m、短径 - 0.8 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第517号土壙（第123図）

CG-16グリッドで検出された。長径 - 3.7 m、短径 - (1.2) m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.6mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第518号土壙（第107図）

CG-15・CG-16グリッドで検出された。長径 - 0.9 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第519号土壙（第107図）

CG-15グリッドで検出された。長径 - 1.3 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第520号土壙（第123図）

CG-16・CG-17グリッドで検出された。長径 - 1.1 m、短径 - 0.7 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第521号土壙（第124図）

CC-18グリッドで検出された。長径 - 1.6 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。近世期

以降のものと思われる。

第522号土壌（第124図）

CC-18グリッドで検出された。長径 - 2.9 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第523号土壌（第107図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.3 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。

縄文時代早期後半条痕文系の土器群がわずかに出土している。1～5まで胎土に纖維を含み表裏に条痕文が施文される。時期は縄文時代早期後半と思われる。

第524号土壌（第108図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.0 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。

縄文時代早期後半条痕文系土器群に属する土器である。いずれも纖維を含む。5、6は微隆起線によって幾何学様の文様を区画し密集した沈線を充填している。7～9は表裏に条痕が施文されている。10は擦痕上の調整がされる。野島式に属すると思われる。

第525号土壌（第108図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.5 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。

第526号土壌（第108図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.8 m、短径 - 1.1 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。

縄文時代早期後半条痕文系の土器群である。表裏条痕で胎土に纖維を含む。11は口縁部で緩やかに外反する。12は刻みの入った微隆起線が垂下し、微隆起線で区画された中に密集した沈線文が充填される。

第527号土壌（第108図）

CC-16・CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.6 m、短径 - (0.8) m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第528号土壌（第108図、第109図、図版21）

CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.6 m、短径 - 1.1 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。

縄文時代早期後半条痕文系の土器群である。表裏条痕で胎土に纖維を含む。1～3は微隆起線で区画された幾何学形状の文様中に密接沈線を充填している。区画する微隆起線の中間には刺突が入る。1・2は口縁部でわずかに外剥ぎ状の口唇部をしている。4～6は胴部破片。

第529号土壌（第108図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.0 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。

縄文時代早期後半条痕文系土器群である。いずれも纖維を含み表裏に条痕文が施文されている。

第530号土壌（第109図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - 1.3 m、短径 - 1.2 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第531号土壌（第109図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - (1.2) m、短径 - 1.2 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。

縄文時代早期後半条痕文系の土器群である。表裏条痕で胎土に纖維を含む。

第532号土壌（第109図、図版21）

CC-17・CD-17グリッドで検出された。長径 - 2.4 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。

いずれも表裏に縄文が施文され、胎土に纖維を含む。1は口唇部に刻みが入り。微隆線で区画された内部に細めの縄文が充填される。縄文時代早期後半条痕文系の土器である。15は片面に自然面を残す

打製石斧である。

第533号土壙（第109図）

CC-17グリッドで検出された。長径 - (0.9) m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。

表裏に条痕文が施文され、胎土に纖維を含む。縄文時代早期後半条痕文系である。

第534号土壙（第109図）

CC-18グリッドで検出された。長径 - 1.2 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第535号土壙（第109図）

CC-18グリッドで検出された。長径 - 1.0 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。

表裏に条痕文が施文され、胎土に纖維を含む。縄文時代早期後半条痕文系である。

第536号土壙（第110図）

CC-18グリッドで検出された。長径 - 1.1 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第537号土壙（第110図）

CC-18グリッドで検出された。長径 - 1.2 m、短径 - (0.9) m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第538号土壙（第110図）

CC-16・CC-17グリッドで検出された。長径 - (1.1) m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。

一点だけ図示できた。胎土に纖維を含む表裏条痕の土器である。縄文時代早期後半。

第539号土壙（第110図）

CC-16グリッドで検出された。長径 - 1.3 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。

第540号土壙（第110図）

CC-16グリッドで検出された。長径 - 1.1 m、短

径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。

一点だけ図示できた。微隆起線で幾何学状のモチーフを描き内部に浅めの沈線が充填される。縄文時代早期後半条痕文系。

第541号土壙（第110図）

CC-16グリッドで検出された。長径 - 1.2 m、短径 - 1.1 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第542号土壙（第110図）

CC-16・CC-17グリッドで検出された。長径 - (0.8) m、短径 - (0.5) m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

縄文時代早期後半条痕文系に属する土器がわずかに出土した。胎土に纖維、表裏に条痕が施文される。

第543号土壙（第111図）

CA-18グリッドで検出された。長径 - 2.1 m、短径 - 1.5 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第544号土壙（第111図）

CA-10グリッドで検出された。長径 - 1.7 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.7mであった。遺物は出土しなかった。

第545号土壙（第110図、第111図）

CA-10グリッドで検出された。長径 - 1.6 m、短径 - 1.3 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5mであった。遺物は出土しなかった。

条痕文系土器と縄文が施文される土器が出土した。7、8には纖維が含まれ表裏に条痕文が施文されている。8は縄文時代後期か。

第546号土壙（第111図）

CA-11グリッドで検出された。長径 - 1.4 m、短径 - 1.2 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。遺物は出土しなかった。

第547号土壙（第110図、第124図）

CA-10グリッドで検出された。長径 - 2.5 m、短

径 - 2.4m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

縄文時代早期後半～前期と思われる土器が出土した。10～13まで同一固体と思われる。11、12は口縁部で外反し、内面がわずかに肥厚する。表裏無文またはわずかに擦痕が入る。胎土に纖維を含む。

第548号土壙（第124図）

CB-18グリッドで検出された。長径 - (3.4)m、短径 - 0.8m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第549号土壙（第124図）

CB-18グリッドで検出された。長径 - (2.1)m、短径 - 0.7m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第550号土壙（第124図）

CA-18・CB-18グリッドで検出された。長径 - 2.7m、短径 - (0.8)m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第551号土壙（第111図）

CM-7グリッドで検出された。長径 - 0.8m、短径 - 0.7m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.7mであった。遺物は出土しなかった。

第552号土壙（第110図、第111図）

CL-7・CM-7グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 1.1m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。

縄文時代の土器破片がわずかに出土した。14は胎土に纖維を含み、縄文が施文される。口縁端部が欠ける。

第553号土壙（第112図）

CL-7グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 1.1m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.7mであった。遺物は出土しなかった。

第554号土壙（第112図）

CL-7グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.9m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第555号土壙（第112図）

CK-7グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - (0.8)m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。

縄文時代前期後半の土器で、変形爪形文が施文されている。

第556号土壙（第112図）

CK-7グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 1.3m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。

縄文時代早期後半～前期前半の土器が少数出土した。3、4は表裏に条痕が施文される。5～7は無文または薄い擦痕が施文されている。いずれも胎土に纖維を含む。

第557号土壙（第112図）

CK-7グリッドで検出された。長径 - 1.0m、短径 - 0.8m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。

1点だけ図示できた、1は口縁端部が内彎する無文の深鉢で縄文時代後期堀ノ内式期のものと思われる。

第558号土壙（第112図）

CJ-7・CK-7グリッドで検出された。長径 - 1.5m、短径 - 0.9m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第559号土壙（第123図）

CF-9グリッドで検出された。長径 - 2.1m、短径 - 2.1m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.8mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第560号土壙（第112図、第113図）

CH-8グリッドで検出された。長径 - (1.5)m、短径 - 1.4m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。

縄文時代早期後半～前期前半の土器が1点だけ図示できた。胎土に纖維を含み、薄い擦痕文が施文されている。

第561号土壙（第112図、第113図）

CH-8グリッドで検出された。長径 - (1.6) m、短径 - 1.4 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 m であった。

縄文時代早期後半条痕文系の土器が1点だけ図示できた。纖維を含み表裏に条痕文が施文される。

第562号土壙（第113図）

CJ-7グリッドで検出された。長径 - 1.2 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4 m であった。遺物は出土しなかった。

第563号土壙（第112図、第113図）

CK-6・CK-7グリッドで検出された。長径 - (1.4) m、短径 - 1.3 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4 m であった。

縄文時代後期前に属する土器が1点だけ出土した。堀ノ内1式の口縁部破片である

第564号土壙（第114図）

CK-6グリッドで検出された。長径 - 1.6 m、短径 - 0.7 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.5 m であった。遺物は出土しなかった。

第565号土壙（第114図）

CJ-7グリッドで検出された。長径 - (1.0) m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 m であった。遺物は出土しなかった。

第566号土壙（第114図）

CJ-7グリッドで検出された。長径 - (1.5) m、短径 - 1.2 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 m であった。遺物は出土しなかった。

第567号土壙（第114図）

CI-7グリッドで検出された。長径 - (1.0) m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4 m であった。

1は縄文時代中期前半の胴部破片。半截竹管による山形の文様下に「の」字状の沈線文が施文される。

第568号土壙（第114図）

CI-7グリッドで検出された。長径 - 1.1 m、短径 - 0.9 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4 m であった。

縄文時代の土器がわずかに出土した。2は縄文時代早期後半条痕文系の土器。表裏条痕で、口唇部に貝殻刺突文が施文される。

第569号土壙（第114図）

CF-10グリッドで検出された。長径 - 1.0 m、短径 - 1.0 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 m であった。

縄文時代中期初頭に属する土器が少数出土した。3は縄文を地文として、横走の沈線文が数段施文されている。

第570号土壙（第114図）

CF-10グリッドで検出された。長径 - 1.2 m、短径 - 0.8 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 m であった。遺物は出土しなかった。

第571号土壙（第115図）

CE-9・CF-9グリッドで検出された。長径 - 1.6 m、短径 - 1.2 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2 m であった。遺物は出土しなかった。

第572号土壙（第115図）

CE-9・CF-9グリッドで検出された。長径 - 1.0 m、短径 - 0.8 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 m であった。遺物は出土しなかった。

第573号土壙（第114図、第115図）

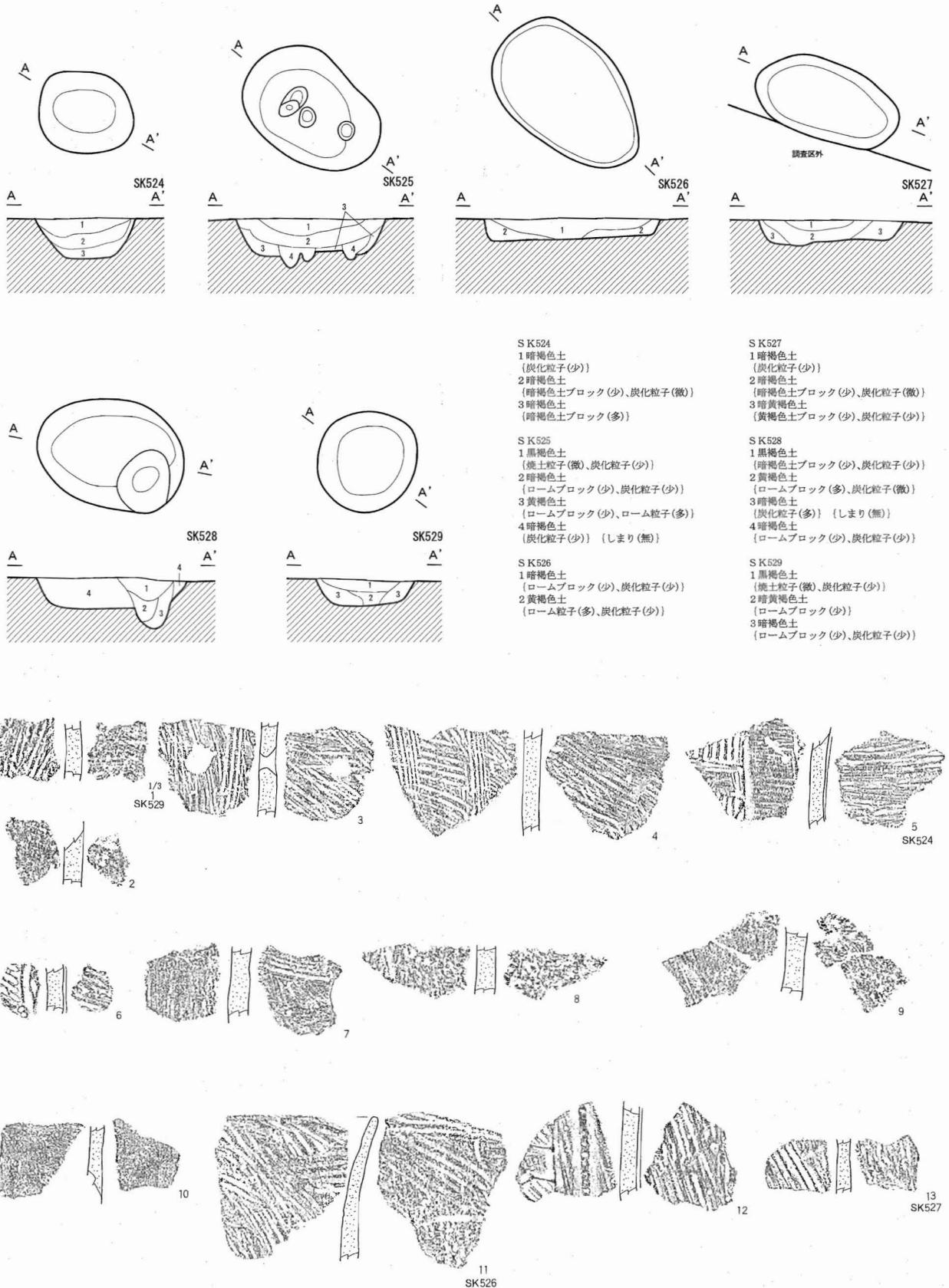
CF-9グリッドで検出された。長径 - 1.4 m、短径 - 1.2 m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.7 m であった。

縄文時代早期後半条痕文系の土器が1点図示できた。表裏条痕の土器である。

第574号土壙（第115図）

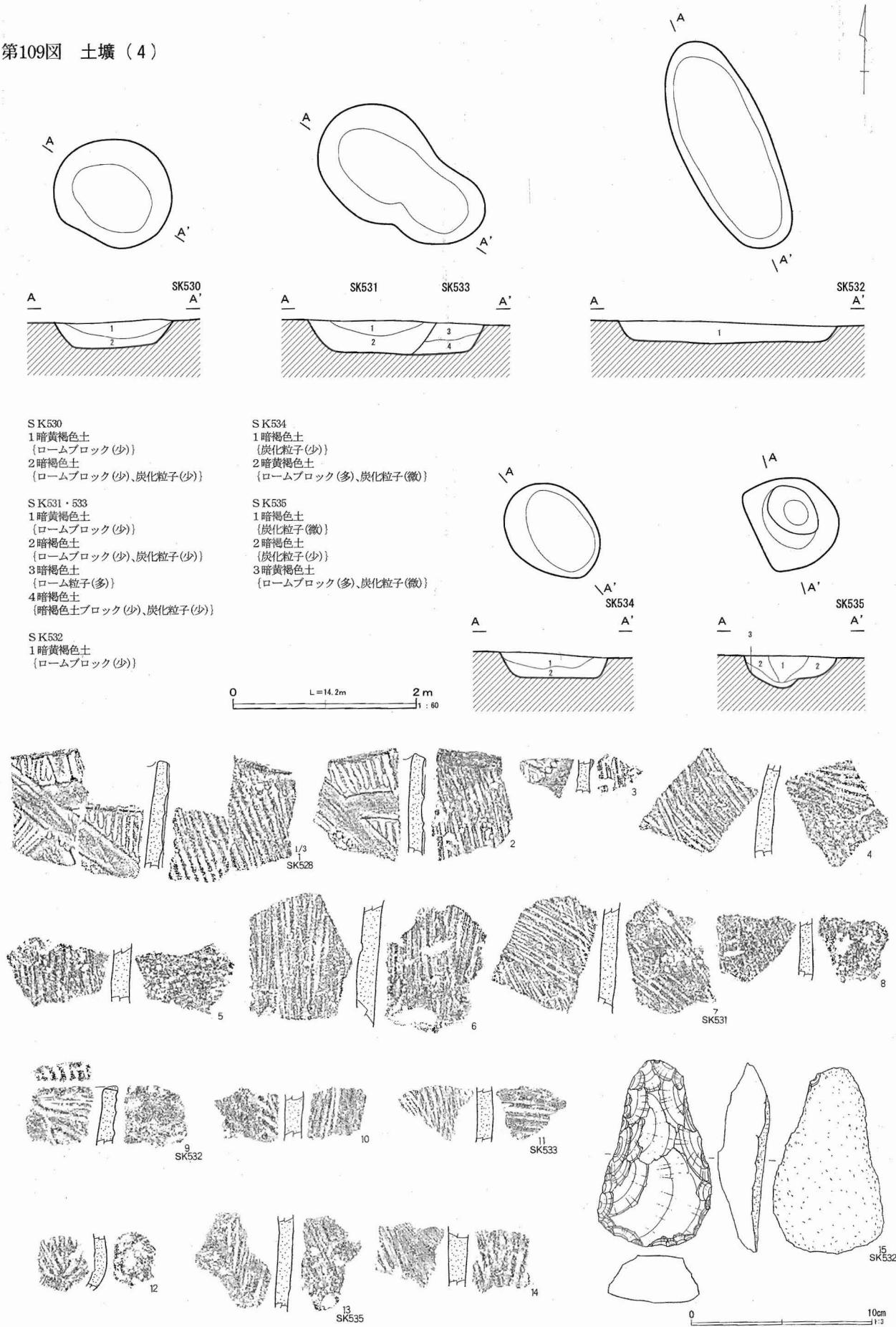
CF-9グリッドで検出された。長径 - (2.1) m、短径 - (0.6) m の楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3 m であった。遺物は出土しなかった。

第108図 土壌 (3)

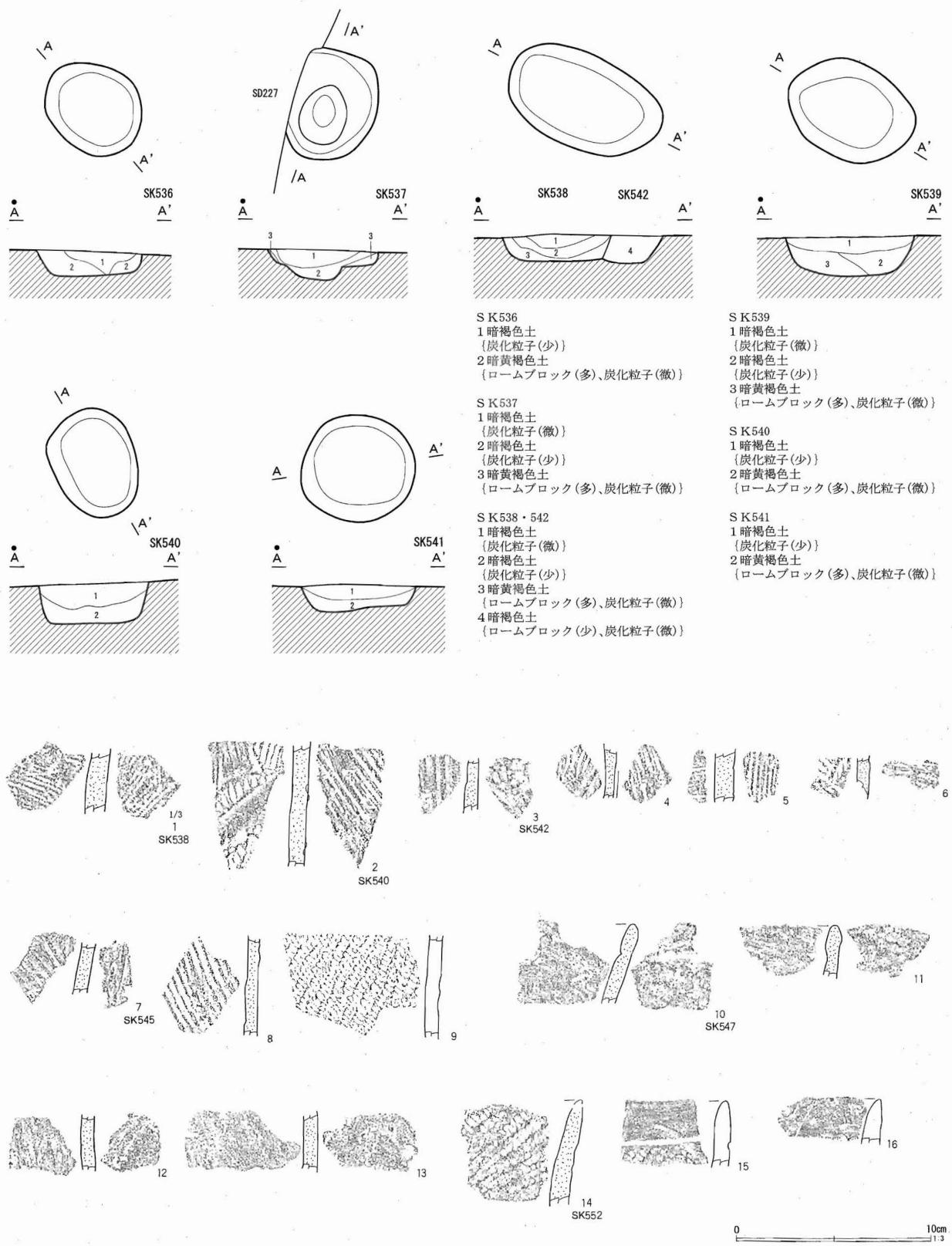


0 10cm 1:3

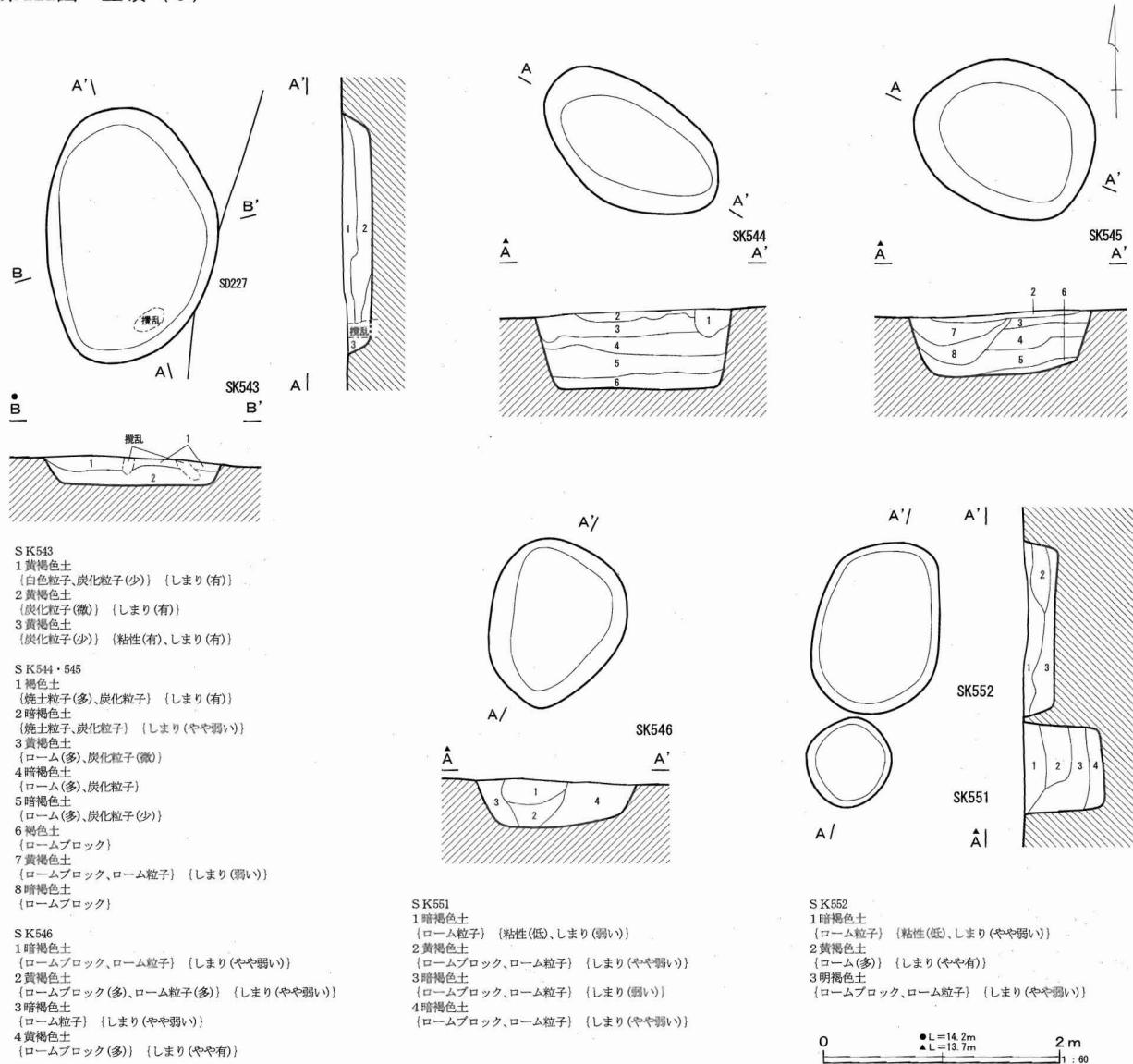
第109図 土壌 (4)



第110図 土壌 (5)



第111図 土壌 (6)



第575号土壌 (第116図)

CF-9グリッドで検出された。長径 - 1.4m、短径 - 0.9mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.3mであった。遺物は出土しなかった。

第576号土壌 (第116図)

CF-9グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。

第577号土壌 (第113図)

CH-8グリッドで検出された。長径 - (1.6)m、短径 - 1.0mの楕円形をしていた。確認面からの深さ

は0.4mであった。遺物は出土しなかった。

第578号土壌 (第114図、第116図)

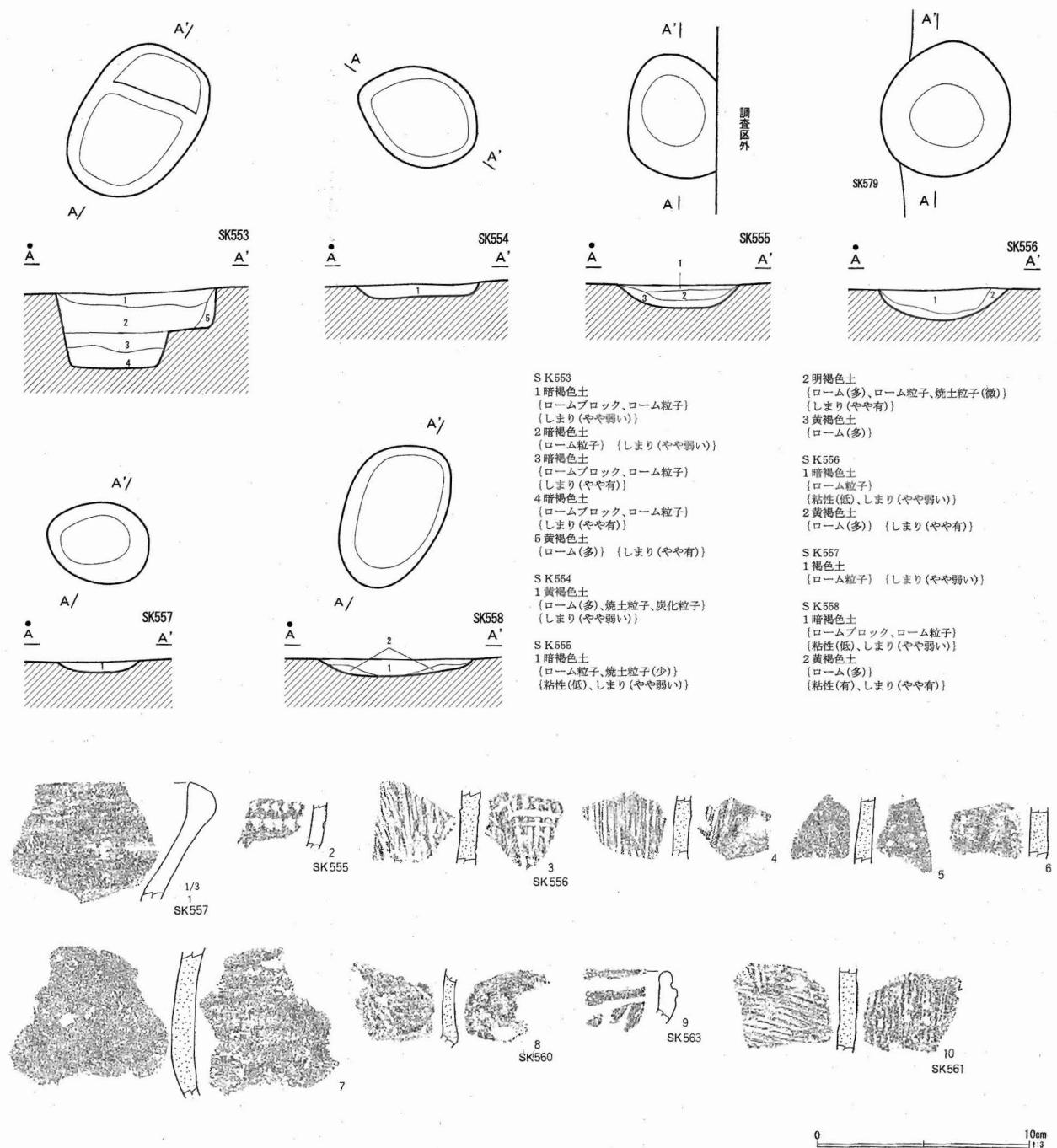
CL-7グリッドで検出された。長径 - 1.9m、短径 - 1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.4mであった。

縄文時代早期沈線文系土器群と条痕文系土器群が出土している。6は表面に条痕文が施文され、纖維を含む。7はよく調整された地に沈線文が描かれる。8~10は沈線文系に伴い無文土器であろう。

第579号土壌 (第123図)

CK-6・CK-7グリッドで検出された。長径 - 4.8m、

第112図 土壌(7)



短径 - 3.5m の楕円形をしていた。確認面からの深さは 0.3m であった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第580号土壤 (第124図)

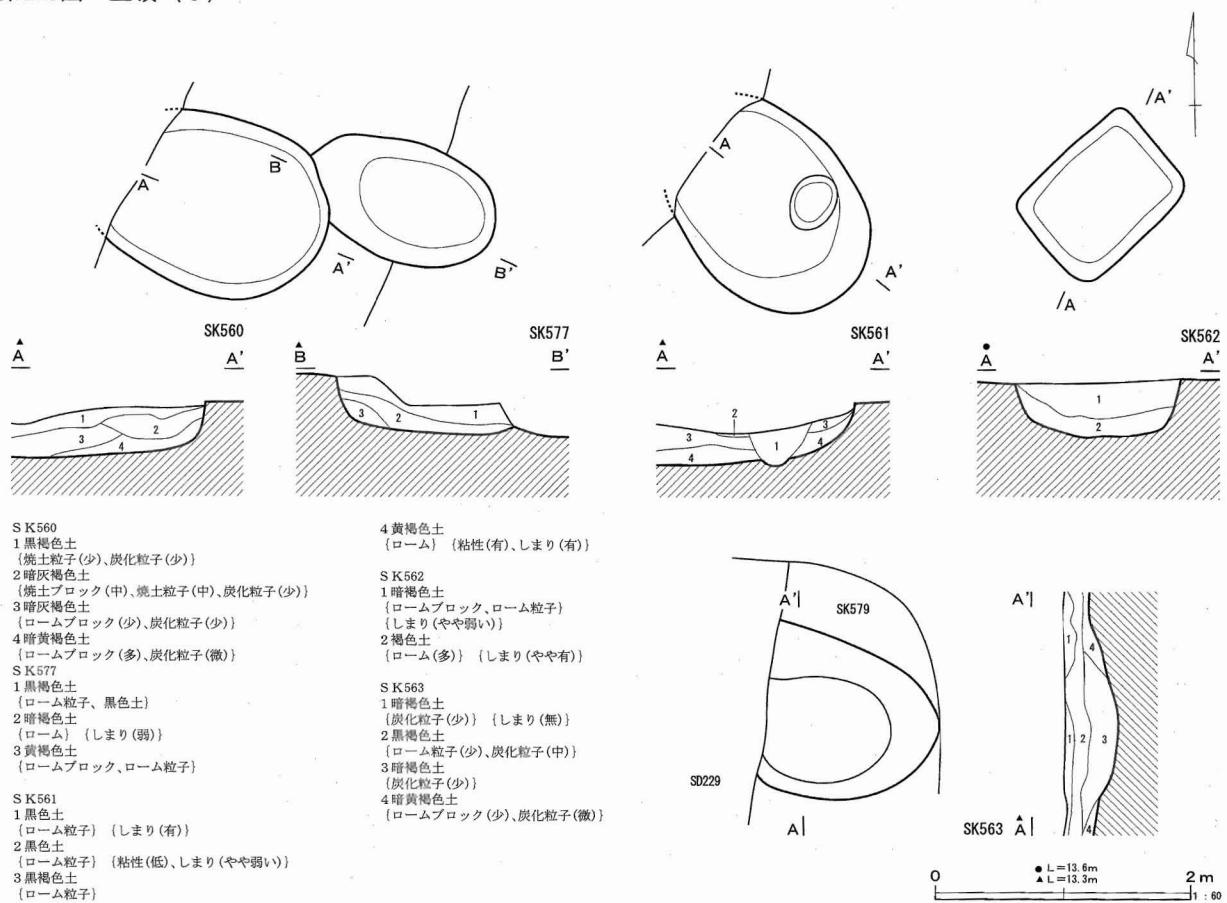
BQ-22・BR-22グリッドで検出された。長径 - 1.6 m、短径 - 1.1 m の橢円形をしていた。確認面から

の深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。
近世期以降のものと思われる。

第581号土壤 (第124図)

BR-22グリッドで検出された。長径 - 2.0m、短径 - (0.9)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期

第113図 土壌 (8)



以降のものと思われる。

第582号土壤 (第124図)

BR-22グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - (0.6)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.2mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第583号土壤 (第116図)

BQ-22グリッドで検出された。長径 - 1.1m、短径 - (0.6)mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第584号土壤 (第116図)

BQ-22グリッドで検出された。長径 - 1.2m、短径 - 0.7mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。

第585号土壤 (第124図)

BQ-22グリッドで検出された。長径・1.3m、短

径・1.1mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.7mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

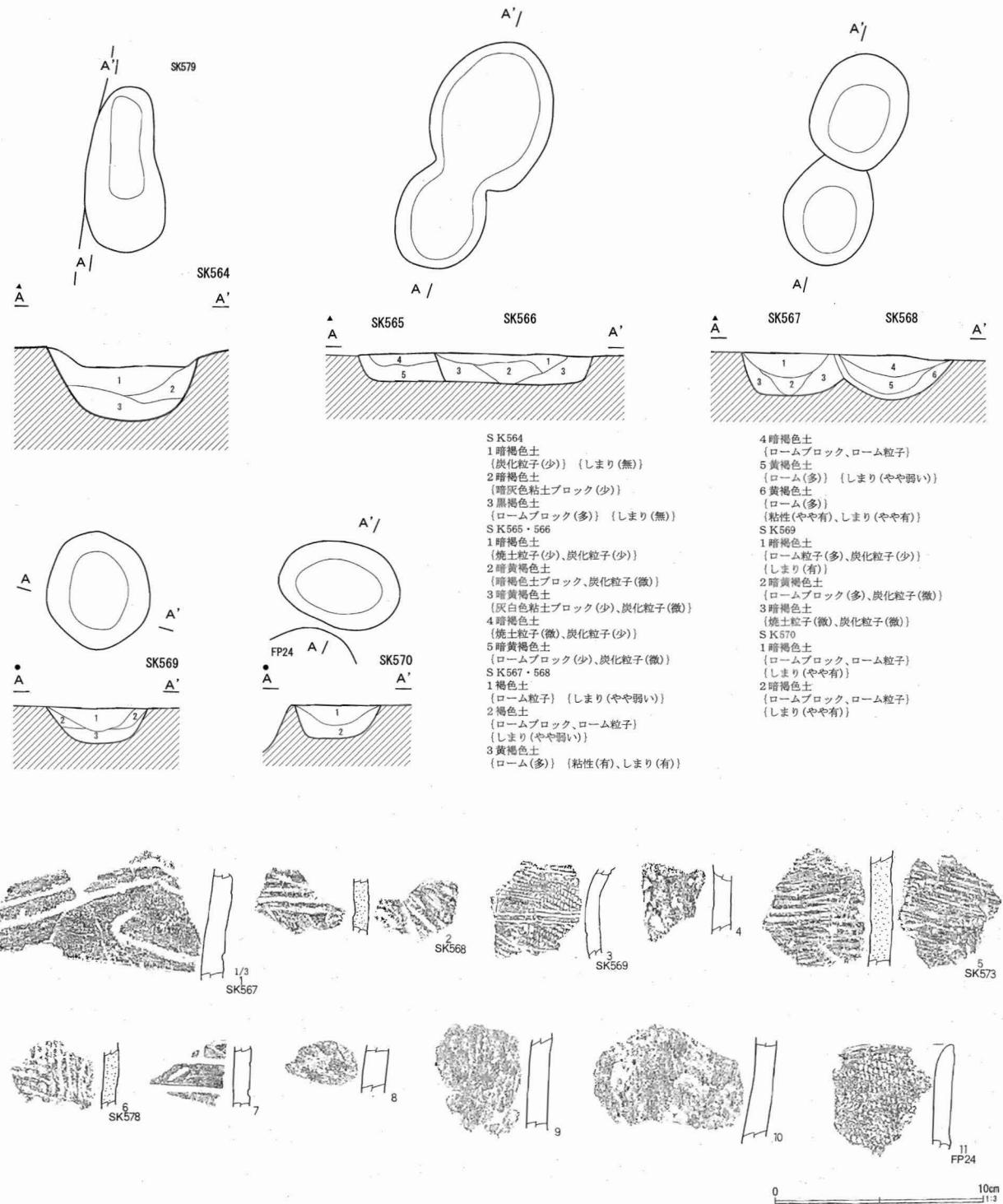
第586号土壤（第124図）

BQ-22グリッドで検出された。長径 - 1.8m、短径 - 0.8mの楕円形をしていた。確認面からの深さは0.1mであった。遺物は出土しなかった。近世期以降のものと思われる。

第587号土壤（第121図）

CP-12・CP-13・CQ-13グリッドで検出された。長径 - (2.4) m、短径 - 1.3 m の橢円形をしていた。確認面からの深さは0.2 m であった。遺物は出土しなかつた。近世期以降のものと思われる。

第114図 土壌 (9)



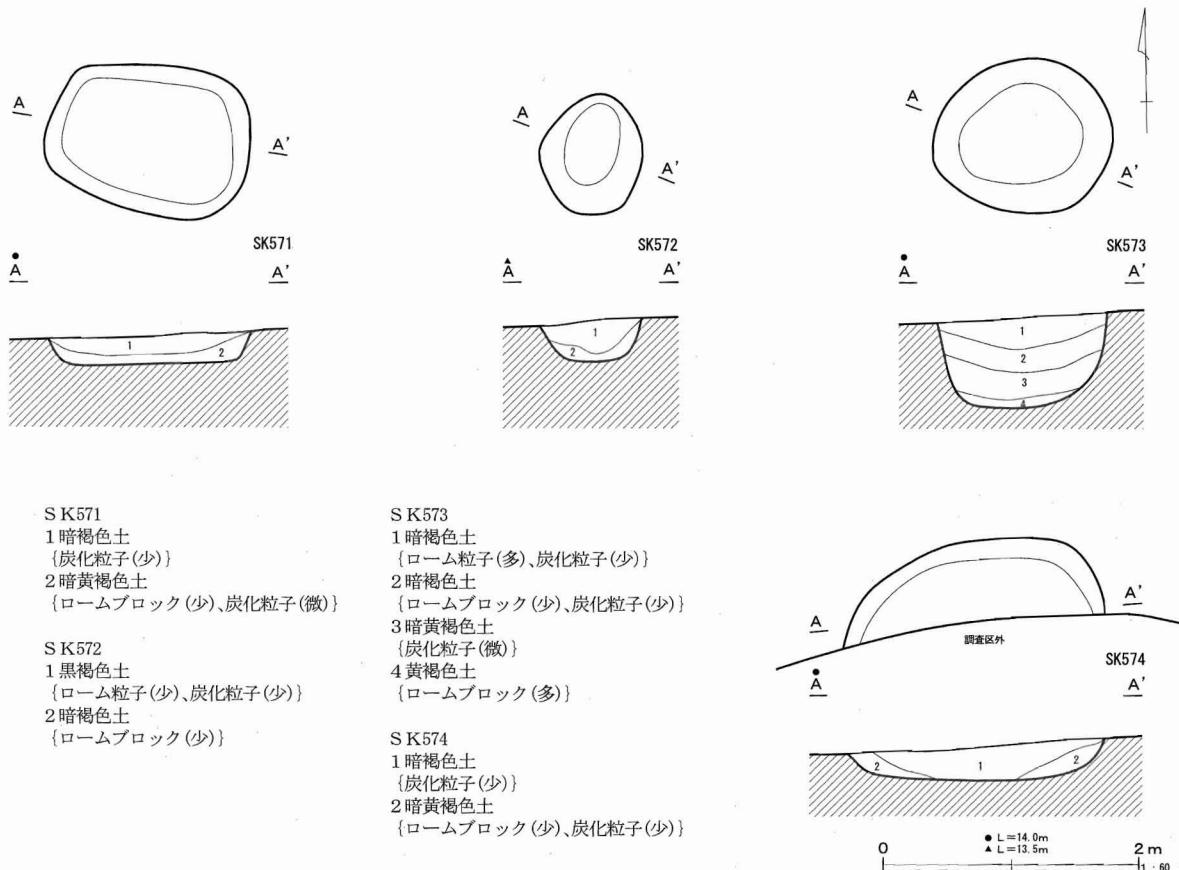
(3) 地下式坑

第1号地下式坑 (第117図)

BQ-23グリッドで検出された。第96号住居跡を切っていた。長径・約2.45m、短径・約1.6mの不整橢円

形をしていた。確認面からの深さは約1.2mであった。底面はフラットであり、中央部に小ピットを備える。土層は自然堆積であった。遺物はほとんど出土しなかったが、時期は近世期以降と思われる。

第115図 土壌 (10)



第2号地下式坑（第117図）

BQ-22・BQ-23・BR-22・BR-23グリッドにまたがって検出された。東側大部分が調査区域外であった。第233号溝に切られていた。長径-（約2.9m）、短径-約2.4mの不整楕円形をしていた。確認面からの深さは1.3mで、西側で緩く立ち上がる。土層は自然堆積であった。遺物はほとんど出土しなかったが、近世期以降と思われる。

第3号地下式坑（第117図）

BR-22グリッドで検出された。東側の大部分が調査区域外であった。規模は不明であるが、4m前後の不整楕円形をするものと思われる。南西側に階段状の中段がある。土層は自然堆積であった。遺物はほとんど出土しなかったが、近世期以降と思われる。

(4) 炉穴

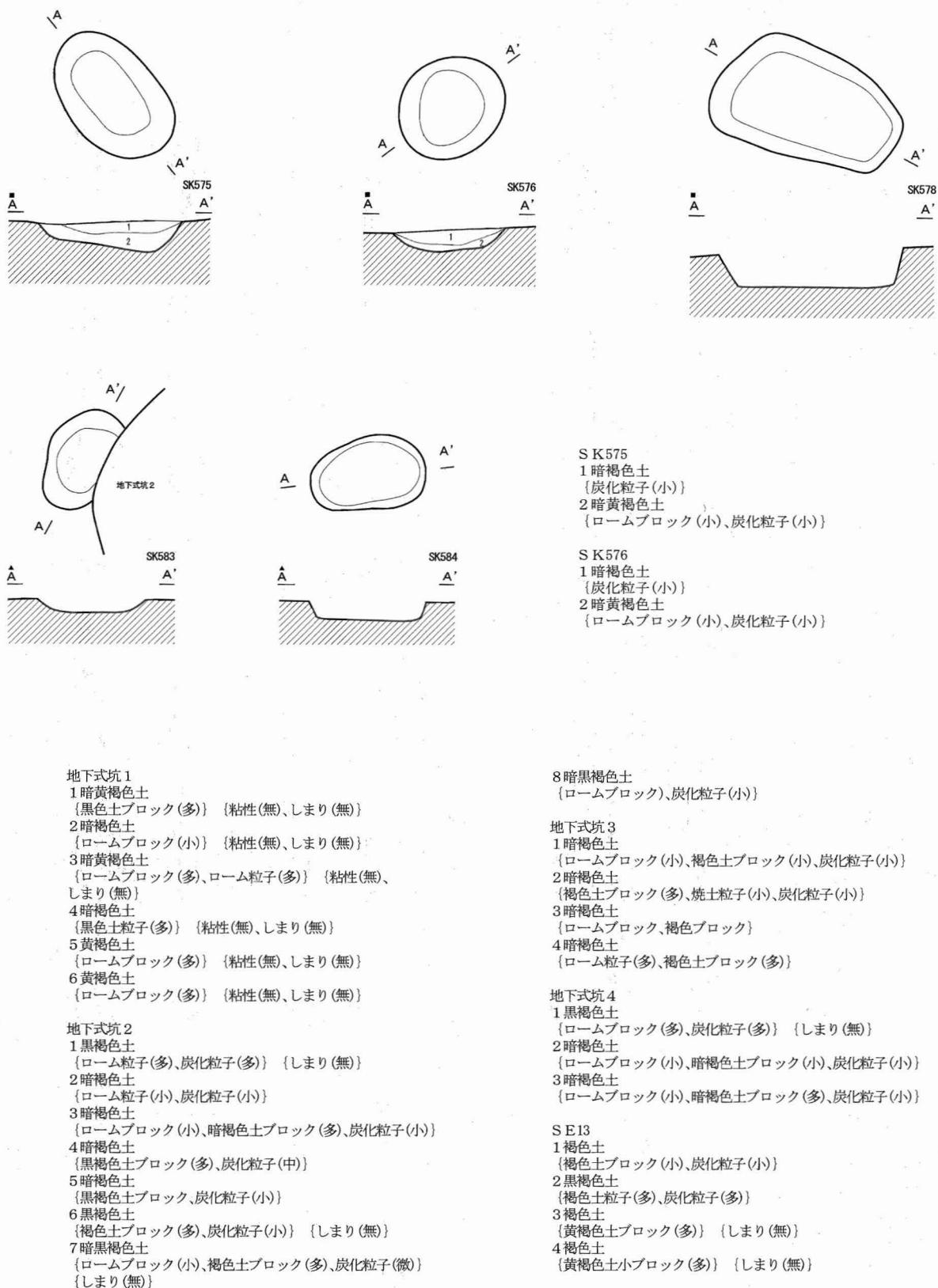
第23号炉穴（第118図、図版22）

CB-18グリッドで検出された。上面部は溝に切られている。長径-約2.7m、短径-約1.7mの不整楕円形をしていた。確認面からの深さは約-0.9mであった。中央から西側に寄って、直径-約0.9mで焼土の詰ったピットがあった。埋土の堆積状況は自然堆積であった。図示できる遺物は出土しなかったが、時期は縄文時代早期後半と思われる。

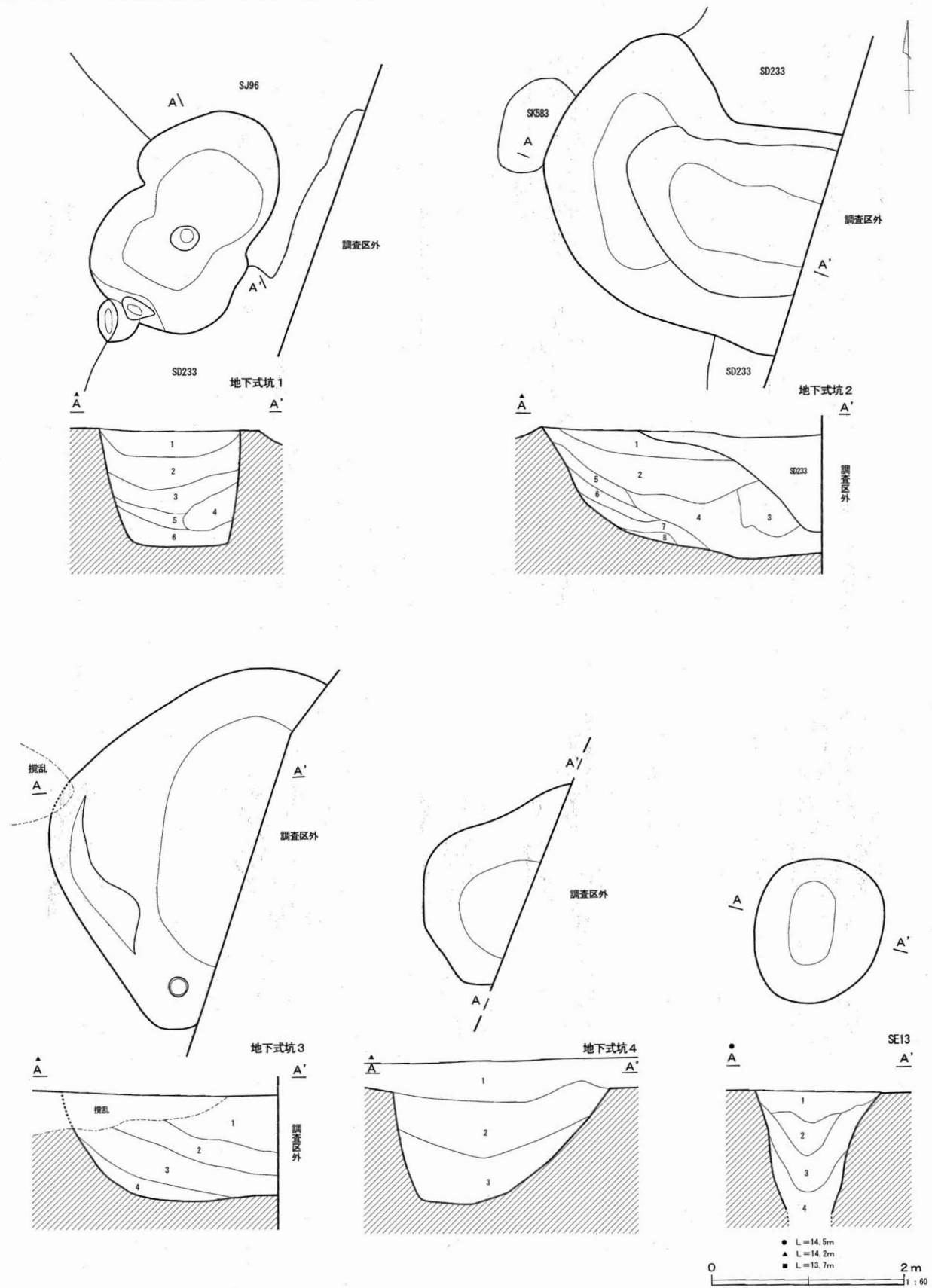
第24号・第25号炉穴（第119図、図版22）

CF-9・CF-10グリッドで検出された。西側斜面にかかる部分であった。第24号炉穴が第25号炉穴を切っていた。長径-2.8m、短径-2.6mのヒトデ形をしていた。確認面からの深さは、0.7m前後であった。燃焼室が4箇所に突き出し、それぞれの基部に良好な焼土の堆積が見られた。埋土の堆積状況は自然堆

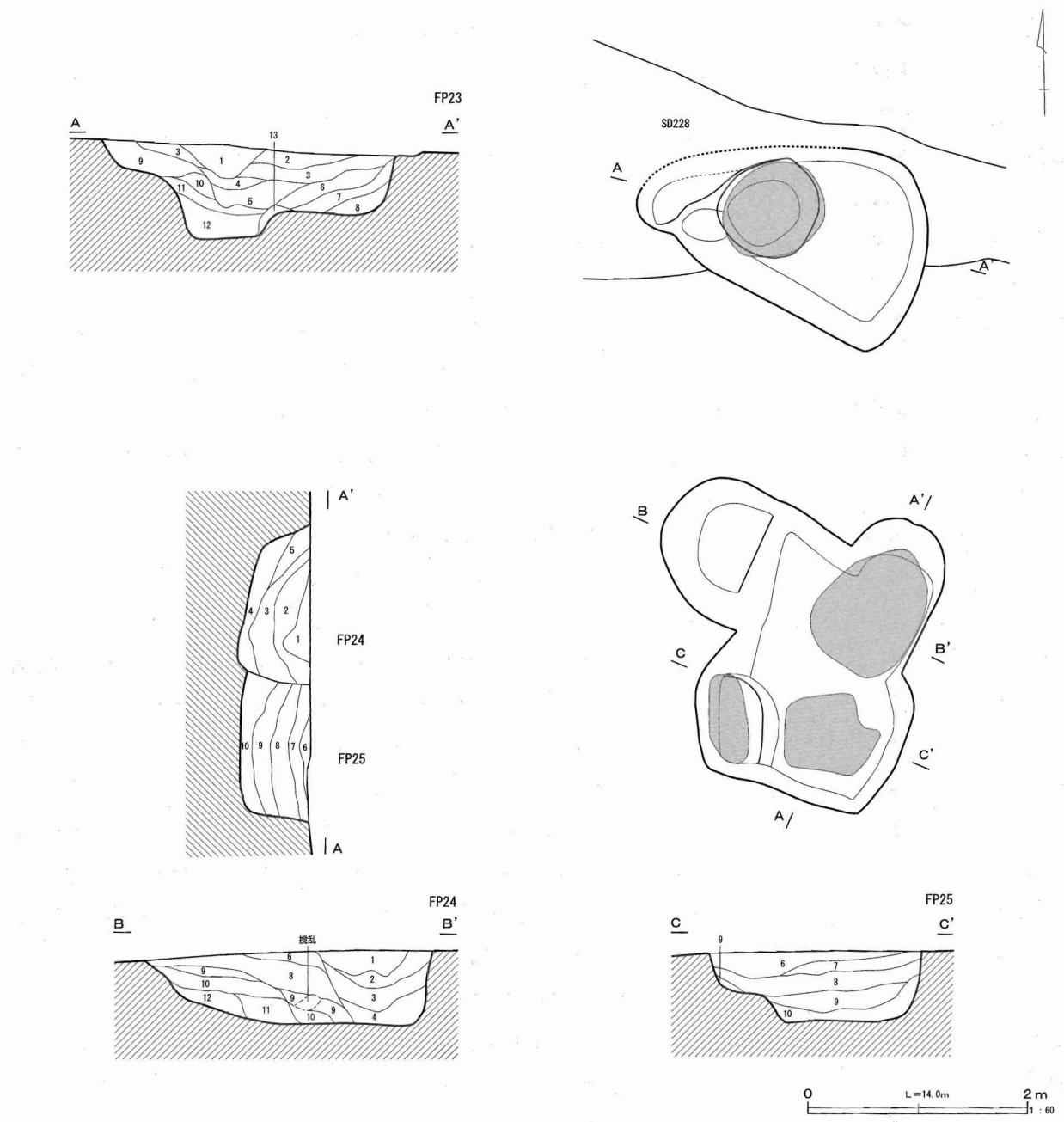
第116図 土壌 (11)



第117図 地下式坑（第1～4号）・第13号井戸



第118図 炉穴（第23～25号）



FP 23
 1 黒褐色土
 (ローム粒子(少)、焼土粒子(少)、炭化粒子(多))
 (しまり(無))
 2 暗褐色土
 (ローム粒子(少)、炭化粒子(少))
 3 暗褐色土
 (ローム粒子(多)、焼土ブロック(少)、焼土粒子(少)
 、炭化物(少))
 4 暗褐色土
 (焼土ブロック(少)、焼土粒子(少)、炭化物(多))
 5 暗褐色土
 (ロームブロック(少)、焼土ブロック(中)、炭化物(少)
 、炭化粒子(多))
 6 暗褐色土
 (ロームブロック(多)、焼土粒子(少)、炭化粒子(多))
 7 暗褐色土
 (ロームブロック)
 8 暗褐色土
 (ロームブロック)

9 暗褐色土
 (焼土粒子(少)、炭化粒子(少)) {しまり(無)}
 10 暗黄褐色土
 (ロームブロック(多)、焼土ブロック(少))
 11 暗赤褐色土
 (ロームブロック、焼土ブロック)
 12 赤褐色土
 (ローム、焼土ブロック(多)) {しまり(無)}
 13 暗赤褐色土
 (焼土ブロック)
F P 24・25
 1 暗褐色土
 (焼土ブロック、焼土粒子、炭化粒子)
 2 赤褐色土
 (焼土ブロック(多)、焼土粒子(多)、炭化粒子)
 3 暗褐色土
 (焼土粒子、炭化粒子) {しまり(やや有)}
 4 暗褐色土
 (ロームブロック、ローム粒子) {しまり(有)}

5 棕褐色土
 (ロームブロック、ローム粒子、炭化粒子)
 (しまり(やや弱い))
 6 暗褐色土
 (ロームブロック、ローム粒子)
 (粘性(低)、しまり(やや弱い))
 7 黑褐色土
 (ロームブロック、ローム粒子)
 (しまり(やや弱い))
 8 棕褐色土
 (焼土ブロック、焼土粒子) {しまり(やや弱い)}
 9 棕褐色土
 (焼土ブロック、焼土粒子) {しまり(やや有)}
 10 暗褐色土
 (ローム粒子) {しまり(やや有)}
 11 赤褐色土
 (焼土ブロック(多)、焼土粒子(多))
 12 棕褐色土
 (ローム粒子、焼土粒子) {しまり(有)}

積であった。図示できる遺物は出土しなかったが、時期は縄文時代早期後半と思われる。

(5) 方形周溝墓

第2号方形周溝墓（第119図、第120図、図版22、図版23）

CB-14・CB-15・CB-16・CC-15・CC-16グリッドにかけて検出された。北側の大半は調査区域外であった。かなりの部分が近世期以降の溝に切られていた。東西約17mを測る。ほぼ17m四方に溝がめぐっていたものと思われる。東側で約1.6m、西側で約1.5m、西側コーナー部分で約0.6mと幅を減じる。溝はほぼ「V」字形に掘り込まれ、底面がフラットになる部分もある。確認面からの深さは、0.7m前後で、埋土は自然堆積であった。現状で盛り土などは確認できなかった。

1は、複合口縁の大形飾り壺で底部が穿孔されている。赤彩されている。胴部最大径がぐっと下がり、胴部全体がどっしりとしている。肩部に櫛描波状文が施文されている。表面は丁寧にミガキが行われる。胴部中央部は縦ミガキ、口縁部付近と胴部下半部は横ミガキと見事に分離している。口縁部内面には部分的に縦ミガキが施文される。2は複合口縁の壺で胴下半部を欠失する。表面は入念な縦ミガキが行われるが部分的に小口ナデBが残っている。口縁部付近はナデ上げ。

3は壺の胴部下半部破片。入念なミガキが横及び

斜方向に行われる。4は小形の単純口縁壺である。口縁部は立ち気味で底部が穿孔されている。表面は入念な縦ミガキが施されている。5も単純口縁壺である。口縁部破片でやや膨らみながら頸部屈曲部に移行する。表面は立てミガキが入念に行われる。内面は横方向のミガキである。

6は複合口縁壺である。口縁部端部には複合口縁を貼り付けた際の段差が見られる。ほぼ完存品。底部に穿孔がある。頸部はナデ上げで以下に入念なミガキが入る。胴部下半部では、横方向のミガキに変化する。内面は小口ナデBで、接合部単位で変化する。7は甕口縁部破片である。表裏両面ともに小口ナデBが横方向に行われている。

(6) 溝

第199号溝（第121図、第122図、第125図）

CZ-6グリッドからCY-12グリッドにかけて位置していた。長さ約(60.2)m、幅約2.5m、深さ約0.9mであった。ほぼN-86°-Eに伸びていた。

遺物は、近世陶磁器類が出土した。1・2は染付類でござった灰白色の地に描かれる。

3は灯明受け皿で鉄釉がかかる。4・5は美濃・瀬戸系の底部で黄褐色の釉がかかっている。6は外面に青磁風の釉がかかる。中・近世期以降の溝であろう。

第200号溝（第121図）

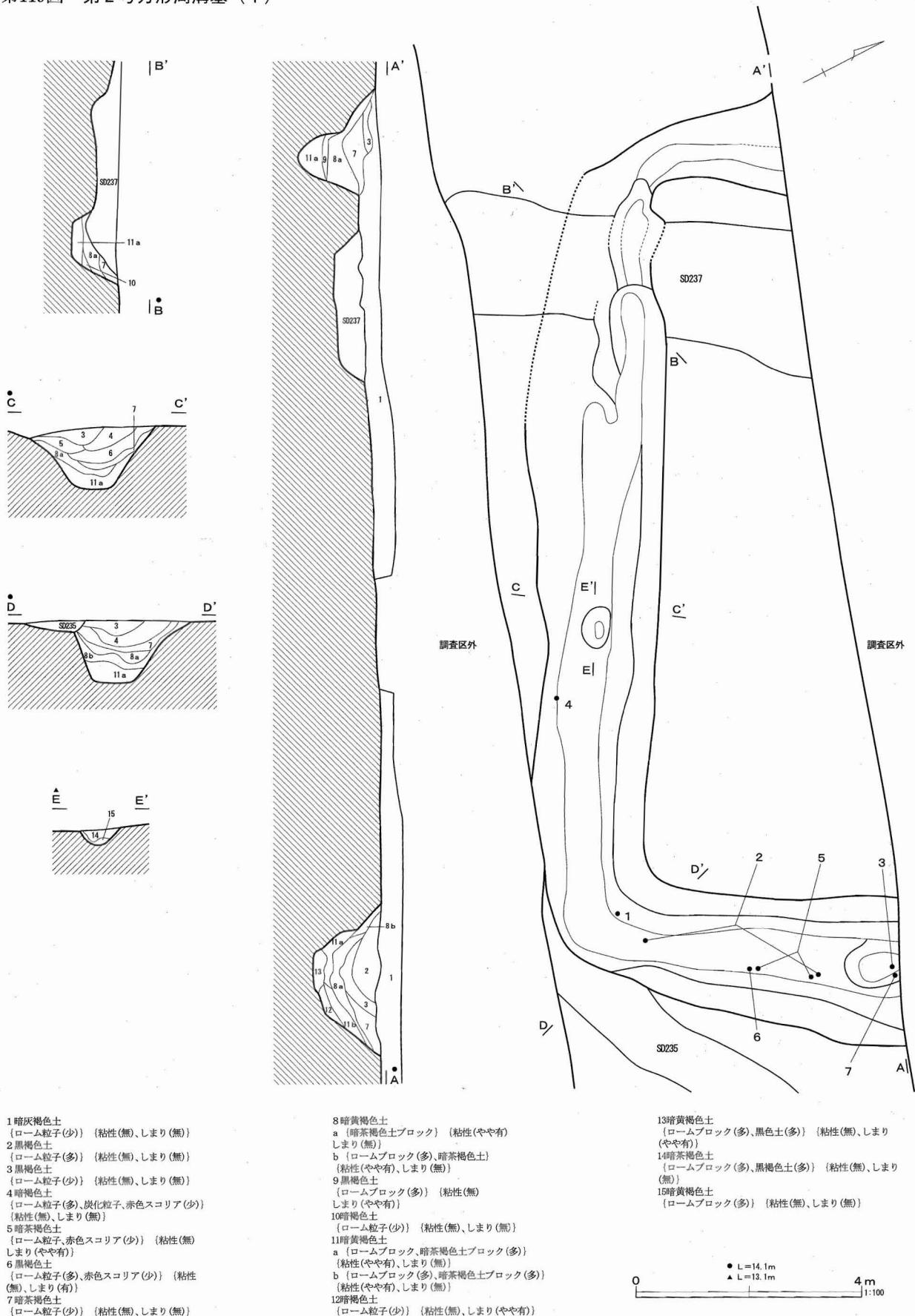
CZ-9グリッドからCZ-12グリッドにかけて位置し

第18表 土器観察表(13)

第11次 第2号方形集溝墓

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	注記	備考
1	壺	19.2	37.2	12.8	B 4	A	赤褐色	SR 1 No.3~7	
2	壺	(13.6)	(22.5)	B 4	A	うすい赤褐色	SR 1 No.1, 3, 2a		
3	壺	8.9	6.9	B 4	B	赤褐色	SR 1 No.10		
4	壺	8.4	13.3	5.3	B 4	A	うすい赤褐色	SR 1 No.4	
5	壺	(6.2)	(4.8)	B 4	A	赤褐色	SR 1 No.1, 2		
6	壺	14.1	32.3	9.7	B 4	A	うすい赤褐色	SR 1 No.2	
7	甕	(23.2)	(6.8)	B 4	A	うすい橙色	SR 1 No.11		

第119図 第2号方形周溝墓（1）



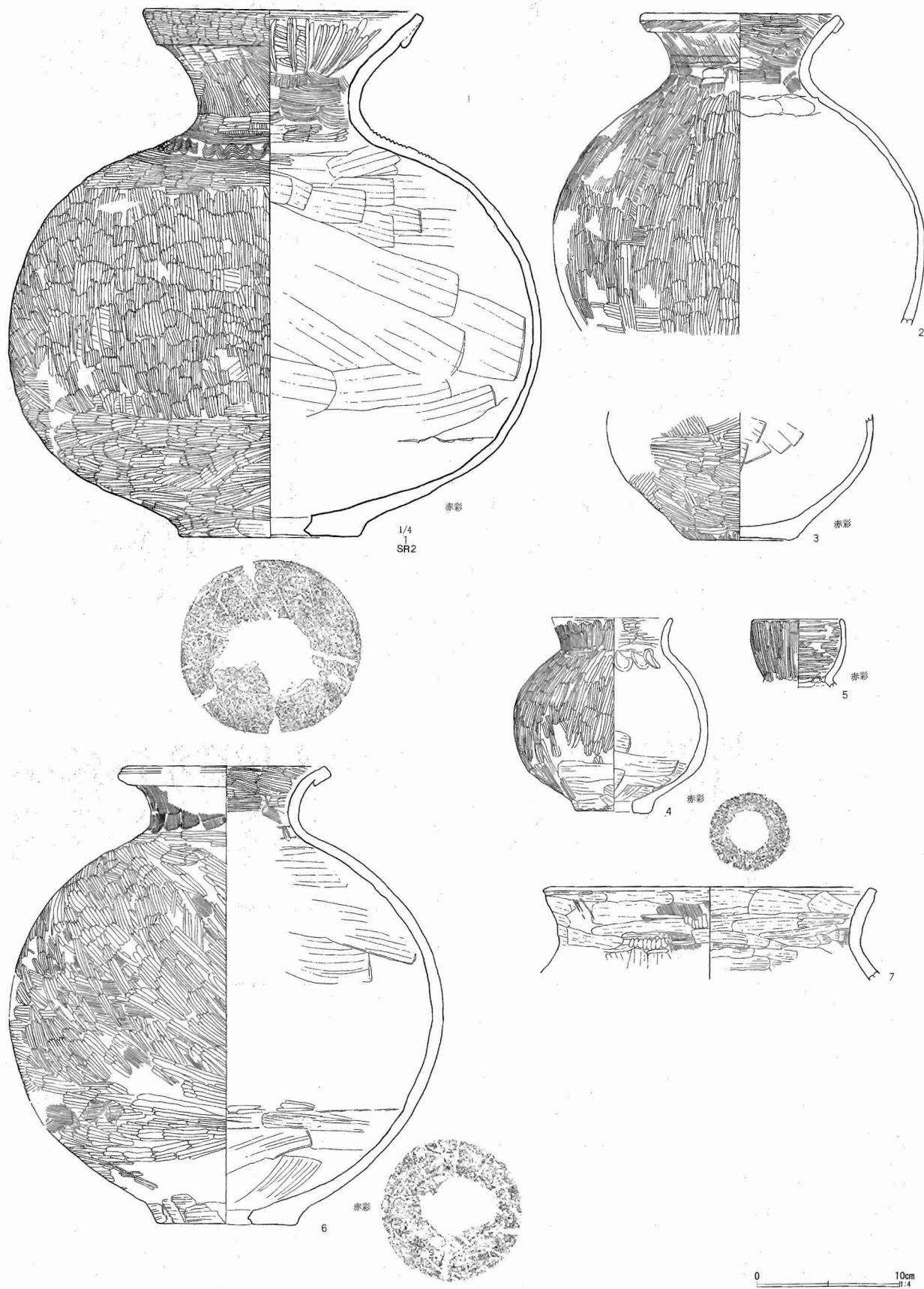
- 1 暗灰褐色土
（ローム粒子（少））（粘性（無）、しまり（無））
2 黒褐色土
（ローム粒子（多））（粘性（無）、しまり（無））
3 黑褐色土
（ローム粒子（少））（粘性（無）、しまり（無））
4 暗褐色土
（ローム粒子（少）、炭化粒子、赤色スコリア（少））
（粘性（無）、しまり（無））
5 暗茶褐色土
（ローム粒子（少）、赤色スコリア（少））（粘性（無）
しまり（やや有））
6 黑褐色土
（ローム粒子（多）、赤色スコリア（少））（粘性
（無）、しまり（有））
7 暗茶褐色土
（ローム粒子（少））（粘性（無）、しまり（無））

- 8 暗黄褐色土
a （暗茶褐色土ブロック）（粘性（やや有）
しまり（無））
b （ロームブロック（多）、暗茶褐色土）
（粘性（やや有）、しまり（無））
9 黑褐色土
（ロームブロック（多））（粘性（無）
しまり（やや有））
10 暗褐色土
（ローム粒子（少））（粘性（無）、しまり（無））
11 暗黃褐色土
a （ロームブロック、暗茶褐色土ブロック（多））
（粘性（やや有）、しまり（無））
b （ロームブロック（多）、暗茶褐色土ブロック（多））
（粘性（やや有）、しまり（無））
12 暗褐色土
（ローム粒子（少））（粘性（無）、しまり（やや有））

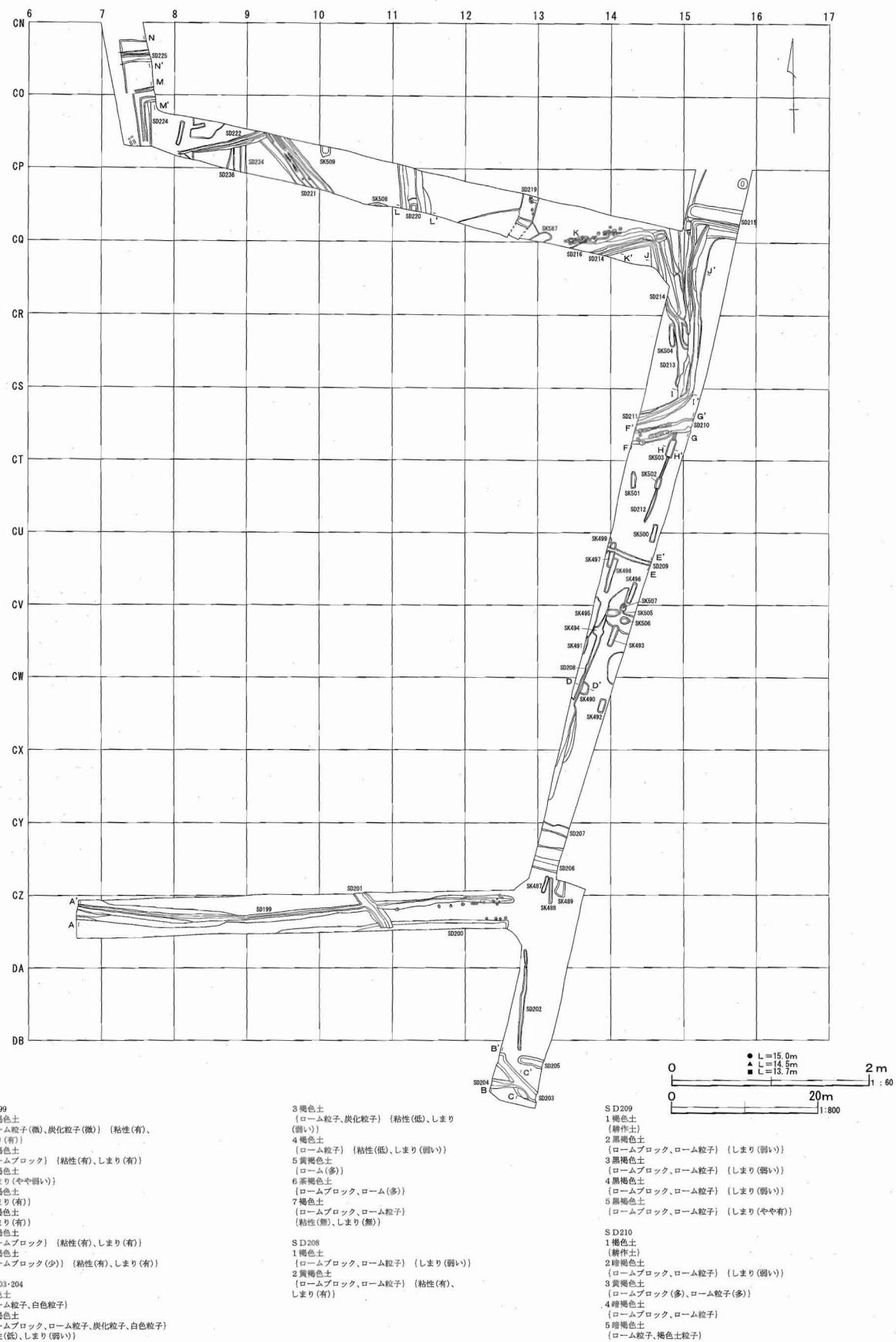
- 13 暗黄褐色土
（ロームブロック（多）、黒色土（多））（粘性（無）、しまり
（やや有））
14 暗茶褐色土
（ロームブロック（多）、黒褐色土（多））（粘性（無）、しま
り（無））
15 暗黃褐色土
（ロームブロック（多））（粘性（無）、しまり（無））

● L=14.1m
▲ L=13.1m
1:100

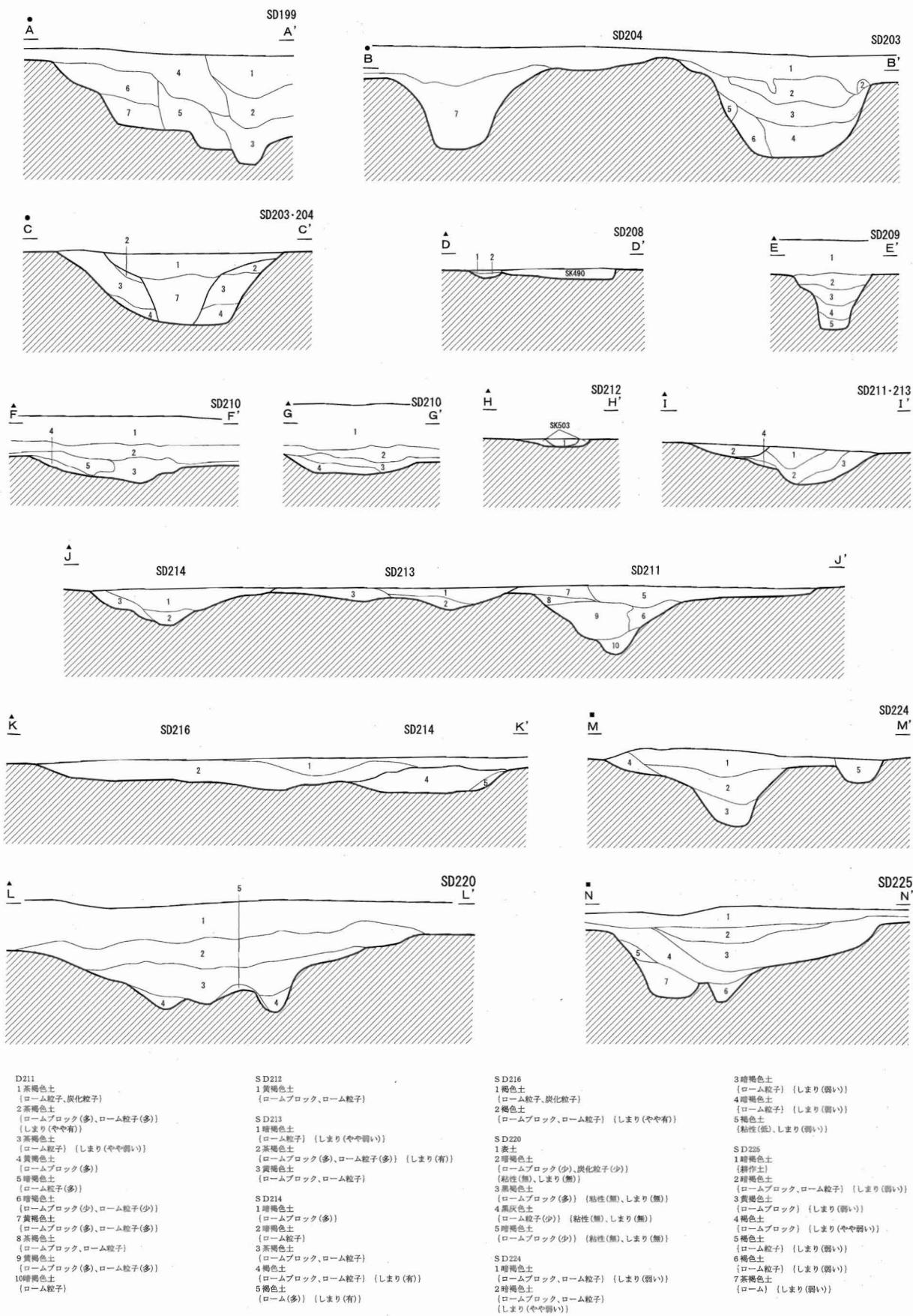
第120図 第2号方形周溝墓（2）



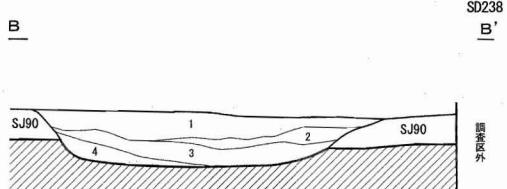
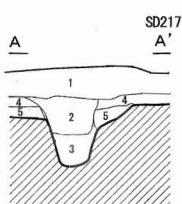
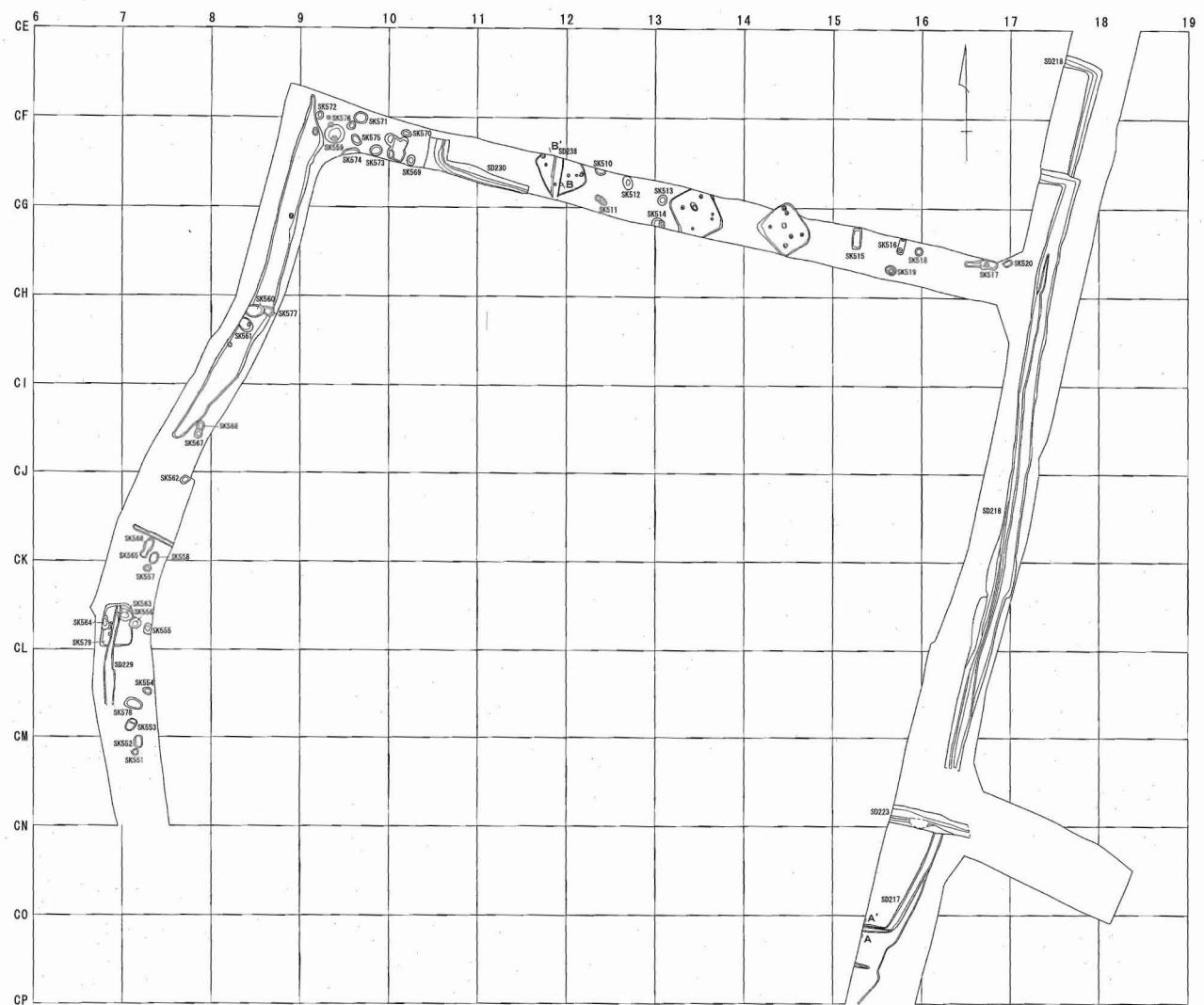
第121図 土壌・溝（中・近世）(1)



第122図 土壌・溝（中・近世）（2）



第123図 土壌・溝（中・近世）（3）



SD217
1 褐色土
(耕作土)
2 褐色土
(ローム粒子)
3 褐色土
(ローム粒子) (しまり(やや有))
4 茶褐色土
(ローム粒子)
5 黄褐色土
(ローム)

SD238
1 黒褐色土
(焼土粒子、炭化粒子、黒色土) (しまり(やや弱い))
2 茶褐色土
(ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子) (しまり(やや弱い))
3 黑褐色土
(焼土粒子、炭化物、炭化粒子) (しまり(やや弱い))
4 褐色土
(ロームブロック、ローム粒子) (しまり(有))

ていた。長さ-約(31.7)m、幅-約1.2m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-88°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第201号溝（第121図）

CY-10グリッドからCZ-11グリッドにかけて位置していた。長さ-約(6.2)m、幅-約2.0m、深さ-約0.7mであった。ほぼN-38°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第202号溝（第121図、図版23）

CZ-12グリッドからDB-12グリッドにかけて位置していた。長さ-約(14.0)m、幅-約0.6m、深さ-約0.2mであった。ほぼN-3°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第203号溝（第121図、第122図、第125図、図版23）

DB-12グリッドからDB-13グリッドにかけて位置していた。長さ-約(7.8)m、幅-約1.3m、深さ-約0.8mであった。ほぼN-45°-Wに伸びていた。

実測できる陶磁器破片はが2点出土した。灰白色の地をした染付である。

中・近世期以降の溝であろう。

第204号溝（第121図、第122図、図版23）

DB-12グリッドに位置していた。長さ-約(2.7)m、幅-約1.3m、深さ-約0.8mであった。ほぼN-87°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第205号溝（第121図）

DB-12グリッドからDB-13グリッドにかけて位置していた。長さ-約(3.5)m、幅-約1.2m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-76°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第206号溝（第121図、第125図）

CY-12グリッドからCY-13グリッドにかけて位置していた。長さ-約(3.5)m、幅-約1.6m、深さ-約0.3mであった。ほぼN-76°-Wに伸びていた。

遺物が1点だけ実測できた。9は灰釉が厚くかかる底部破片。底面に墨書きがある。形状より中・近世期以降の溝であろう。

第207号溝（第121図）

CX-13グリッドからCY-13グリッドにかけて位置していた。長さ-約(3.5)m、幅-約3.4m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-70°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第208号溝（第121図、第122図、図版23）

CV-13グリッドからCW-13グリッドにかけて位置していた。長さ-約(12.4)m、幅-約0.7m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-20°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第209号溝（第121図、第122図）

CU-13グリッドからCU-14グリッドにかけて位置していた。長さ-約(6.4)m、幅-約0.7m、深さ-約0.5mであった。ほぼN-69°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第210号溝（第121図、第122図）

CS-14グリッドからCS-15グリッドにかけて位置していた。長さ-約(8.3)m、幅-約1.8m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-75°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

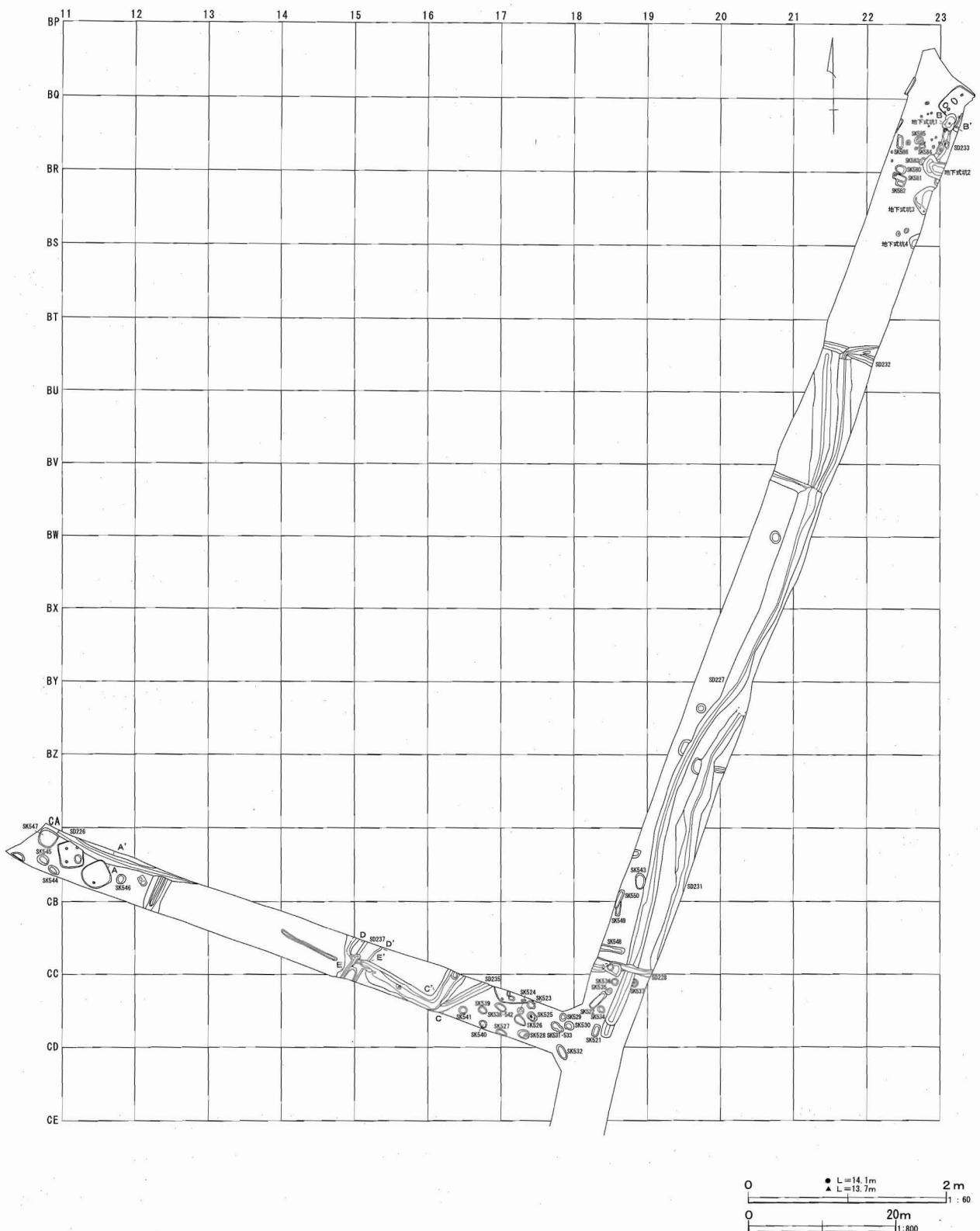
第211号溝（第121図、第122図、図版23）

CO-15グリッドからCS-14グリッドにかけて位置していた。長さ-約(37.8)m、幅-約3.3m(第213号溝と併せて)、深さ-約0.7mであった。ほぼN-4°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

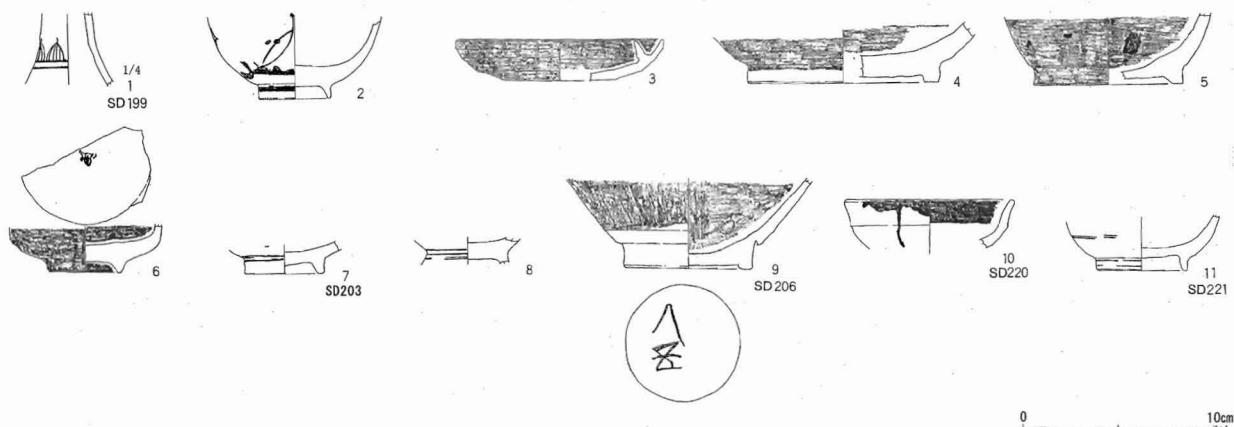
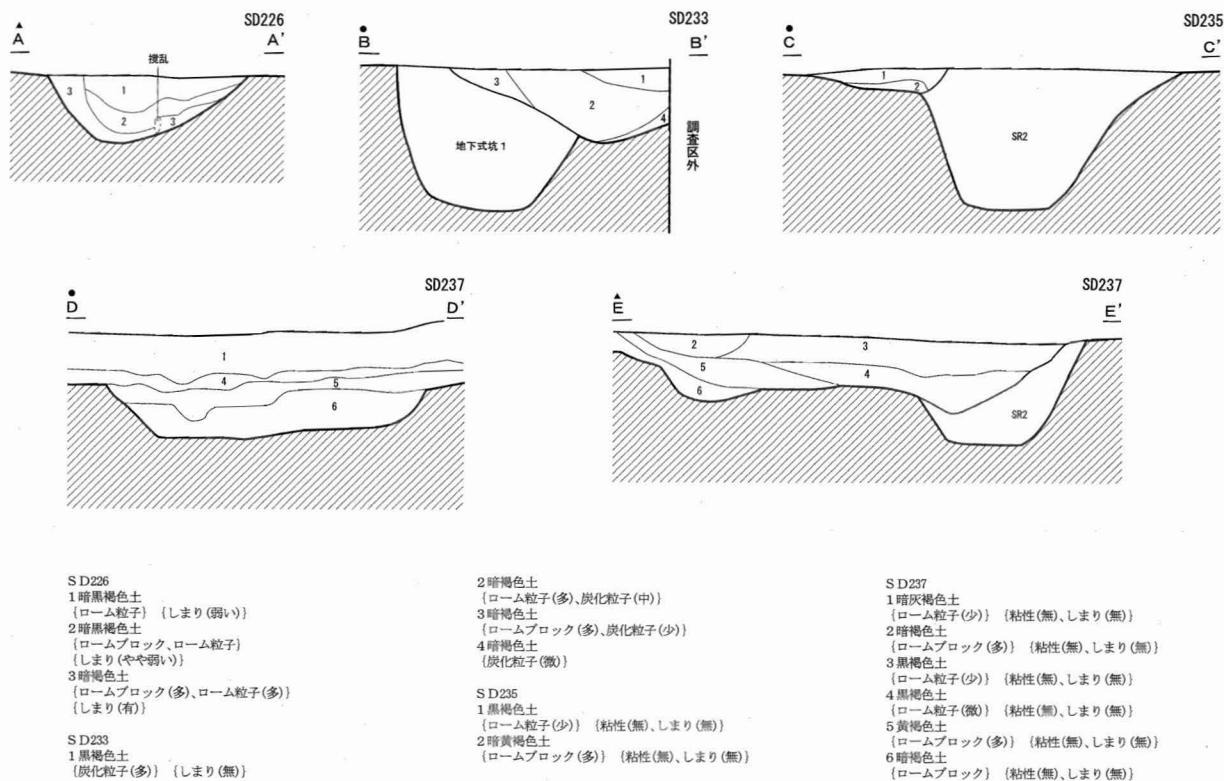
第212号溝（第121図、第122図）

CS-14グリッドからCT-14グリッドにかけて位置していた。長さ-約(13.2)m、幅-約0.5m、深さ-約0.1mであった。ほぼN-19°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第124図 土壌・溝（中・近世）（4）



第125図 土壌・溝（中・近世）（5）



第213号溝（第121図、第122図、図版23）

CP-14グリッドからCR-15グリッドにかけて位置していた。長さ約(21.2)m、幅約3.3m(第211号溝と併せて)、深さ約0.2mであった。ほぼN-2°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第214号溝（第121図、第122図、図版23）

CQ-13グリッドからCR-15グリッドにかけて位置していた。長さ約(22.4)m、幅約2.8m(第216号溝と併せて)、深さ約0.4mであった。ほぼN-18°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第215号溝（第121図）

CP-15グリッドに位置していた。長さ-約(7.4) m、幅-約2.0 m、深さ-約0.5 mであった。ほぼN-80°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第216号溝（第121図、第122図、図版23）

CQ-13グリッドからCP-14グリッドにかけて位置していた。長さ-約(12.4) m、幅-約2.8 m(第214号溝と併せて)、深さ-約0.2 mであった。ほぼN-76°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第217号溝（第123図、図版23）

CN-16グリッドからCO-15グリッドにかけて位置していた。長さ-約(15.3) m、幅-約1.0 m、深さ-約0.5 mであった。ほぼN-28°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第218号溝（第123図）

CE-17グリッドからCM-16グリッドにかけて位置していた。長さ-約(42.0) m(CF-17グリッドで西方にも曲がる)、幅-約1.7 m、深さ-約1.3 mであった。ほぼN-11°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第219号溝（第121図）

CP-12グリッドに位置していた。長さ-約(4.4) m、幅-約2.2 m、深さ-約0.1 mであった。ほぼN-16°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第220号溝（第121図、第122図、第125図）

CO-11グリッドからCP-11グリッドにかけて位置していた。長さ-約(6.0) m、幅-約3.2 m、深さ-約0.8 mであった。ほぼN-10°-Wに伸びていた。

実測できる陶器が1点出土した。10は口縁部付近に鉄釉がかけられる。形状より中・近世期以降の溝であろう。

第221号溝（第121図、第125図、図版23）

CO-9グリッドからCO-10グリッドにかけて位置

していた。長さ-約(9.9) m、幅-約3.1 m、深さ-約0.4 mであった。ほぼN-40°-Wに伸びていた。

実測できる陶磁器が1点出土した。11は染付椀。形状より中・近世期以降の溝であろう。

第222号溝（第121図）

CO-8グリッドからCO-9グリッドにかけて位置していた。長さ-約(11.8) m、幅-約1.4 m、深さ-約0.3 mであった。ほぼN-77°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第223号溝（第123図）

CM-15グリッドからCN-16グリッドにかけて位置していた。長さ-約(9.0) m、幅-約2.2 m、深さ-約0.6 mであった。ほぼN-75°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第224号溝（第121図、第122図）

CN-7グリッドからCO-7グリッドにかけて位置していた。長さ-約(7.5) m、幅-約2.9 m、深さ-約0.6 mであった。ほぼN-80°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第225号溝（第121図、第122図）

CN-7グリッドに位置していた。長さ-約(4.0) m、幅-約2.7 m、深さ-約0.8 mであった。ほぼN-86°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第226号溝（第124図、第125図）

CA-10グリッドからCA-12グリッドにかけて位置していた。長さ-約(20.0) m、幅-約1.4 m、深さ-約0.5 mであった。ほぼN-69°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第227号溝（第124図）

BT-21グリッドからCC-18グリッドにかけて位置していた。長さ-約(50.4) m(BV-21グリッドで西方にも曲がる)、幅-約1.2 m、深さ-約0.6 mであった。ほぼ

N-19°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第228号溝（第124図）

CB-18グリッドからCC-19グリッドにかけて位置していた。長さ約(7.8)m、幅約1.0m、深さ約0.5mであった。ほぼN-76°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第229号溝（第123図）

CK-6グリッドからCL-6グリッドにかけて位置していた。長さ約(10.9)m、幅約1.3m、深さ約0.3mであった。ほぼN-5°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第230号溝（第123図）

CF-10グリッドからCF-11グリッドにかけて位置していた。長さ約(12.6)m、幅約(1.6)m、深さ約0.5mであった。ほぼN-73°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第231号溝（第124図）

BT-22グリッドからCB-19グリッドにかけて位置していた。長さ約(46.2)m、幅約1.3m、深さ約0.4mであった。ほぼN-19°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第232号溝（第124図）

BT-21グリッドからBT-22グリッドにかけて位置していた。長さ約(3.6)m、幅約0.8m、深さ約0.4mであった。ほぼN-70°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第233号溝（第124図、第125図）

BQ-23グリッドからBR-22グリッドにかけて位置していた。長さ約(5.2)m、幅約(0.7)m、深さ約0.6mであった。ほぼN-21°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第234号溝（第121図）

CO-8グリッドからCP-8グリッドにかけて位置していた。長さ約(2.9)m、幅約1.1m、深さ約0.1mであった。ほぼN-7°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第235号溝（第124図、第125図）

CC-16グリッドに位置していた。長さ約(8.0)m、幅約1.2m、深さ約0.2mであった。ほぼN-63°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第236号溝（第121図）

CO-8グリッドからCP-8グリッドにかけて位置していた。長さ約(3.7)m、幅約0.8m、深さ約0.1mであった。ほぼN-0°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第237号溝（第124図、第125図）

CB-15グリッドからCC-14グリッドにかけて位置していた。長さ約(5.9)m、幅約2.5m、深さ約0.4mであった。ほぼN-34°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

第238号溝（第123図）

CF-11グリッドに位置していた。長さ約(4.1)m、幅約1.1m、深さ約0.4mであった。ほぼN-5°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期以降の溝であろう。

(7) グリッド出土遺物

第1群土器（第126図～第128図27）

縄文時代早期後半条痕文系土器群を一括する。いずれも表裏に条痕文を施し、胎土に纖維を含む。文様の状況によって細分する。

a（第126図1～12）

微隆起線によって、幾何学的な文様を区画し密接した沈線文を充填する土器群である。1～6は同一個体かと思われるが接合しなかった。5は微隆起線

の接点に刻みが入る。8、9は微隆起線上に刻みが入る。10は曲線的なモチーフが見られる。口縁部は角頭状になることが多い。概して、厚手で纖維を多く含む。野島式に属するものか。

b (第126図13~20)

沈線による文様を主体とする土器群である。13~16は、第1群aを継承するような文様構成であるが、区画が沈線で行われる。区画沈線の交点に円形刺突文が施文されることがある。17は沈線区画内に浅い刺突文が充填される。19、20は格子目状の文様が描かれる。鵜ヶ島台式に属するものと思われる。

c (第126図22~第128図27)

条痕文を唯一の文様とする土器群である。時期の同定は難しい。22~29は口縁部破片。以下は、すべて胴部破片である。17~26は条痕文というより擦痕文に近い。27は尖底。

第2群土器 (第128図28)

縄文時代前期末葉の土器である。1点だけ出土した。連「ハ」状の集合沈線文を地文として刻みのついた隆帯が垂下する。

第3群土器 (第128図29~37)

縄文時代中期初頭から中葉にかけての土器を一括する。29は横「S」字状の結節文が施文される。30は口縁下に爪形文が1列配され、以下に横走縄文が施文される。32は胎土に金雲母を含む阿玉台式土器である。単列の結節文で区画し斜行の結節文を加えている。33も胎土に金雲母を含む阿玉台式土器である。34~37は勝坂式土器。隆帯や沈線に沿って大形の爪形文が施文される。

第4群土器 (第129図1~15)

縄文時代後期前葉堀ノ内1式土器を本群とする。1は無文で内彎する口縁部である。あるいは中期段階か。2~4は縄文を地文として縦位の「S」字状文が描かれる。2は口縁部破片で波状口縁。口縁部無文帯を沈線で区画し、波頂部下に一对の盲孔が配される。6、7は口縁部破片で縄文が施文されている。8から11は胴部破片で狭い沈線間を磨り消して

いる。縄文はR L 縦回転。12~15は沈線文を唯一の文様とするもの。あるいは、次の第5群土器かもしれない。

第5群土器 (第129図16~26)

縄文時代後期堀ノ内2式土器を本群とする。16~18は外反する深鉢で、磨消縄文で三角形状のモチーフを描いている。20~26は沈線文系の深鉢。細めの沈線が密集して描かれる。

第6群土器 (第129図31)

口縁下に隆帯で三角形状の文様が描かれる。隆帯下で「く」の字状に屈曲するものと思われる。縄文時代晚期大洞C 2式新段階以降と思われる。

第7群土器 (第129図27~30、32、33)

縄文が施文された胴部破片。および底部を一括した。

第8群土器 (第130図10、11)

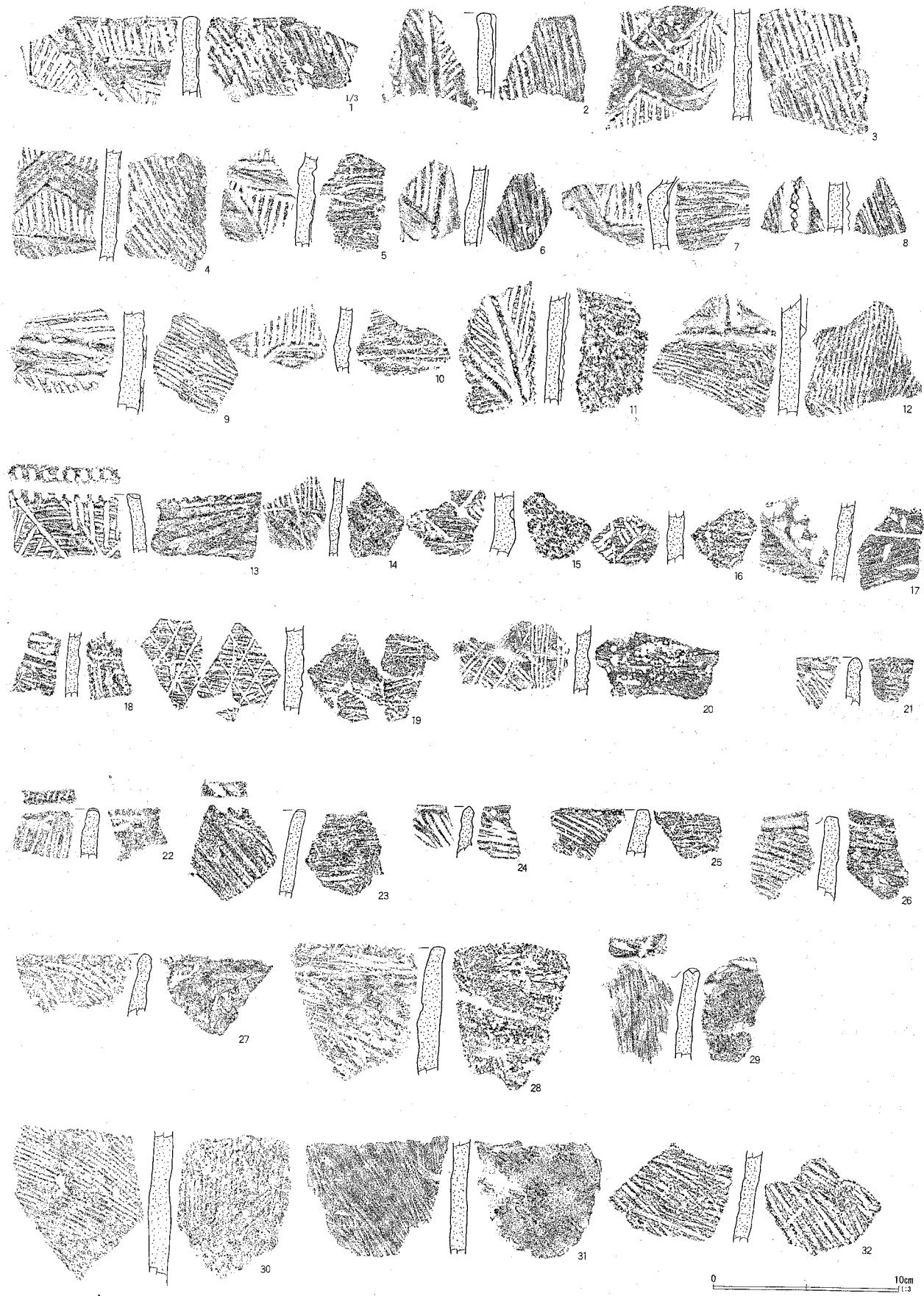
近世期の陶磁器、かわらけが2点ほど実測できた。1はかわらけで器高が低い。底面は糸切。2は黒釉がかかった天目茶碗である。ケズリ高台。

石器 (第130図)

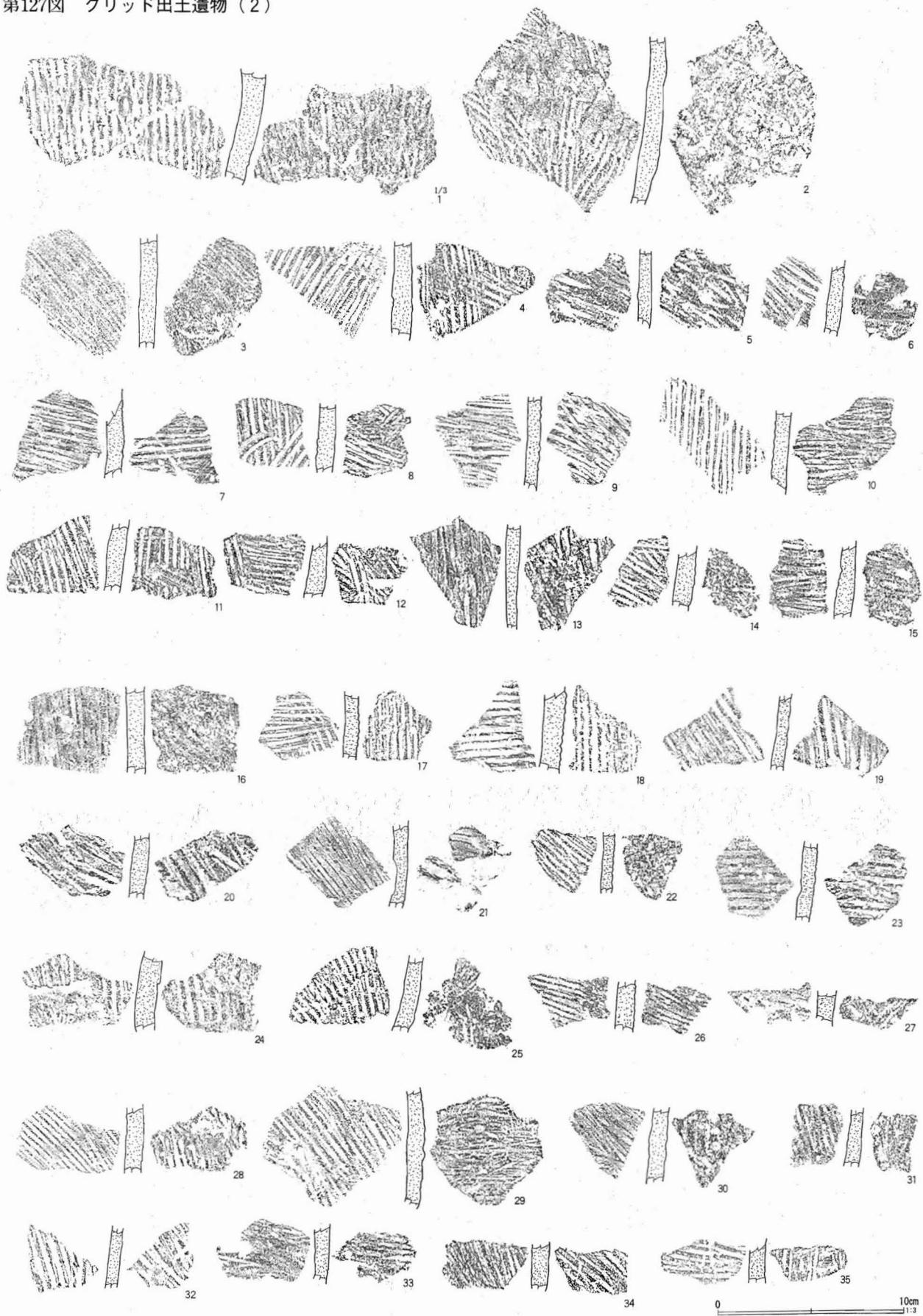
1は蛇紋岩製の定格磨製石斧である。全体に幅に対して、長さが短く、何度も刃部再生をしているものと思われる。刃部が非常に丁寧に作られている。2・3は礫器で表面に自然面を残す。4は敲石である。側面に敲打痕がある。いずれも、縄文時代の石器と思われる。

5~9は中・近世期の砥石である。5、8は断面が三角形のもの。7、9は断面が平坦なもので、7は小形品。

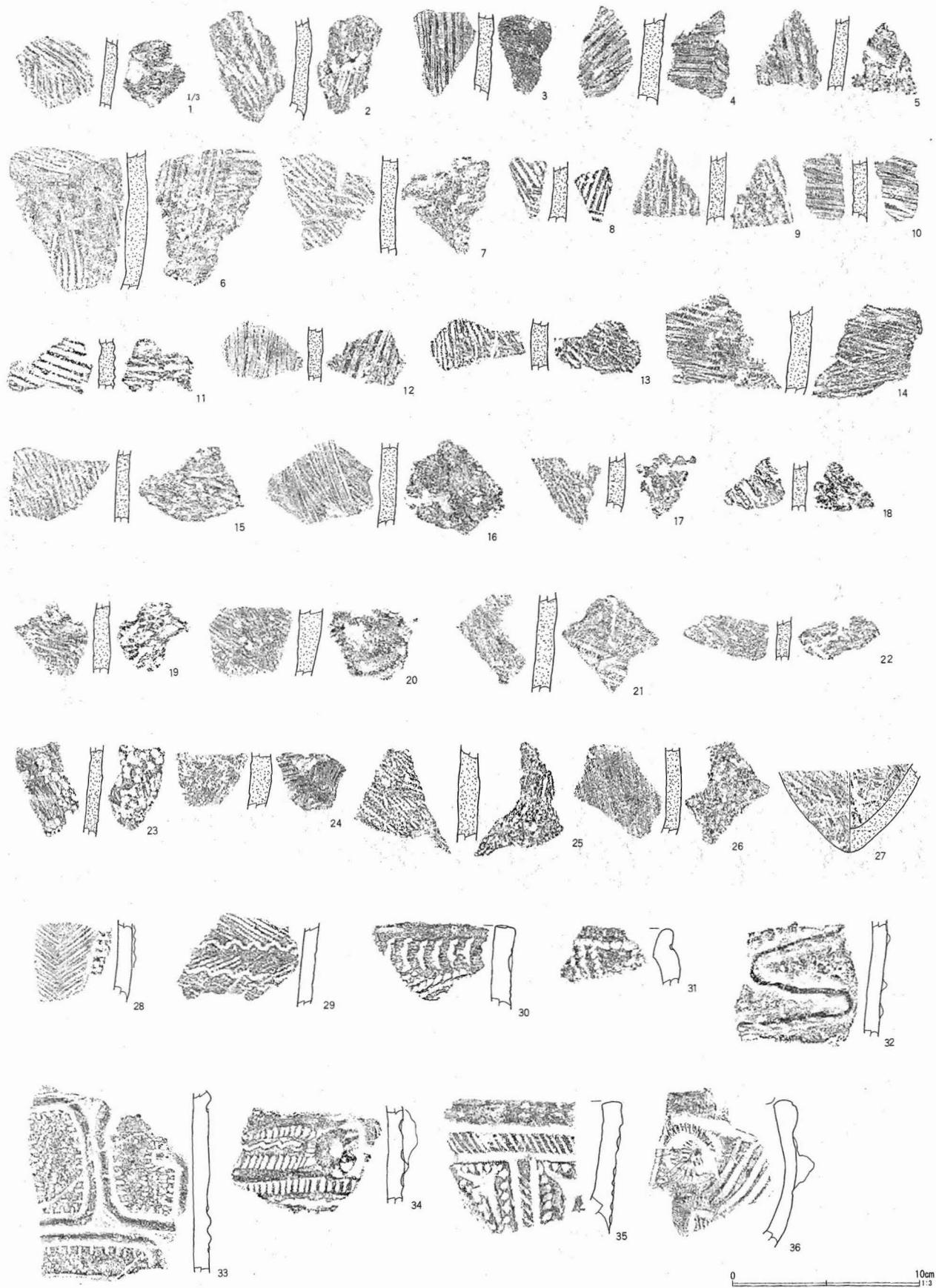
第126図 グリッド出土遺物（1）



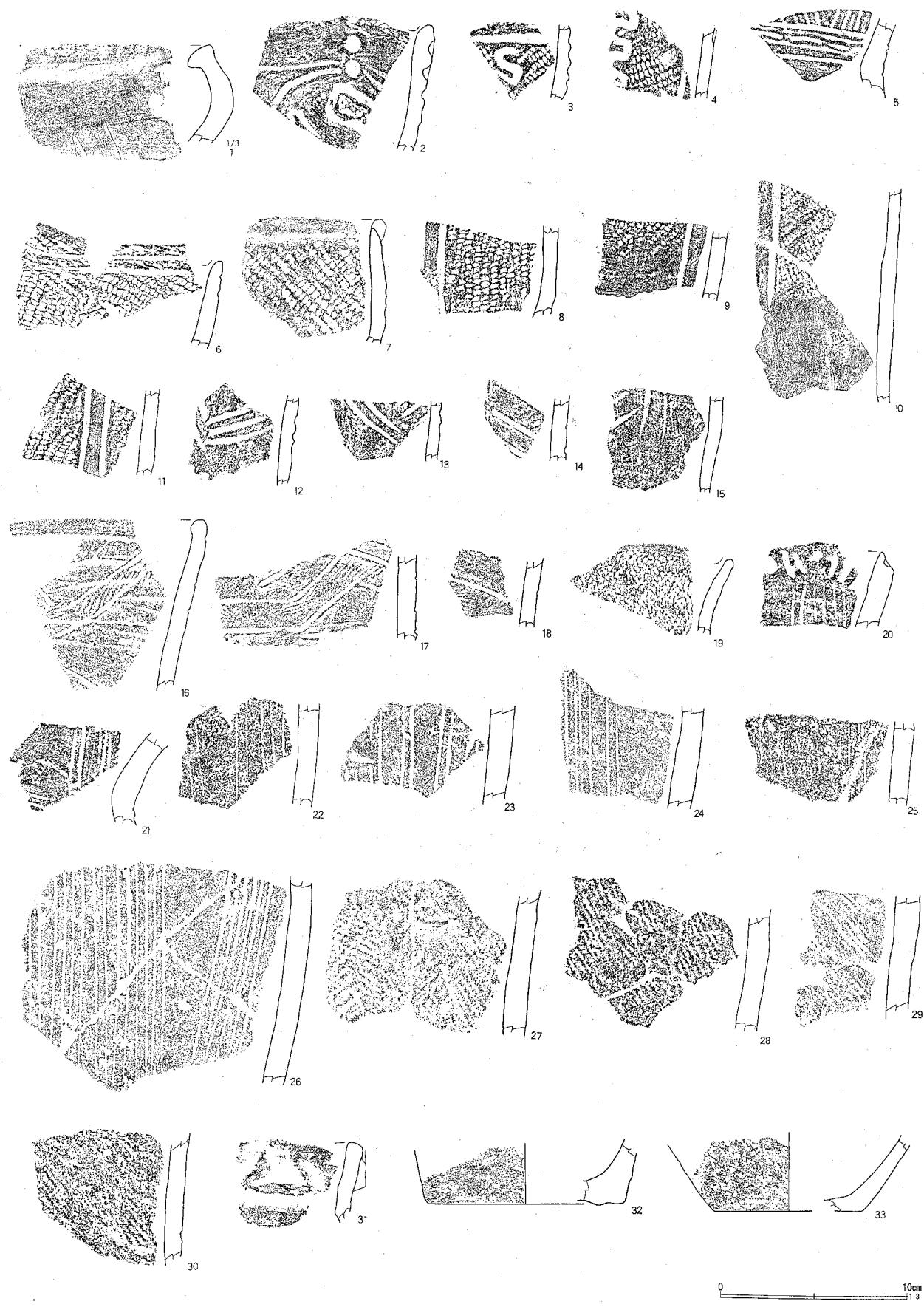
第127図 グリッド出土遺物（2）



第128図 グリッド出土遺物（3）

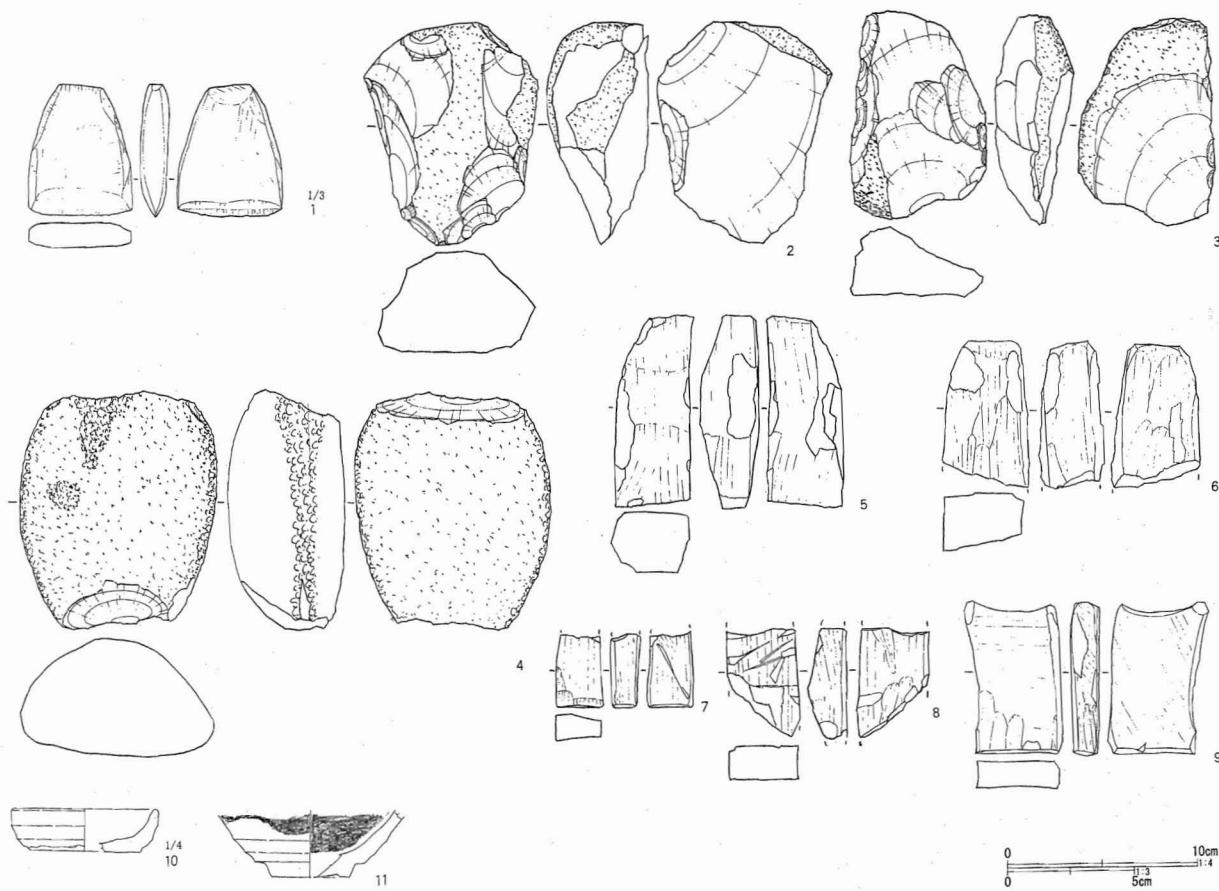


第129図 グリッド出土遺物（4）



0 10cm 1:3

第130図 グリッド出土遺物（5）



第19表 石器観察表（4）

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
109図-15	第532号土壌	打製石斧	10.2×6.2×2.6	181.29	砂岩	
130図-1	グリッド	定格磨製石斧	5.2×4.2×1.1	42.32	蛇紋岩	
130図-2	グリッド	礫器	8.7×6.9×3.9	256.82	硬質砂岩	
130図-3	グリッド	礫器	8.3×5.4×3.1	143.17	硬質砂岩	
130図-4	グリッド	敲石	9.4×7.8×4.6	448.92	安山岩	
130図-5	グリッド	砥石	7.5×3.1×2.4	76.26	安山岩	
130図-6	グリッド	砥石	(5.4)×3.4×2.4	66.67	安山岩	
130図-7	グリッド	砥石	(2.9)×1.8×1.0	10.13	安山岩	
130図-8	グリッド	砥石	(4.3)×2.9×1.3	19.42	砂岩	
130図-9	グリッド	砥石	6.0×3.9×1.1	44.77	安山岩	

第20表 陶磁器観察表

掲図番号	遺構	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			成形	装飾			胎土色	製作	
					a	b	c		絵付・釉薬	文様	装飾特徴		製作地	備考
84-1	SD3	磁器	中皿	丸形	12	4.1	6.8	ロクロ削り高台	染付			灰白色		
2	SD2	磁器	中皿	丸形	12			染付	内:草花文			灰白色		
87-1	SD159	磁器	小椀	丸形	5.8				染付			白色		
2	SD163	土器	擂鉢						鉄釉			赤褐色		
3	SD165	陶器	灯明受皿		10	1.9	4.4	ロクロ受部貼付	鉄釉			灰白色	美濃・瀬戸	
4	SD166・167	陶器	香炉				7.8		鉄釉			灰白色	美濃・瀬戸	
5	SD173・174・175	陶器	香炉				7		鉄釉			灰白色	美濃・瀬戸	
6	SD178	土器	小皿	平形無高台	8.2	2.2	5.9	ロクロ			底部糸切	褐色	在地	
7	SD188	陶器	中椀		10	5.4		ロクロ貼付輪高台	鉄釉			灰白色	美濃・瀬戸	
8	SD190	陶器					5.4	ロクロ貼付輪高台	鉄釉	鉄釉滴下		灰白色	美濃・瀬戸	
9	SD191	陶器	五寸皿	丸型・底狭	13.5	3	6.7	ロクロ削り高台	鉄釉			黄灰色	美濃・瀬戸	
125-1	SD199	磁器	中瓶?	鶴首逆 蕉形	40			ロクロ	染付			白色		
2	SD199	磁器	中椀	丸形		4.3	3.8	ロクロ削り高台	染付	外:草花文		灰白色		
3	SD199	陶器	灯明受皿		11	5.9		ロクロ受部貼付	鉄釉			灰白色	美濃・瀬戸	
4	SD199	陶器					10	ロクロ削り高台	鉄釉	高台部無釉		灰白色	美濃・瀬戸	
5	SD199	陶器					7.8	ロクロ削り高台	鉄釉			黄灰色	美濃・瀬戸	
6	SD199	磁器	中椀				3.6		外:青磁釉 内:染付	内コンニャク印文		灰白色		
7	SD203	陶器	中椀?				4	ロクロ削り高台	染付			黄灰色	美濃・瀬戸	
8	SD203	磁器	中椀?					ロクロ削り高台	染付			灰白色		
9	SD206	陶器					6.8	ロクロ削り高台	鉄釉	筆書き		灰色		
10	SD220	陶器	小椀		9.1			ロクロ削り高台	鉄釉			灰白色		
11	SD221	磁器	中椀	丸形		4.8		ロクロ削り高台	染付					
130-10	グリッド	土器	小皿	平形無高台	7.6	2.3	5.9	ロクロ		底部糸切	褐色	在地		
130-11	グリッド	陶器	天目				4	ロクロ削り高台	鉄釉		高台部無釉	黄灰色	美濃・瀬戸	

第21表 新旧対照表(1)

SK

番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号
231	9次1	290	10次44	349	10次103	408	10次162	467	10次221	526	11次40	585	11次103
232	9次3	291	10次45	350	10次104	409	10次163	468	10次222	527	11次41	586	11次104
233	9次4	292	10次46	351	10次105	410	10次164	469	10次223	528	11次42	587	11次105
234	9次5	293	10次47	352	10次106	411	10次165	470	10次224	529	11次43		
235	9次6	294	10次48	353	10次107	412	10次166	471	10次225	530	11次44		
236	9次7	295	10次49	354	10次108	413	10次167	472	10次226	531	11次45		
237	9次8	296	10次50	355	10次109	414	10次168	473	10次227	532	11次46		
238	9次9	297	10次51	356	10次110	415	10次169	474	10次228	533	11次47		
239	9次10	298	10次52	357	10次111	416	10次170	475	10次229	534	11次48		
240	9次11	299	10次53	358	10次112	417	10次171	476	10次230	535	11次49		
241	9次12	300	10次54	359	10次113	418	10次172	477	10次231	536	11次50		
242	9次13	301	10次55	360	10次114	419	10次173	478	10次232	537	11次51		
243	9次14	302	10次56	361	10次115	420	10次174	479	10次233	538	11次52		
244	9次15	303	10次57	362	10次116	421	10次175	480	10次234	539	11次53		
245	9次16	304	10次58	363	10次117	422	10次176	481	10次235	540	11次54		
246	9次17	305	10次59	364	10次118	423	10次177	482	10次236	541	11次55		
247	10次1	306	10次60	365	10次119	424	10次178	483	10次237	542	11次56		
248	10次2	307	10次61	366	10次120	425	10次179	484	10次238	543	11次57		
249	10次3	308	10次62	367	10次121	426	10次180	485	10次239	544	11次58		
250	10次4	309	10次63	368	10次122	427	10次181	486	10次240	545	11次59		
251	10次5	310	10次64	369	10次123	428	10次182	487	11次1	546	11次60		
252	10次6	311	10次65	370	10次124	429	10次183	488	11次2	547	11次61		
253	10次7	312	10次66	371	10次125	430	10次184	489	11次3	548	11次62		
254	10次8	313	10次67	372	10次126	431	10次185	490	11次4	549	11次63		
255	10次9	314	10次68	373	10次127	432	10次186	491	11次5	550	11次64		
256	10次10	315	10次69	374	10次128	433	10次187	492	11次6	551	11次65		
257	10次11	316	10次70	375	10次129	434	10次188	493	11次7	552	11次66		
258	10次12	317	10次71	376	10次130	435	10次189	494	11次8	553	11次67		
259	10次13	318	10次72	377	10次131	436	10次190	495	11次9	554	11次68		
260	10次14	319	10次73	378	10次132	437	10次191	496	11次10	555	11次69		
261	10次15	320	10次74	379	10次133	438	10次192	497	11次11	556	11次70		
262	10次16	321	10次75	380	10次134	439	10次193	498	11次12	557	11次71		
263	10次17	322	10次76	381	10次135	440	10次194	499	11次13	558	11次72		
264	10次18	323	10次77	382	10次136	441	10次195	500	11次14	559	11次73		
265	10次19	324	10次78	383	10次137	442	10次196	501	11次15	560	11次74		
266	10次20	325	10次79	384	10次138	443	10次197	502	11次16	561	11次75		
267	10次21	326	10次80	385	10次139	444	10次198	503	11次17	562	11次76		
268	10次22	327	10次81	386	10次140	445	10次199	504	11次18	563	11次77		
269	10次23	328	10次82	387	10次141	446	10次200	505	11次19	564	11次78		
270	10次24	329	10次83	388	10次142	447	10次201	506	11次20	565	11次79		
271	10次25	330	10次84	389	10次143	448	10次202	507	11次21	566	11次80		
272	10次26	331	10次85	390	10次144	449	10次203	508	11次22	567	11次81		
273	10次27	332	10次86	391	10次145	450	10次204	509	11次23	568	11次82		
274	10次28	333	10次87	392	10次146	451	10次205	510	11次24	569	11次83		
275	10次29	334	10次88	393	10次147	452	10次206	511	11次25	570	11次84		
276	10次30	335	10次89	394	10次148	453	10次207	512	11次26	571	11次85		
277	10次31	336	10次90	395	10次149	454	10次208	513	11次27	572	11次86		
278	10次32	337	10次91	396	10次150	455	10次209	514	11次28	573	11次87		
279	10次33	338	10次92	397	10次151	456	10次210	515	11次29	574	11次88		
280	10次34	339	10次93	398	10次152	457	10次211	516	11次30	575	11次89		
281	10次35	340	10次94	399	10次153	458	10次212	517	11次31	576	11次90		
282	10次36	341	10次95	400	10次154	459	10次213	518	11次32	577	11次91		
283	10次37	342	10次96	401	10次155	460	10次214	519	11次33	578	11次92		
284	10次38	343	10次97	402	10次156	461	10次215	520	11次34	579	11次93		
285	10次39	344	10次98	403	10次157	462	10次216	521	11次35	580	11次95		
286	10次40	345	10次99	404	10次158	463	10次217	522	11次36	581	11次96		
287	10次41	346	10次100	405	10次159	464	10次218	523	11次37	582	11次97		
288	10次42	347	10次101	406	10次160	465	10次219	524	11次38	583	11次101		
289	10次43	348	10次102	407	10次161	466	10次220	525	11次39	584	11次102		

地下式坑	
番号	旧番号
1	11次94
2	11次98
3	11次99
4	11次100

第22表 新旧対照表 (2)

SJ

SD

FP

番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号
43	10次1	129	9次1	185	10次48
44	10次2	130	9次2	186	10次49
45	10次3	131	9次3	187	10次50
46	10次4	132	9次4	188	10次51
47	10次5	133	9次5	189	10次52
48	10次6	134	9次6	190	10次53
49	10次7	135	9次7	191	10次54
50	10次8	136	9次8	192	10次55
51	10次9	137	9次9	193	10次56
52	10次10	138	9次10	194	10次57
53	10次11	139	10次1	195	10次58
54	10次12	140	10次2	196	10次59
55	10次13	141	10次3	197	10次60
56	10次14	142	10次4	198	10次61
57	10次15	143	10次5	199	11次1
58	10次16	144	10次6	200	11次2
59	10次17	145	10次7	201	11次3
60	10次18	146	10次8	202	11次4
61	10次19	147	10次9	203	11次5
62	10次20	148	10次10	204	11次6
63	10次21	149	10次11	205	11次7
64	10次22	150	10次12	206	11次8
65	10次23a	151	10次13	207	11次9
66	10次23b	152	10次14	208	11次10
67	10次24	153	10次15	209	11次11
68	10次25	154	10次16	210	11次12
69	10次26	155	10次17	211	11次13
70	10次27	156	10次18	212	11次14
71	10次28	157	10次19	213	11次15
72	10次29	158	10次20	214	11次16
73	10次30	159	10次21	215	11次17
74	10次31	160	10次22	216	11次18
75	10次32	161	10次23	217	11次19
76	10次33a	162	10次24	218	11次20
77	10次33b	163	10次25	219	11次21
78	10次33c	164	10次26	220	11次22
79	10次34	165	10次27	221	11次23
80	10次35	166	10次28	222	11次24
81	10次36	167	10次29	223	11次25
82	10次37	168	10次30	224	11次26
83	10次38	169	10次31	225	11次27
84	10次39	170	10次32	226	11次28
85	10次40a	171	10次33	227	11次29
86	10次40b	172	10次34	228	11次30
87	10次41	173	10次35	229	11次31
88	10次42	174	10次36	230	11次32
89	10次43	175	10次37	231	11次33
90	11次1	176	10次39	232	11次34
91	11次2	177	10次40	233	11次35
92	11次3	178	10次41	234	11次36
93	11次4	179	10次42	235	11次37
94	11次5	180	10次43	236	11次38
95	11次6	181	10次44	237	11次39
96	11次7	182	10次45	238	11次40
17	11次8	183	10次46		
16	11次16	184	10次47		

番号	旧番号
21	10次1
22	10次2
23	11次1
24	11次2
25	11次3

SE

番号	旧番号
7	10次1
8	10次2
9	10次3
10	10次4
11	10次5
12	10次6
13	11次1

SX

番号	旧番号
2	10次1
3	10次2
4	10次3
5	10次4

SR

番号	旧番号
2	11次1

SB

番号	旧番号
7	10次1
8	10次2
9	10次3
10	10次4

V 結語

(1) 古墳時代前期について

今回の報文で、伊奈新都市区画整理事業関係で発掘した向原遺跡の報告分はほぼ終了する。新幹線部分を含めて、遺跡内にトレントを縦横に配置したような調査であった。遺跡の範囲やおよその状況がおぼろげながらわかったというような状況である。

これまで、筆者が担当した集落の時期について、一貫して古墳時代前期という位置付けをしてきた。これは土器の編年観に起因している。従来からいわれてきた「弥生時代後期～古墳時代前期」という表現は使わなかった。(こうした表現はあいまいでどの住居跡が弥生時代後期なのかがわからない場合が多い)これは、ある程度意図的なものである。弥生時代側と古墳時代側に振り分けてしまい、その範疇から外れたものについて弥生時代後期に戻していくとするものである。

向原遺跡がのる大宮台地ではかなりの地域性が確認される。伝統的な下膨れの器形を持つ土器が古いのか、縄文を持つ土器が古いのかなどの疑問は、地

域性のフィルターを通して再度検証されなければならないのではないか。また、他の地域との関連も必要である。

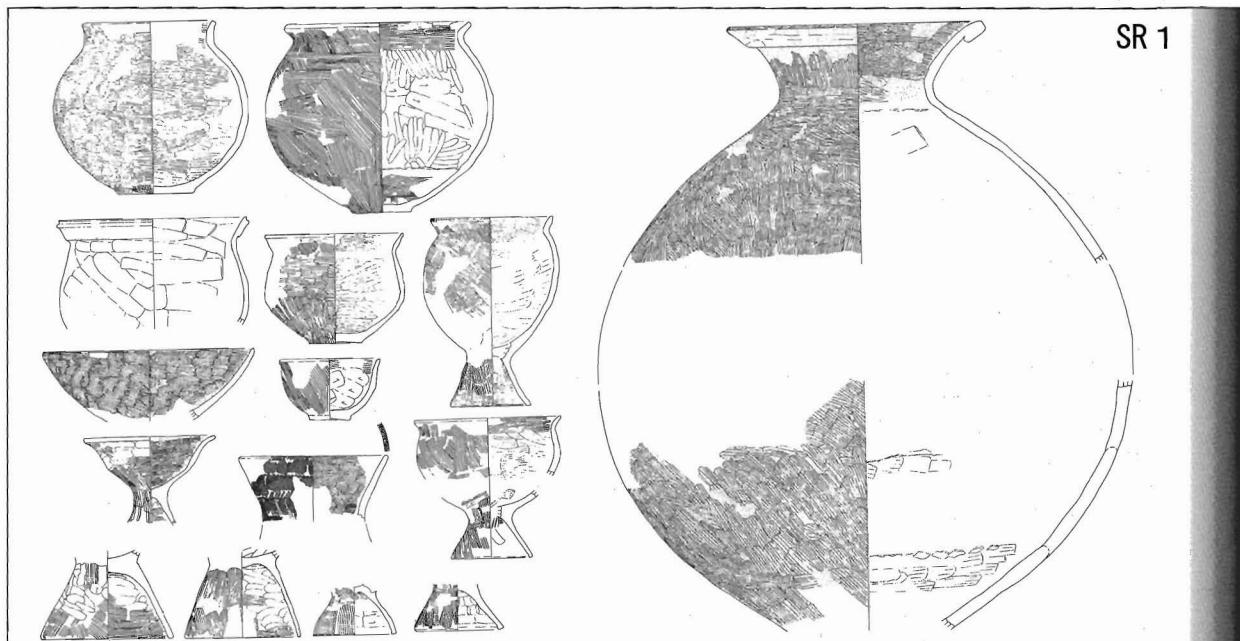
いろいろな要素が交じり合って、遺跡内の住居跡出土土器の比較も簡単ではない。さまざまな要素を組み合わせて、数多くの検証を行いよりバランスのよい土器論や集落論にしたい。今回は下記の2点について、端緒を考えたい。

方形周溝墓

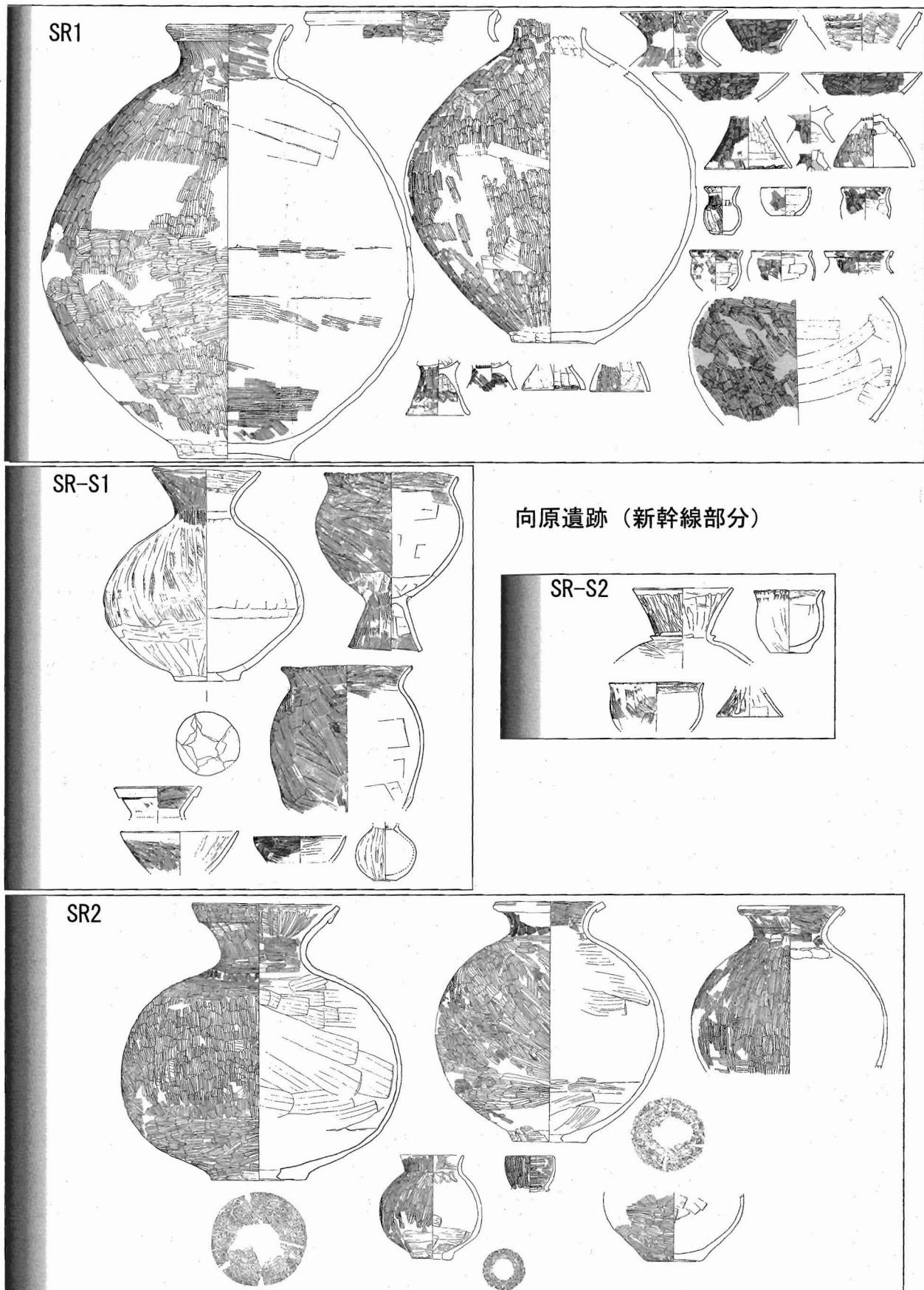
戸崎前遺跡では、住居跡の切りあいや焼失家屋の状況などから3段階に区分した。向原遺跡・戸崎前遺跡が薬師堂根遺跡と異なるのは、埋葬施設である方形周溝墓を構築していることである。

①戸崎前遺跡第1号方形周溝墓と向原遺跡第1号方形周溝墓の大型壺はよく似ている。ほぼ同じ段階であろう。また、両者からは縄文施文土器や押しつぶしたような隆帯をめぐらした土器が出土している。この時期については戸崎前2期とした。図示した戸崎前遺跡第82号住居跡と同時期と推定したい。

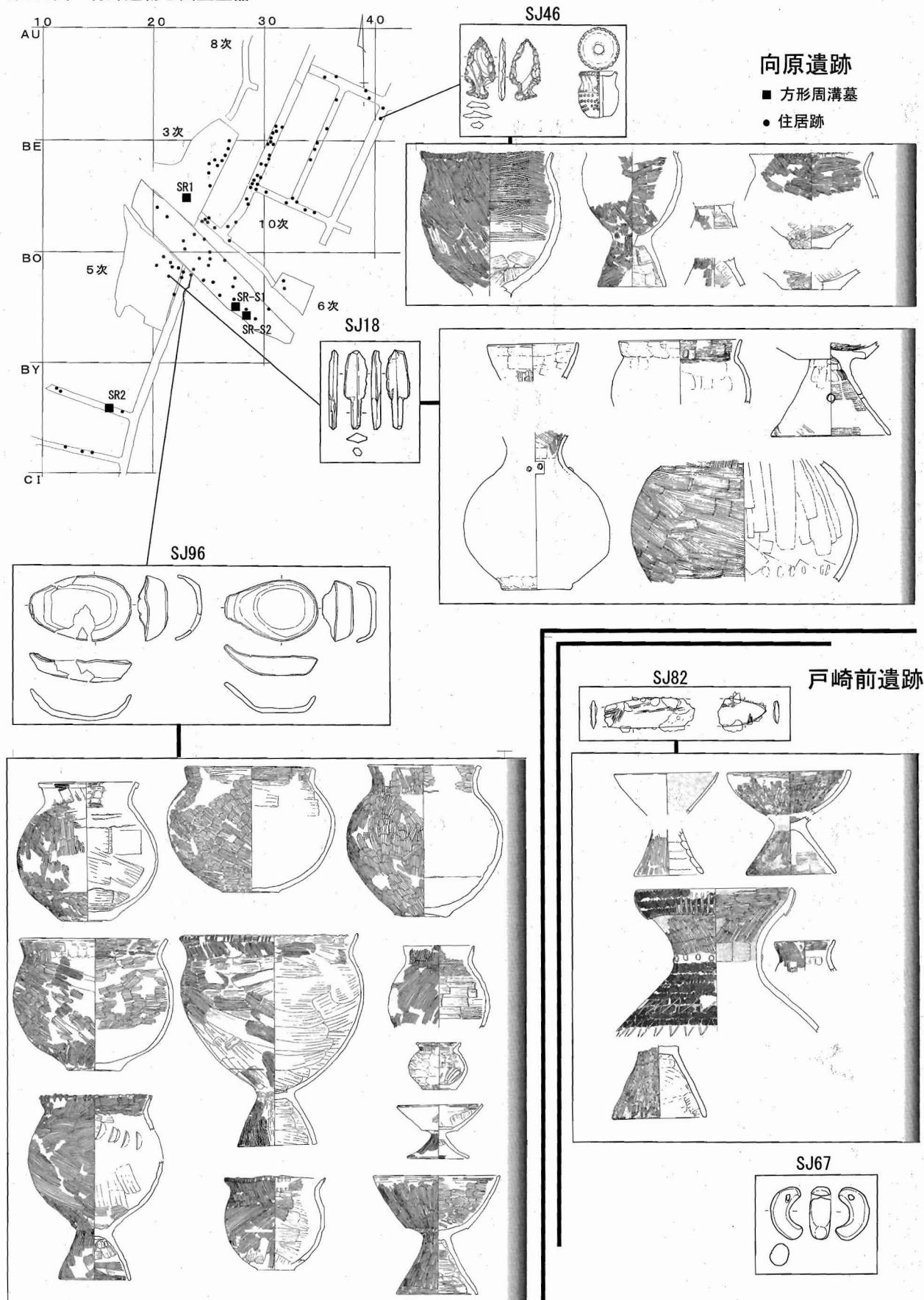
第131図 戸崎前遺跡方形周溝墓出土土器



第132図 向原遺跡方形周溝墓出土土器



第133図 特殊遺物と出土土器



②戸崎前遺跡第1号方形周溝墓と向原遺跡第82号住居跡の広口壺は共通している。

③向原遺跡第2号方形周溝墓には唯一櫛描文が描かれる大形壺がある。内彎する小形壺を含めて東海地方の影響が認められる。

④向原遺跡（新幹線部分）第2号方形周溝墓からは三角形の突帯文が配置された壺が出土している。

⑤向原遺跡（新幹線部分）第1号方形周溝墓と向原遺跡第1号方形周溝墓からは、ほぼ同じ単口縁壺が出土している。

以上、5基の方形周溝墓出土土器からはさまざまな要素が指摘される。向原遺跡第2号方形周溝墓などがわずかに古い気がするが、積極的な時期差を指摘するのは難しい。無論、集落跡の住居跡と組み合わせて再構築をしなければならない。

特殊遺物と伴出土器

向原遺跡からは、銅鏡や石鏡など特殊な祭器が住居跡から出土した。これらは、土器を編年することとは違った意味を持つ。第133図にそれらの遺物と伴出した土器を表示した。特徴を記す。

①第16号住居跡からは銅鏡が出土した。伴出した土器は、ボタン状突起が対で貼り付けられたなで肩の壺である。高坏（または飾り器台）は体部下半で屈曲するタイプのもので台部に孔が開けられる。

②第46号住居跡からは北からの影響が認められた。石鏡は「アメリカ式石鏡」と呼ばれるタイプであろう。中央に貫通孔があるミニチュア土器は、器形といい文様帶の配置といい東関東の弥生後期土器によく似ている。伴出する土器は台付甕で他の向原遺跡住居跡出土時と大きな変化はない。

③第96号住居跡からは、スプーン形土製品（舟形土製品）が2個出土した。伴出する土器は台坏甕、広口壺、高坏などである。高坏は下半が屈曲して稜をもつ。在地のものであるがモデルは、東海地方のものであろう。

④戸崎前遺跡第82号住居跡からは鉄製品の破片（刀子？）が出土した。伴出した土器は縄文・ボタン状

貼り付け文を持つ奥東京湾・千葉方面の飾り壺である。

⑤戸崎前遺跡第67号住居跡からは土製の勾玉が出土した。

以上、2つの要素について簡単にまとめた。これらは、もちろん単独で各地の類例を集成することも重要であるが、伴出する土器などとリンクさせて比較検討することも必要である。課題ばかり述べたが、今後各要素ごとに整理してバランスの取れた集落や土器の様子を描いてみたい。

（2）古墳時代前期の土器胎土について

向原遺跡の土器に「土器細破片」が混入されていると記載された最初は、「新幹線」の発掘調査報文の観察表であった。その後、書上が「稻荷台遺跡」での観察表にも同様のことを記載した。

向原遺跡で土器に関する記述から拾ってみると以下のようになる。

- ①向原遺跡（新幹線関係）（大和ほか）「淡褐色粒（土器細粒か）」
- ②薬師堂根遺跡（水口）「褐色粒子」
- ③戸崎前遺跡Ⅱ（橋本）「B 2 褐色粒子を多く含む」
- ④向原遺跡（橋本）「B 2 褐色粒子を多く含む」
- ⑤向原遺跡Ⅱ（橋本）（今回報告）「B 4 土器破碎粒を含む」（分類基準には「B 2 褐色粒子を多く含む」があるが実質的にはB 4 に置き替わっている。）

これらを詳しく観察してみた。実測した個体についてルーペで観察し、デジタルカメラで接写した。結論を言うと向原遺跡の最初に観察されたように、土器を破碎して土器に混ぜ込んでいるという観察結果になった。混和材として利用したものであろう。代表的なものを巻頭カラーに掲載した。よく見て取れることと思う。

土器を作る際に、破碎した土器を再利用することにどのような意味があるのだろうか。有効性が確定できるかは今後の課題としたい。

現代、さまざまなゴミの再利用が計られている。筆者の知る限りこの辺が再利用の初元であろう。

写 真 図 版



第9次調査全景（1）



第9次調査全景（2）



第241号土壤（第8図）



第9次ローム層基本土層



第10次調査航空写真（1）



第10次調査航空写真（2）



第10次調査全景（1）



第10次調査全景（2）



第10次調査全景（3）



第10次調査全景（4）



第10次調査全景（5）



第10次調査南側攪乱部分



第11次調査全景（1）



第11次調査全景（2）



第11次調査全景（3）



第11次調査全景（4）



第43号住居跡（第14図）



第44号住居跡（第15図）



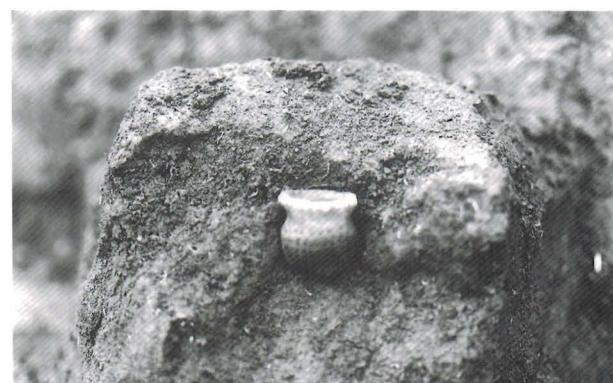
第45号住居跡（第16図）



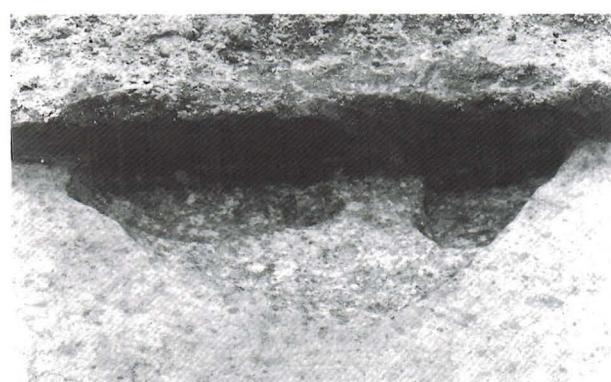
第46号住所跡（第17・18図）



第46号住居跡・遺物（アメリカ式石鎌）（第17図）



第46号住居跡・遺物（ミニチュア土器）（第17図）



第47号住居跡（第19図）



第48号住居跡（第20図）



第49号住居跡（第21図）



第49号住居跡・遺物（第21図）



第51号住居跡（第23図）



第52号住居跡（第24図）



第53号住居跡（第25図）



第54号住居跡（第26図）



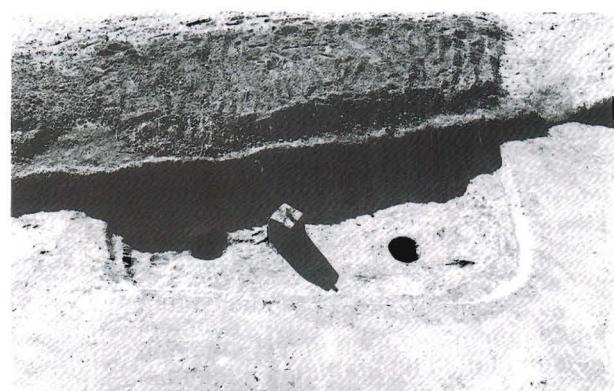
第55号住居跡（第27図）



第56号住居跡（第28図）



第59号住居跡（第31図）



第59号住居跡・掘り方（第32図）



第59号住居跡・遺物（第31図）



第60号住居跡（第33図）



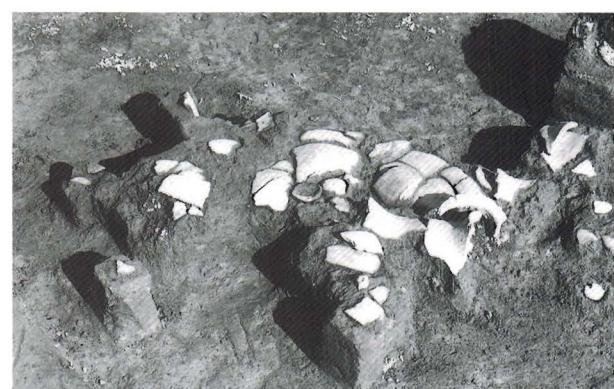
第61号住居跡（第34図）



第62号住居跡（第36図）



第62号住居跡・炭化材（第35図）



第62号住居跡・遺物（第35図）



第63号住居跡（第37図）



第64～66号住居跡（第38・39図）



第67号住居跡（第40図）



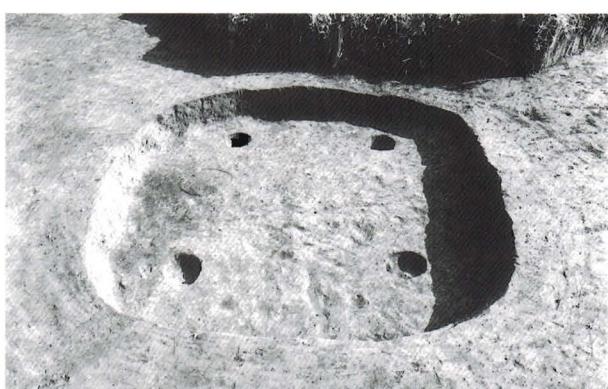
第69号住居跡（第42図）



第70号住居跡（第43図）



第71号住居跡（第44図）



第72号住居跡（第45図）



第73号住居跡（第46図）



第74号住居跡（第47図）



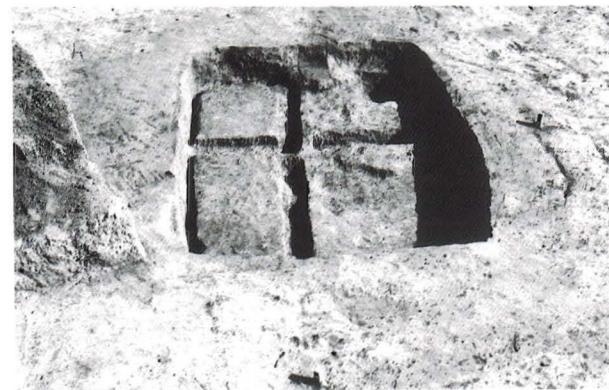
第74号住居跡・遺物（1）（第47図）



第74号住居跡・遺物（2）（第47図）



第75号住居跡（第48図）



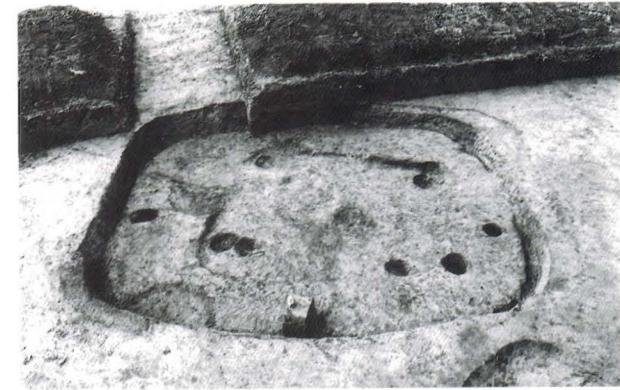
第76号住居跡（第49図）



第76号住居跡・遺物（第49図）



第76号住居跡・カマド（第50図）



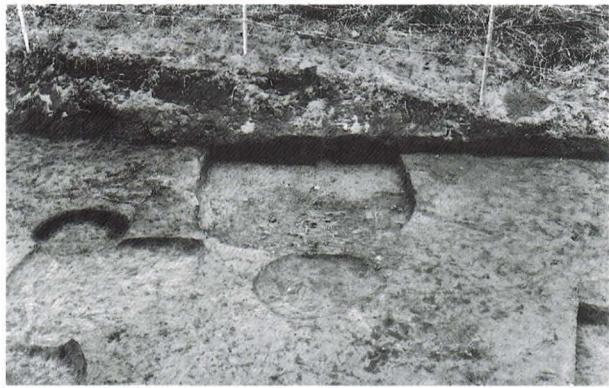
第77・78号住居跡（第51図）



第79号住居跡（第52図）



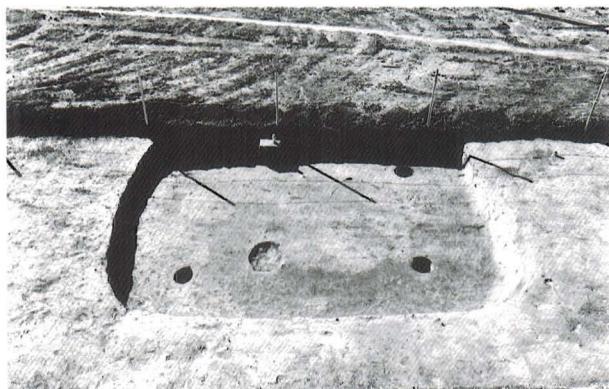
第80号住居跡（第53図）



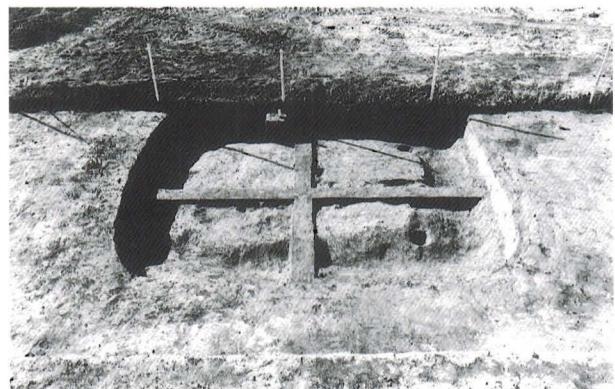
第81号住居跡（第54図）



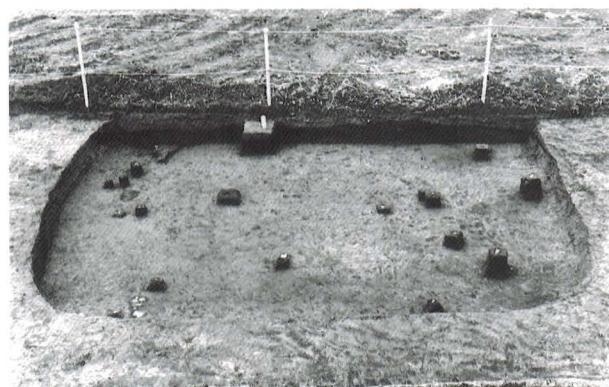
第82号住居跡（第55図）



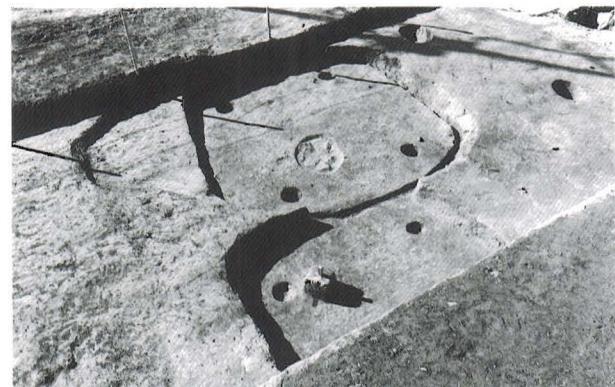
第83号住居跡（第56図）



第83号住居跡・掘り方（第57図）



第83号住居跡・遺物（第56図）



第84~87号住居跡（第59図）



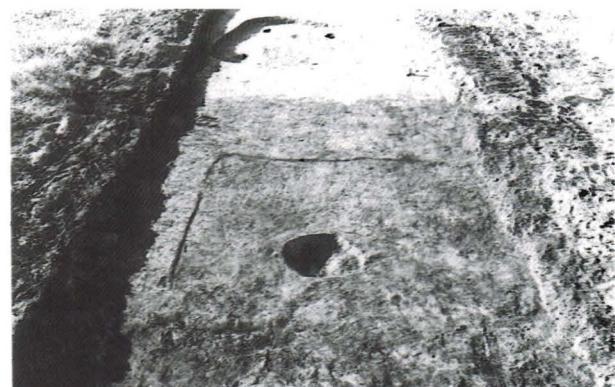
第85・87号住居跡・遺物（第58図）



第85号住居跡・遺物（1）（第58図）



第85号住居跡・遺物（2）（第58図）



第88号住居跡（第61図）



第89号住居跡（第62図）



第12号石器集中（第13図）



第406号土壤（第65図）



第407号土壤（第65図）



第412号土壤（第66図）



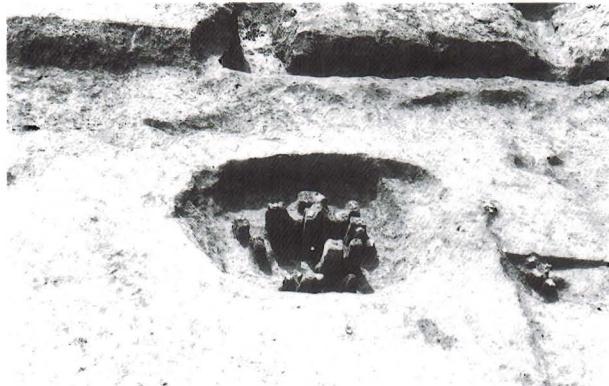
第413・414号土壤（第66図）



第422号土壤（第68図）



第424号土壤（第68図）



第467号土壤（第70図）



第469号土壤（第70図）



第473～475号土壤（第72図）



第477号土壤（第72図）



第21号炉穴（第73図）



第22号炉穴（第73図）



第2号小竪穴（第74図）



第3号小竪穴（第75図）



第4号小竪穴（第76図）



第5号小竪穴（第77図）



第7号掘立柱建物跡（第78図）



第9号掘立柱建物跡（第80図）



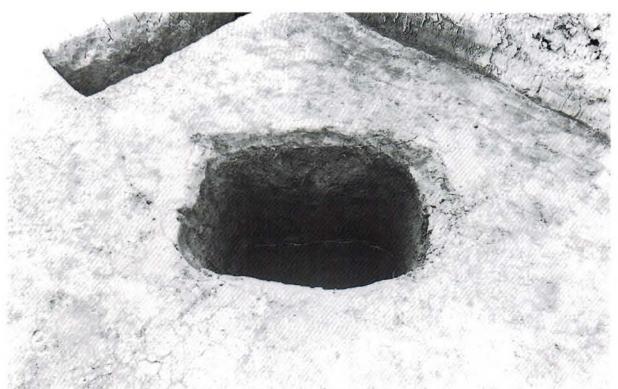
第7号井戸（第82図）



第8号井戸（第82図）



第9号井戸（第82図）



第11号井戸（第82図）



第12号井戸（第82図）



第159・160号溝（第83図・第84図・第86図）



第161・162号溝（第86図）



第166・167号溝（第86図・第87図）



第169号溝（第86図・第87図）



第184号溝（第88図・第89図）



第185・190号溝（第88図・第89図）



第188・189号溝（第88図・第89図）



第197号溝（第88図）



第90号住居跡（第95図）



第90号住居跡・遺物（第95図）



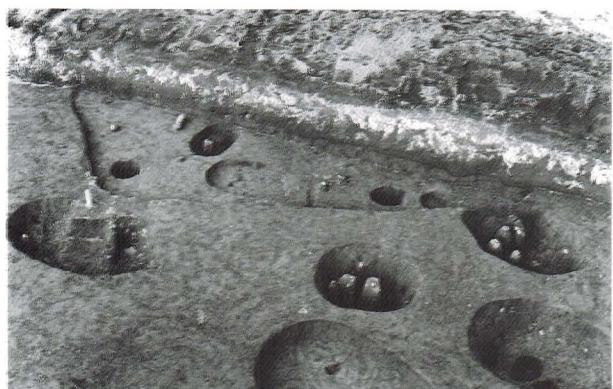
第91号住居跡（第96図）



第91号住居跡・炉（第96図）



第92号住居跡（第98図）



第93号住居跡（第99図）



第95号住居跡（第101図）



第96号住居跡（第102図）



第96号住居跡・遺物（1）（第102図）



第96号住居跡・遺物（2）（第102図）



第11次調査土壤群（1）



第11次調査土壤群（2）



第11次調査土壤群（3）



第506号土壤（第106図）



第507号土壤（第106図）



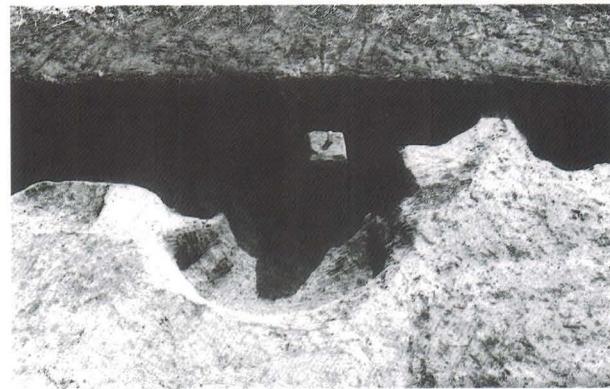
第528号土壤（第108図）



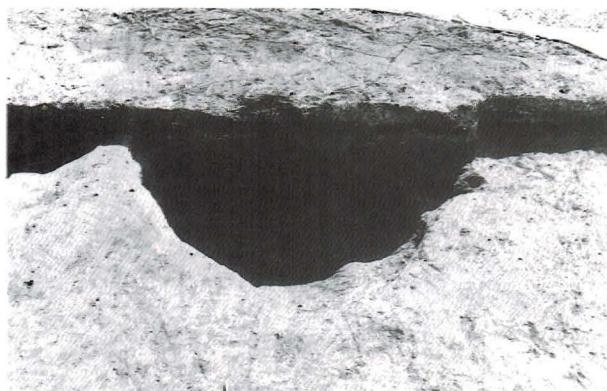
第532号土壤（第109図）



第1号地下式坑（第117図）



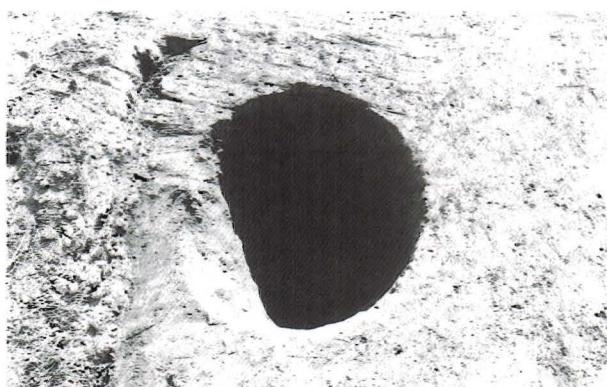
第2号地下式坑（第117図）



第3号地下式坑（第117図）



第4号地下式坑（第117図）



第13号井戸（第117図）



第23号炉穴（第118図）



第24・25号炉穴（第118図）



第2号方形周溝墓（第119図）



第2号方形周溝墓・遺物（1）（第119図）



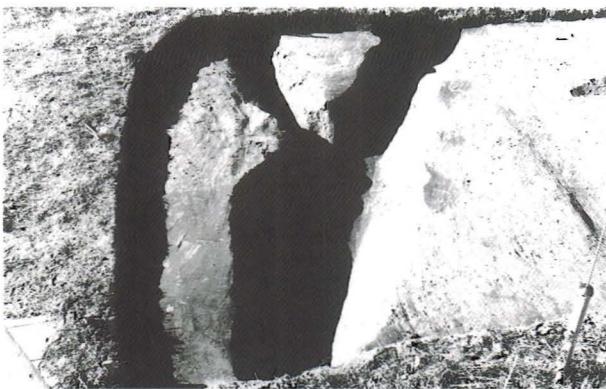
第2号方形周溝墓・遺物（2）（第119図）



第2号方形周溝墓・遺物（3）（第119図）



第202号溝（第121図）



第203・204号溝（第121図・第122図）



第208号溝（第121図・第122図）



第211・213号溝（第121図・第122図）



第214・216号溝（第121図・第122図）



第217号溝（第121図・第122図）



第221号溝（第121図）



第235号土壤・遺物



第46号住居跡・遺物（1）



第46号住居跡・遺物（3）



第46号住居跡・遺物（2）



第46号住居跡・遺物（4）



第46号住居跡・遺物（5）



第59号住居跡・遺物（1）



第59号住居跡・遺物（2）



第59号住居跡・遺物（3）



第62号住居跡・遺物



第76号住居跡・遺物（1）



第76号住居跡・遺物（2）



第85号住居跡・遺物（1）



第85号住居跡・遺物（2）



第85号住居跡・遺物（3）



第85号住居跡・遺物（4）



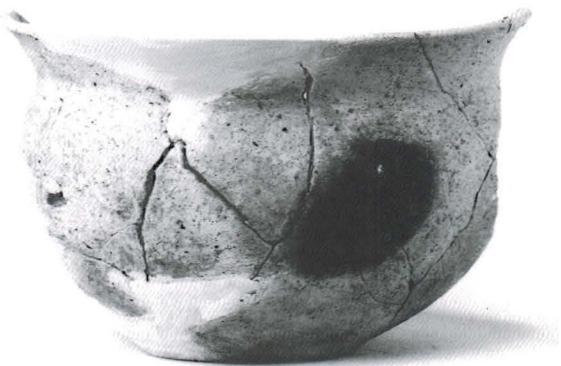
第85号住居跡・遺物（5）



第85号住居跡・遺物（6）



第85号住居跡・遺物（7）



第85号住居跡・遺物（8）



第90号住居跡・遺物（1）



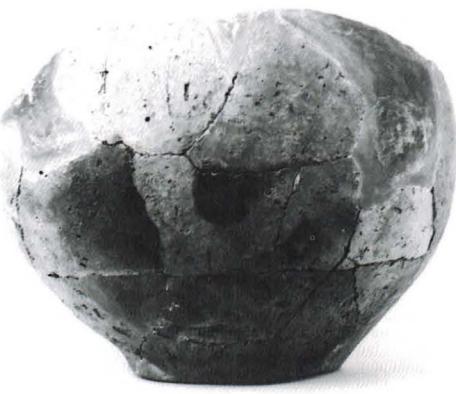
第92号住居跡・遺物



第93号住居跡・遺物



第96号住居跡・遺物（1）



第96号住居跡・遺物（2）



第96号住居跡・遺物（3）



第96号住居跡・遺物（4）



第96号住居跡・遺物（5）



第96号住居跡・遺物（6）



第96号住居跡・遺物（7）



第96号住居跡・遺物（8）



第96号住居跡・遺物（9）



第96号住居跡・遺物（10）



方形周溝墓・遺物（1）



方形周溝墓・遺物（2）



方形周溝墓・遺物（3）



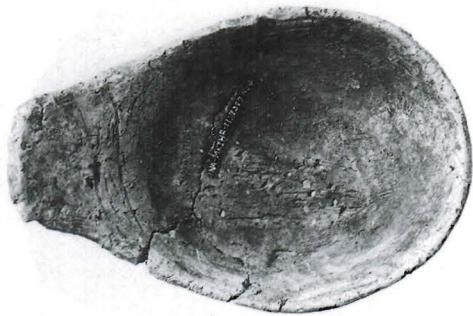
方形周溝墓・遺物（4）



方形周溝墓・遺物（5）



第96号住居跡・遺物（11）



第96号住居跡・遺物（12）



第96号住居跡・遺物（13）



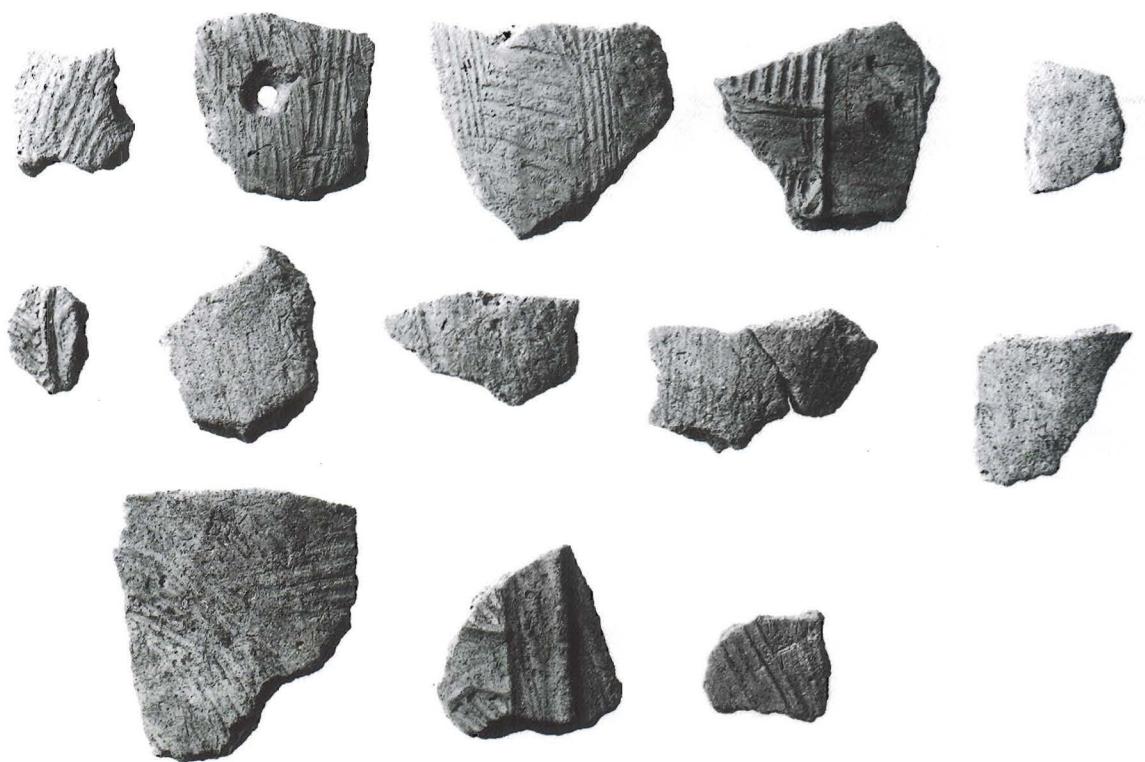
第96号住居跡・遺物（14）



第21号炉穴・遺物



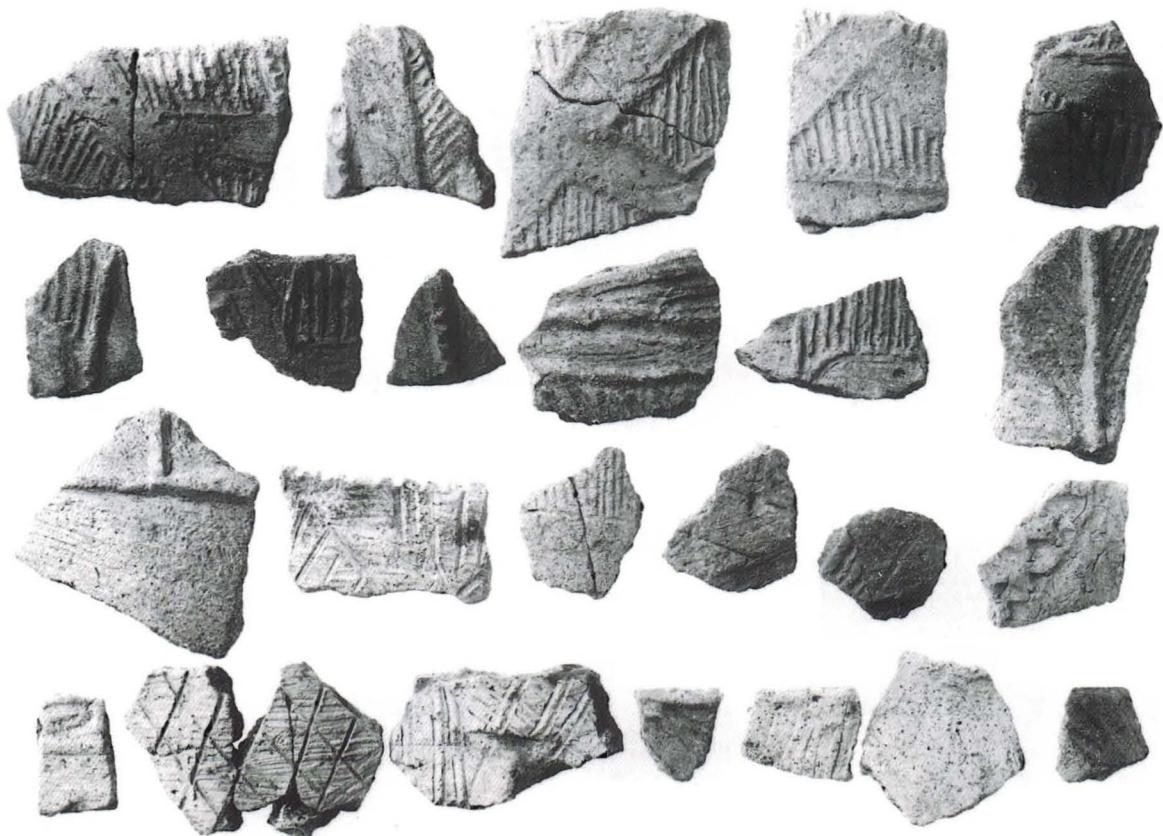
第93・94号住居跡・遺物



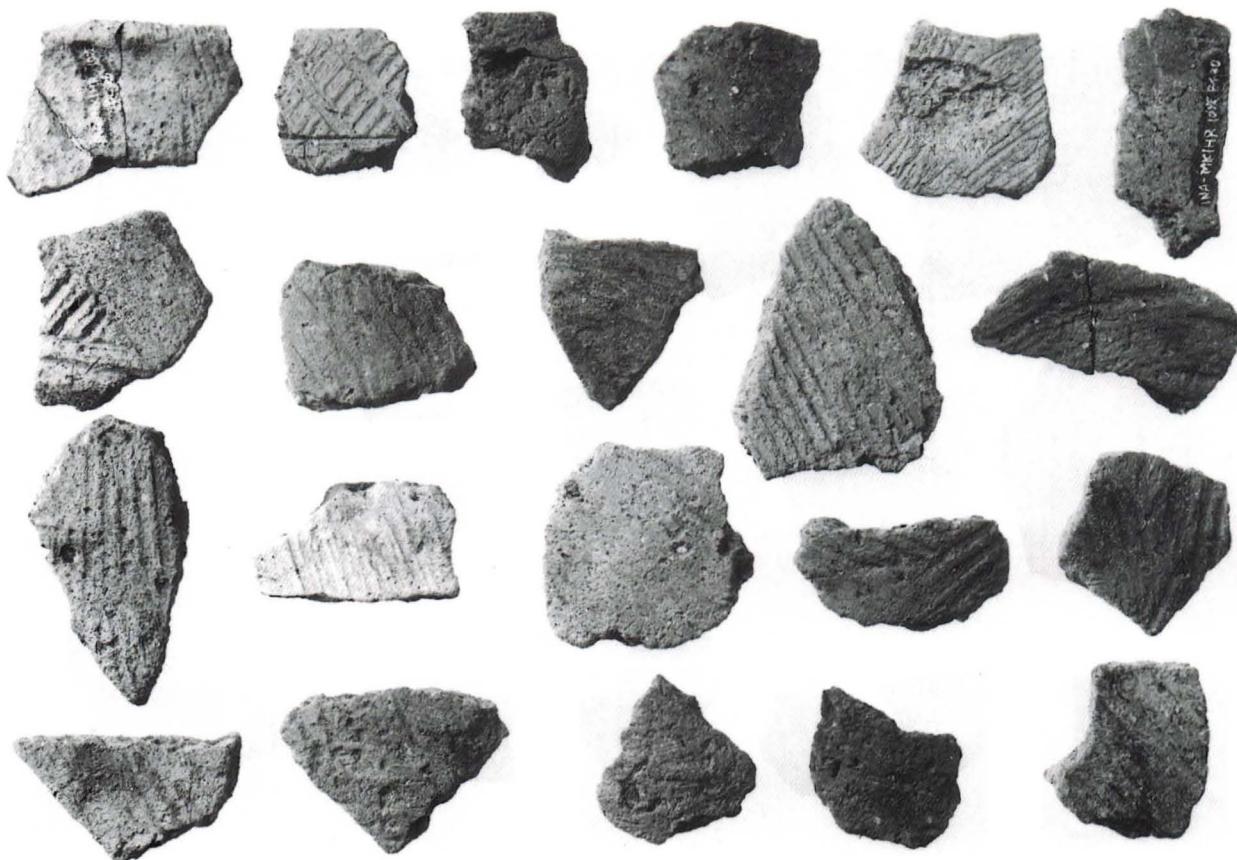
第524・526・527・529土壤・遺物



第528・531・532・533・535土壤・遺物



第11次調査グリッド・遺物（1）



第11次調査グリッド・遺物（2）

報告書抄録

ふりがな	むかいはらいせき に							
書名	向原遺跡Ⅱ							
副書名	上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告書							
卷次	VII							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第272集							
著者氏名	橋本 勉							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦 2001(平成13)年11月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
むかいはらいせき 向原遺跡	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″				
	さいたまけんきたあだちぐんいな 埼玉県北足立郡伊奈 まちおおあざこはりうちじくあざひい 町大字小針内宿字向 はらばんちほか 原1241-1番地他	11301	68	36°00'59"	139°35'50"	19991201 } 20000324	1,850	区画整理
	さいたまけんきたあだちぐんいな 埼玉県北足立郡伊奈 まちおおあざこはりうちじくあざひい 町大字小針内宿字向 はらばんちほか 原1002番地他	〃	〃			20000701 } 20001228	7,205	〃
さいたまけんきたあだちぐんいな 埼玉県北足立郡伊奈 まちおおあざこはりしんじくあざかじ 町大字小針新宿字梶 かわばんちほか 川1882番地他	〃	〃			20001101 } 20010323	5,875	〃	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
向原遺跡	集落跡	旧石器時代	石器集中	1	石器			
		縄文時代	住居跡 土壙 小豎穴 炉穴	5軒 104基 4基 5基	縄文土器 石器			
		古墳時代前期	住居跡 方形周溝墓	48軒 1基	土師器 土製品			
		平安時代	住居跡	1軒	土師器 須恵器			
		中近世	井戸跡 溝跡 土壙 掘立柱建物跡 地下式坑	7基 110条 273基 4棟 4基	陶磁器 土師器 石製品 古銭			

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第272集

伊奈町

向原遺跡 II

上尾都市計画事業伊奈特定土地地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書

—VII—

平成13年11月12日 印刷

平成13年11月30日 発行

発行／財團法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 大里郡大里村船木台4丁目4番地1

電話 0493（39）3955

印刷／巧和工芸印刷株式会社